

西台畠遺跡第12次調査

—仙台市あすと長町26街区・商業施設建設に伴う発掘調査報告書—

2015年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会

株式会社 山 一 地 所

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちの残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に引き継いでいくことは、これから「まちづくり」に欠かせない大切なことと考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている、「仙台市あすと長町土地区画整理事業」地内で実施された、西台畠遺跡第12次発掘調査の成果をまとめたものです。区画整理事業に伴う発掘調査は平成10年から始まり、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。

西台畠遺跡は、昭和32年、煉瓦工場地内の粘土採掘中に弥生土器が発見され、遺跡の所在が明らかになりました。この時の資料は、弥生時代中期の仙台平野における葬制を考える上で重要な資料となっており、学史的にも注目される遺跡であります。今回の調査地点は、西台畠遺跡の南西部にあたり、竪穴住居跡が密集して確認されましたが、特に古墳時代前期の住居跡がまとまって確認されることから、集落の初現がこの時期にあることが明らかになりました。

ここに報告する調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、特に事業者である株式会社山一地所様には、発掘調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただきました。

最後になりましたが、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、4年の月日が過ぎました。仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ仙台～3・11からの再生～」を掲げて復興計画を進めてまいりました。そうした中、発掘調査及び調査報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成27年3月

仙台市教育委員会
教育長 上田昌孝

例　　言

1. 本書は、仙台市あすと長町26街区地内の商業施設建設に伴う西台畠遺跡第12次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 工藤 信一郎、水野 一夫の監理の下、遺物整理から本書の編集に至るまでの作業を株式会社シン技術コンサルが担当した。
4. 本書の執筆・図版作成は、第1・3章を工藤 信一郎、第2・4～6章を小林 朋恵（株式会社シン技術コンサル）が担当した。また、遺物写真撮影は山際 恒章（株式会社シン技術コンサル）、編集は小林が担当し、坂本 勝一・大和 律子（株式会社シン技術コンサル）の協力を得た。
5. 石器・石製品の石材の同定については、相澤 正信・倉石 広太（株式会社シン技術コンサル）が行った。
6. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 第1・2図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1:10,000、「仙台」1:25,000を使用した。
2. 遺構図中の座標値は、日本測地系「平面直角座標第X系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。
3. 本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2005年版(農林水産省農林水産技術會議事務局監修)を使用した。
4. 断面図中の数値は、海拔高度(T・P)を示す。
5. 調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。
SA：一本柱列跡 SD：溝跡 SI：竪穴住居跡 SK：土坑 SX：性格不明遺構 Pit：ピット
6. 竪穴住居跡における主軸方位の算出および壁面呼称の基準については、『西台畠遺跡第1・2次調査』(仙台市教育委員会 2010)に準じた。
7. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外については、個別に凡例を図中に示した。



8. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたりKのあとに小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。
B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ調整） D：土師器（ロクロ調整） E：須恵器
Ka：打製石器 Kb：磨製石器 Kc：砾石器 Kd：石製品 N：金属製品 P：土製品
9. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。
10. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、『西台畠遺跡第1・2次調査』(前掲)に準じた。
11. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畠遺跡第1・2次調査』(前掲)に準じた。
12. 土器の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に付した。



13. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



節理



敲打痕

14. 土器・石器・石製品を除く遺物実測図に使用したスクリーントーンについては、そのつど図中に示した。

15. 遺構・遺物の観察表内における（）付きの計測値は、土器類の各径については推定値、その他については残存値を示す。

16. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。

17. 本書で用いた時期区分は、『西台畠遺跡第4・5・7次調査』（仙台市教育委員会 2013）に概ね準じた。第12次調査で遺構・遺物が検出された時期を、下記に記す。

2期：弥生時代中期中葉段階

3期：古墳時代前期（塩釜式期）

4a期：古墳時代後期、6世紀末葉（住社式期新段階）

4b期：古墳時代終末期、7世紀初頭～前葉（栗圓式期）

5a期：古墳時代終末期、7世紀中葉～後葉（郡山Ⅰ期官衙期）

5bi期：古墳時代終末期、7世紀末葉～8世紀初頭（郡山Ⅱ期官衙期）

5bii期：奈良時代、8世紀前葉（郡山Ⅲ期官衙期以降）

18. 本書で用いた「栗圓式期」の時期、4～5期の時代名称、「関東系土師器」の名称については、『西台畠遺跡第4・5・7次調査』（前掲）に準じた。

目 次

序文

例言

凡例

第1章 調査に至る経過	1
第1節 調査事由	1
第2節 調査要項	1
(1) 調査体制	1
(2) 整理体制	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 西台畠遺跡の立地と地形	3
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第3章 調査の方法と概要	6
第1節 調査区とグリッドの設定	6
第2節 調査概要	6
(1) 調査経過	6
(2) 測量基準・図面の作成	7
(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成	7
(4) 遺構登録番号	7
(5) 調査報告書作成作業	7
第4章 基本層序	8
第5章 検出遺構と出土遺物	12
第1節 古墳時代後期～古代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴住居跡	12
(2) 一本柱列跡	62
(3) 溝跡	63
(4) 土坑	66
(5) ピット	69
(6) 性格不明遺構	73
(7) 遺構外出土遺物	74
第2節 古墳時代前期の遺構と遺物	75
(1) 竪穴住居跡	75
(2) 土坑	86
(3) ピット	87
(4) 性格不明遺構	88
第3節 弥生時代の遺構と遺物	89
(1) 土坑	92
(2) ピット	93

(3) B レンチ出土遺物	93
(4) グリッド出土遺物	97
第6章 総括	99
第1節 各時期の特徴	99
(1) 弓生時代	99
(2) 古墳時代前期	99
(3) 古墳時代後期～古代	100
第2節まとめ	107

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 西台畠遺跡の位置と第12次調査地点	2	第27図 SI222 竪穴住居跡出土遺物	34
第2図 西台畠遺跡と周辺の遺跡	5	第28図 SI223 竪穴住居跡	35
第3図 西台畠遺跡第12次調査区と 周辺の調査区	6	第29図 SI223 竪穴住居跡出土遺物	36
第4図 グリッド配置図	7	第30図 SI224 竪穴住居跡	37
第5図 基本順序柱状図	9	第31図 SI224 竪穴住居跡出土遺物	38
第6図 基本順序(1)	10	第32図 SI225 竪穴住居跡(1)	40
第7図 基本順序(2)	11	第33図 SI225 竪穴住居跡(2)	41
第8図 古墳時代後期～古代遺構配置図	13	第34図 SI225 竪穴住居跡(3) ・出土遺物(1)	42
第9図 SI213 竪穴住居跡	14	第35図 SI225 竪穴住居跡出土遺物(2)	43
第10図 SI214 竪穴住居跡	15	第36図 SI225 竪穴住居跡出土遺物(3)	44
第11図 SI214 竪穴住居跡出土遺物	16	第37図 SI226 竪穴住居跡	44
第12図 SI215 竪穴住居跡	17	第38図 SI226 竪穴住居跡出土遺物	45
第13図 SI215 竪穴住居跡出土遺物	18	第39図 SI227 竪穴住居跡・出土遺物	46
第14図 SI216 竪穴住居跡(1)	20	第40図 SI228 竪穴住居跡	47
第15図 SI216 竪穴住居跡(2)	21	第41図 SI229 竪穴住居跡(1)	48
第16図 SI216 竪穴住居跡出土遺物	22	第42図 SI229 竪穴住居跡(2)・出土遺物	49
第17図 SI217 竪穴住居跡(1)	23	第43図 SI230 竪穴住居跡(1)	51
第18図 SI217 竪穴住居跡(2)	24	第44図 SI230 竪穴住居跡(2)	52
第19図 SI217 竪穴住居跡出土遺物	26	第45図 SI230 竪穴住居跡出土遺物	53
第20図 SI218 竪穴住居跡	27	第46図 SI231 竪穴住居跡	54
第21図 SI219 竪穴住居跡	29	第47図 SI232 竪穴住居跡	55
第22図 SI219 竪穴住居跡出土遺物	30	第48図 SI234 竪穴住居跡	56
第23図 SI220 竪穴住居跡	31	第49図 SI235 竪穴住居跡・出土遺物	57
第24図 SI220 竪穴住居跡出土遺物	32	第50図 SI236 竪穴住居跡	57
第25図 SI221 竪穴住居跡	33	第51図 SI237 竪穴住居跡・出土遺物	58
第26図 SI222 竪穴住居跡	33	第52図 SI238 竪穴住居跡	59

第 53 図	SI240 穫穴住居跡	60
第 54 図	SI241 穫穴住居跡	61
第 55 図	SI246 穫穴住居跡	62
第 56 図	SA2 一本柱列跡	63
第 57 図	SD81・113～117 溝跡	65
第 58 図	SD116 溝跡出土遺物	66
第 59 図	SK205～211・214・ 216～218 土坑	68
第 60 図	SK207 土坑出土遺物	69
第 61 図	ピット（古墳時代後期～古代）	70
第 62 図	SX1 性格不明遺構	74
第 63 図	遺構外出土遺物	74
第 64 図	古墳時代前期遺構配置図	76
第 65 図	SI233 穫穴住居跡	77
第 66 図	SI233 穫穴住居跡出土遺物	78
第 67 図	SI239 穫穴住居跡	79
第 68 図	SI239 穫穴住居跡出土遺物	80
第 69 図	SI244 穫穴住居跡・出土遺物	81
第 70 図	SI245 穫穴住居跡	82
第 71 図	SI247 穫穴住居跡	84
第 72 図	SI250 穫穴住居跡・出土遺物	85
第 73 図	SK213・215 土坑・出土遺物	86
第 74 図	Pit95・100 ピット・出土遺物	88
第 75 図	SX2 性格不明遺構	89
第 76 図	弥生時代遺構配置図	89
第 77 図	A トレチ土坑配置図、 弥生時代土坑・ピット断面図	90
第 78 図	B トレチ土坑・ピット配置図	91
第 79 図	弥生時代遺物出土状況	94
第 80 図	B トレチ出土弥生土器（1）	95
第 81 図	B トレチ出土弥生土器（2）	96
第 82 図	B トレチ・5 グリッド出土石器	98
第 83 図	出土土器集成（2b期、3期）	101
第 84 図	竪穴住居跡重複関係模式図	103
第 85 図	出土土器集成（4a～5a期）	104
第 86 図	出土土器集成（5a～5ii期）	105

写真図版目次

- 写真図版 1 調査区遠景、古墳時代後期～古代 全景
- 写真図版 2 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（1）
- 写真図版 3 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（2）
- 写真図版 4 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（3）
- 写真図版 5 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（4）
- 写真図版 6 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（5）
- 写真図版 7 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（6）
- 写真図版 8 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（7）
- 写真図版 9 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（8）
- 写真図版10 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（9）
- 写真図版11 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡（10）
- 写真図版12 古墳時代後期～古代 一本柱列跡
- 写真図版13 古墳時代後期～古代 溝跡
- 写真図版14 古墳時代後期～古代 土坑・性格不明遺構、
古墳時代前期 竪穴住居跡（1）
- 写真図版15 古墳時代前期 竪穴住居跡（2）
- 写真図版16 古墳時代前期 土坑・ピット・性格不明
遺構
- 写真図版17 下層調査（1）
- 写真図版18 下層調査（2）
- 写真図版19 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡出土
遺物（1）
- 写真図版20 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡出土
遺物（2）
- 写真図版21 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡出土
遺物（3）
- 写真図版22 古墳時代後期～古代 竪穴住居跡・溝跡・
土坑出土遺物、古墳時代前期 竪穴住居
跡出土遺物（1）
- 写真図版23 古墳時代前期 竪穴住居跡出土遺物（2）、
下層調査B トレチ出土遺物（1）
- 写真図版24 下層調査B トレチ出土遺物（2）、
グリッド出土遺物

第1章 調査に至る経過

第1節 調査事由（第1図）

仙台市南部の長町地区では、旧国鉄長町貨物ヤード跡地一带に計画された副都心整備事業である「仙台市あすと長町土地区画整理事業」の施行に伴い、事業地内に所在する長町駅東遺跡・西台畠遺跡及び郡山遺跡の一部を対象として、平成10年から現在まで継続して発掘調査が行われ、7世紀中頃から8世紀初めの時期を中心とする堅穴住跡が総数600軒以上発見されている。

また、区画整理事業とは別に、郡山遺跡では、昭和54年以来継続して発掘調査が行われ、陸奥国府である多賀城に先行する2時期の官衙（1期官衙→II期官衙）があったことが明らかになっている。

今回の西台畠遺跡第12次調査は、あすと長町土地区画整理事業地内26街区において株式会社山一地所により計画された商業施設建設に伴い、平成26年3月19日付けで仙台市教育委員会に事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて協議書が提出されたことに始まる。開発地は西台畠遺跡の南西部にあたり、平成24年に、同じ敷地内で、山一地所による建築計画により行われた第8次調査区の北西に隣接している。第8次調査終了後、平成25年度に入り、事業者から建築計画の変更の可能性と、その場合の発掘調査の実施について問合せがあり、その後いくつかの建築計画に基づいた協議を続けていたが、最終的な建築計画が固まつたことから協議書の提出となつた。

教育委員会と事業者の協議の結果、発掘調査については、前回第8次調査の未調査範囲に計画された建物部分を対象に実施することになった。

第2節 調査要項

遺跡名：西台畠遺跡（宮城県遺跡地名番号01005 仙台市登録番号 C-105）

所在地：仙台市太白区あすと長町四丁目3-1・2・3・4・5

調査原因：商業施設建設に伴う発掘調査

（1）調査体制

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

主任 工藤信一郎 主事 水野一夫

調査組織：株式会社シン技術コンサル

調査員 小林朋恵 調査補助員 小林一弘

調査期間：平成26年（2014年）5月28日～9月5日

調査面積：610m²

（2）整理体制

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

主任 工藤信一郎 主事 水野一夫

整理組織：株式会社シン技術コンサル

調査員 小林朋恵 調査補助員 小林一弘

調査期間：平成26年（2014年）9月8日～平成27年（2015年）3月20日



第1図 西台烟遺跡の位置と第12次調査地点

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 西台畠遺跡の立地と地形（第1・2図）

西台畠遺跡（1）は仙台市南東部、太白区郡山二丁目付近に拡がる遺跡である。周辺の地形は、遺跡の北方及び南方にそれぞれ東流する広瀬川・名取川の変流によって形成された自然堤防や後背湿地が入り組む「郡山低地」と称されるものであり、本遺跡は標高11m前後の自然堤防上に立地している。

西台畠遺跡は、昭和32（1957）年の煉瓦工場の粘土採掘中に弥生土器が発見されたことを契機として登録された遺跡であり、弥生時代中期の土器編年や葬制を考える上で学史的に注目されてきた。その後、昭和57（1982）年に病院建設に伴う調査が実施され、広瀬川と考えられる河川跡が検出されている。さらに平成10（1998）年から区画整理事業の施行に伴い現在までに第1～12次調査が実施されており、縄文～近世までの遺構・遺物が検出されている。今回の第12次調査地点は、遺跡の中央西に位置し、北側に第7次調査区、南側に第8次調査区がそれぞれ隣接する。本遺跡の東側には平成18（2006）年7月に「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山寺跡」として国史跡の指定を受けた郡山遺跡（2）、南西側には長町駅東遺跡（3）が隣接している。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境（第2図）

西台畠遺跡周辺には、旧石器時代から近代にかけての遺跡が数多く分布しており、ここでは広瀬川及び名取川下流域、特に郡山低地を中心概観する。なお、周辺の遺跡と歴史的環境の詳細については、「西台畠遺跡第1・2次調査」（仙台市教委2010年）を参照していただきたい。

旧石器時代 富沢遺跡（5）で約2万年前の後期旧石器時代の湿地林とともに焚火跡や石器が発見されている。氷河時代の自然環境と人類の生活跡が同時に発見された遺跡は世界的にも希少であり、現在は仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）として保存公開されている。

縄文時代 筏川流域の自然堤防上に多くの遺跡が確認されている。早期には低地への進出が始まり、下ノ内浦遺跡（8）では早期の竪穴住居跡が検出されている。前期から中期にかけては、富沢一帯が沼湿地化により人々の生活圏は上流域の丘陵地に移ったと考えられ、低地での活動痕跡が希薄となる。中期末から後期になると、再び低地における遺跡数が増加する。下ノ内浦遺跡（13）では中期末葉の敷石住居跡、下ノ内浦遺跡・大野田遺跡（10）では後期前半の配石遺構などが検出されている。後期後葉から晩期にかけては低地への進出が一段と進み、郡山遺跡では土坑状の遺構と後期後葉の土器が出土しているほか、西台畠遺跡でも縄文時代後期から晩期の遺物が遺物包含層から出土している。

弥生時代 前期は調査事例が少なく詳細は不明だが、郡山遺跡から前期前半の土器が出土しており注目される。中期以降については郡山低地で多くの遺跡から水田跡が検出されているほか、当時の集落景観や生活様式を窺い知ることができる遺構・遺物が報告されている。富沢遺跡では中期前半から後期にかけての水田跡と共に木製農耕具が出土しているほか、長町駅東遺跡では中期中葉の水田跡や水路跡、竪穴住居跡、土器埋設遺構、土坑墓などが検出されている。このほか、西台畠遺跡で中期の土坑墓と土器埋設遺構、南小泉遺跡（29）で中期の土器埋設遺構、下ノ内浦遺跡で後期の土坑墓と土器埋設遺構が検出されている。

古墳時代 前期末頃になると広瀬川の北側に当地域の首長墓としては最古の前方後円墳である遠見塚古墳（28）が造られ、その周囲に広がる南小泉遺跡では前期から終末期にかけての大規模な集落跡が確認されている。中期後半以降は郡山低地でも数多くの古墳が造られるようになり、兜塚古墳（32）・一塚古墳（33）・二塚古墳（34）・砂押古墳（35）などが造営されている。名取川の北側に拡がる大野田古墳群（43）は、中型の帆立貝形古墳である鳥居塚古墳（15）や春日社古墳（44）を中心とし、中期後半から後期にかけて造墓活動が行われている。近年

調査された春日社古墳からは、2基の埋葬施設が検出され、革盾や鉄矛、鉄鎌などが出土している。西台畠遺跡では、古墳時代前期の竪穴住居跡が検出されているが、続く中期については遺構・遺物は発見されておらず、後期になると再び集落が営まれ始めⅠ期官衙の造営を契機に活発化する。

古代 郡山遺跡は7世紀中頃から8世紀前葉にかけての官衙であり、「Ⅰ期官衙」と「Ⅱ期官衙」の2時期の変遷が確認されている。Ⅰ期官衙は、7世紀中頃から末葉にかけて造られた古代陸奥国の大國に開いた重要な柵跡である。Ⅱ期官衙は、多賀城創建以前の陸奥国府跡と考えられ付属寺院（郡山廃寺）が併設されており、二重に巡る外溝の一辺の長さが藤原京の条坊区画線の1単位分と同等になることが指摘されており、藤原京造営時の設計思想が関わっていたと考えられている。郡山遺跡に隣接する西台畠遺跡と長町駅東遺跡は、郡山遺跡における官衙の造営・運営に関連する集落跡と考えられ、その盛衰は官衙と連動しており多賀城成立以降の遺構・遺物の検出は激減する。長町駅東遺跡では、これまでに多数の竪穴住居跡が検出されており、集落の北側では官衙成立以前に一本柱列による区画施設が造られ、官衙期に通路状遺構を伴う大溝跡と材木列による区画施設に造り替えが行われている。郡山遺跡の南西約1.5kmにある大野田官衙遺跡（42）では、真北方向を軸とする掘立柱建物跡6棟と建物群を区画する大溝が検出され、出土土器の年代幅や建物配置などから郡山遺跡Ⅱ期官衙に関連する官衙跡と考えられている。大年寺山周辺には、愛宕山横穴墓群（37）、大年寺山横穴墓群（38）、宗禪寺横穴墓群（39）、茂ヶ崎横穴墓群（40）などが造られ、その多くは副葬品などの出土遺物から郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙との関連が指摘されている。このほか、富沢遺跡や山口遺跡（7）からは真北方向を基準とした水田跡が確認されており、条里制地割との関わりが推定されている。

中世 中世になると郡山低地では、交通の要衝に大規模な屋敷や城館が造られるようになる。王ノ壇遺跡（16）では、堀跡に囲まれた鎌倉時代の武士層の屋敷跡や阿弥陀堂と推定される仏堂跡などが検出されているほか、中世の基幹道路である奥大道と推定されている波板状遺構と側溝を伴う路幅2.8～4.2mの道路跡が検出されている。富沢遺跡では、13～17世紀初頭の堀跡に囲まれた屋敷跡や水田跡が検出されており、上層農民から領主クラスの屋敷跡の存在が考えられている。南小泉遺跡では、大規模な堀と土塁を伴う城館跡を中心として、周辺に方形の屋敷を構えた中世村落の景観が復元されている。北目城跡（4）は、戦国時代に仙台市南東部から名取市北部にかけて勢力を奮った栗原大膳の居城で、関ヶ原の合戦の際に伊達政宗が拠点とし、仙台城の完成まで居住したとされている。西台畠遺跡では、遺構に伴う遺物の出土が少ないことから詳細は不明であるが、竪穴状遺構や掘立柱建物跡、井戸跡、中世屋敷区画溝としての性格が考えられる溝跡が検出されていることから、何れかの段階で居住区が形成されていた可能性が考えられている。

近世 奥州街道沿いに位置する長町は、宿駅として機能していたことが知られている。『名取郡北方根岸村・平岡村入会絵図』にみられる長町宿の景観は、街道の両側に屋敷を計画的に配置し、宿駅全体を囲うかたちで居久根が見受けられる。また、広瀬川の北方にある若林城跡（30）は、土塁と幅約20mの堀で囲まれた平城で周囲に城下町が形成されており、伊達政宗が晩年を過ごしたとされる。南小泉遺跡では、若林城下町の武家屋敷跡と考えられる遺構が検出されている。若林城は政宗没後に廢城となり城下町も廃止となるが、一部仙台城下町に組み入れられたと考えられている。

近代・現代 明治20（1887）年の東北本線開通後、明治29（1896）年に長町駅が営業を開始する。その後、大正11（1922）年に駅舎の改築と同時に操車場の建設が開始され、大正13（1924）年に長町操車場として開業した。その後1980年代後半に貨物駅としての機能を停止するまで、北日本最大の貨物の操車場として物流の重要な拠点となつた。西台畠遺跡の範囲には国鉄仙台資材センターや民間の煉瓦工場が位置していたことから、煉瓦の原料となる粘土の採掘坑などによって遺構面が影響を受けている地点もある。



国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を一部改変

番	遺跡名	種別	立地	時代	番	遺跡名	種別	立地	時代
1	西山遺跡	古墳群・墓	自然的	縄文～平安	23	河原遺跡	古墳群	自然的	古墳～平安
2	西山遺跡	古墳群・墓	自然的	縄文～平安	24	御前山遺跡	古墳群	自然的	古墳～平安
3	白石大遺跡	古墳群・集落	自然的	縄文～平安	25	中川内遺跡	古墳群	自然的	古墳～平安
4	北日城跡	城跡・集落	自然的	縄文～平安	26	神橋遺跡	古墳群	自然的	古墳～平安
5	足利遺跡	集落・水田跡	自然的	旧石器～近世	27	前川遺跡	古墳群	自然的	古墳～平安
6	足利遺跡	水田跡	自然的	旧石器～近世	28	遠見塚古墳	前方後円墳	自然的	古墳
7	山田遺跡	水田跡	自然的	縄文・古墳・平安	29	小島遺跡	集落・聚落	自然的	古生・中世
8	下ノ内遺跡	集落跡	自然的	縄文・古墳・平安	30	片林遺跡	城跡	自然的	中世・近世
9	元袋遺跡	集落跡	自然的	古墳	31	茂ヶ崎遺跡	城跡	丘陵	中世
10	人野田遺跡	聚落	自然的	縄文・古生	32	寺塚古墳	前方後円墳	自然的	古墳
11	袋内遺跡	集落跡・古墳	自然的	縄文～平安	33	塙古墳	前方後円墳	自然的	古墳
12	六反田遺跡	集落跡	自然的	縄文～平安	34	塙古墳	前方後円墳	自然的	古墳
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然的	縄文～平安	35	砂押古墳	前方後円墳	自然的	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然的	縄文～平安	36	上手の穴遺跡	礫の古墳・窓跡	丘陵斜面	古墳
15	鳥羽城塹	古墳	自然的	古墳	37	印籠・鏡ヶ池	礫の古墳	丘陵斜面	古墳・古代
16	王子遺跡	集落跡・聚落	自然的	縄文～中世	38	大手の穴遺跡	礫の古墳	丘陵斜面	古墳
17	の郷遺跡	集落跡	自然的	古墳	39	立體六角形	礫の古墳	丘陵斜面	古墳
18	牛久遺跡	集落跡	自然的	古墳～平安	40	八ヶ輪六角形	礫の古墳	丘陵斜面	古墳・古代
19	八ノ上遺跡	古墳	自然的	平安	41	弓張六角形	礫の古墳	丘陵斜面	古墳
20	八ノ下遺跡	集落跡	自然的	古墳	42	大野田遺跡	古墳・集落跡・古物	古墳	古墳～奈良
21	八ノ里遺跡	古墳跡	自然的	古墳～平安	43	大野田遺跡	古墳・集落跡・古物	古墳	古墳
22	米山遺跡	古墳跡	自然的	古墳・古代	44	翁古墳	古墳	自然的	古墳

第2図 西台畠遺跡と周辺の遺跡

第3章 調査の方法と概要

第1節 調査区とグリッドの設定（第3・4図）

調査区は、今回計画された建物範囲のうち、第8次調査の未調査部分を対象とした。

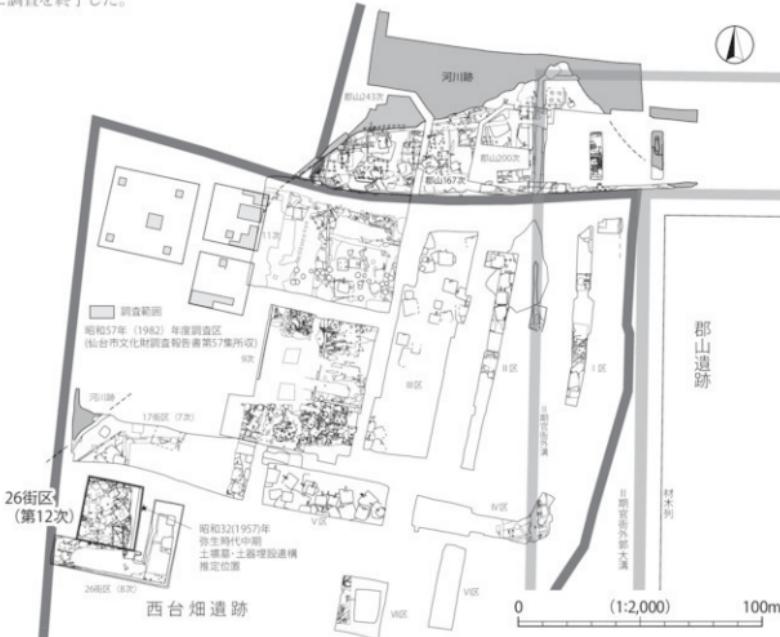
調査グリッドは、測量基準点（X = -197410・Y=5050）を原点とする 5×10 m の方眼を設定し、グリッド呼称については、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。

第2節 調査概要

（1）調査経過

今回の対象地は、平成22年度に、別事業者の建築計画により実施していた遺構範囲確認調査により、古代の遺構検出面が遺存していることが確認されていた部分であり、堅穴住居跡などの遺構も検出されていた。この成果を受けて、野外調査は、5月26日に調査区北西端から重機による表土掘削を仙台市教育委員会立会のもと開始した。掘削範囲について、東側は、確認調査成果や第8次調査から、大規模な擾乱により古代の遺構確認面が消失している範囲が確認される所まで、南側については、第8次調査の調査区北壁を確認できる部分までとし、28日に表土除去を終了した。

遺構検出作業を行ったところ、遺構堆積土の観察から古墳時代前期の堅穴住居跡が広がる状況が確認されたことから、古代の遺構調査終了後再精査を行い、6軒の住居跡を確認した。下層調査については、前回の調査状況から調査区西端に2ヵ所の調査区を設定し、調査区基本層序の確認と弥生時代遺物包含層の調査を行い、9月5日に調査を終了した。



(2) 測量基準・図面の作成

測量は、「平面直角座標系第X系」を基準としている。5×10 mを単位とする平面区配図を作成した。第12次調査では、調査区北西端を1とし、南東端の23までの番号を付して遺構図面の作成を行った。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。特に必要と認められた遺物については、出土状態図を作成し、位置とレベルを記録している。

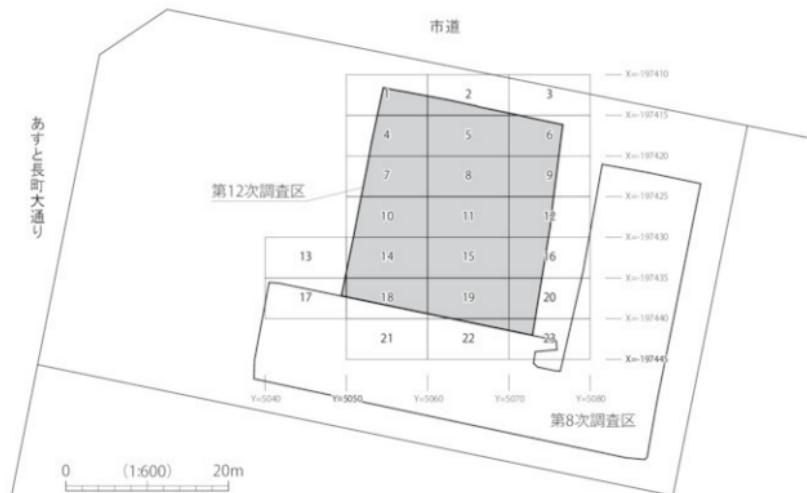
整理作業の段階で、各遺構について遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

(4) 遺構登録番号

遺構登録番号は、遺構については西台烟遺跡調査開始時からの通し番号としたが、小溝状遺構や性格不明遺構、小ピットについてはそれぞれ1番から番号を付した。また、第8次調査区で確認されていた遺構については、調査時の遺構番号を使用した。今年度西台烟遺跡では、隣接する街区内で、第9次調査（2年次）と第11次調査が並行して行われていたことから、遺構番号については調査時点で相互に調整して使用している。

(5) 調査報告書作成作業

報告書作成に向けた整理作業は、群馬県佐波郡玉村町に所在する株式会社シン技術コンサル北関東支店で行った。出土遺物の基礎整理（水洗・バイナー処理・註記）については、野外調査と並行してを行い、調査終了後の一週間、仙台市内の東北支店で実測対象遺物の抽出等を行った。その後、北関東支店で遺物登録・実測図作成、遺物図版・遺構図版・写真図版の作成及び編集・原稿執筆等を行った。その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行っている。特に、遺構図及び石器・弥生土器・土師器・須恵器・土製品・金属製品の実測図・デジタルトレースについては、仙台市向田埋蔵文化財整理室に調査資料や実測図と遺物を搬入し、点検を行った。



第4図 グリッド配置図

第4章 基本層序

西台畠遺跡は旧国鉄仙台資材センターや民間の煉瓦工場跡地内に所在し、大規模な削平及び盛土・整地が行われていたことが確認されている。本調査区においても全域で盛土層が認められ、調査区東縁部は大きな擾乱を受けており、古代の遺構検出面は残存していない。また、遺構検出面が残存している範囲においても、部分的に擾乱が遺構検出面まで達しており、特に調査区中央部は大きな削平を受けている。このため、全体的に遺構の残存状況が悪く、新旧関係が不明な遺構も存在する。

基本土層は、調査区の北壁・西壁及び下層調査トレンチの壁面にて観察した。過去の西台畠遺跡調査成果に合わせ基本層序と照合し、本調査区ではⅠ・Ⅲ～Ⅺ層までの土層を確認した。Ⅰ層は近・現代の盛土層である。Ⅲ層は古墳時代の堆積層と考えられ、古墳時代後期～古代の遺構はⅢ層上面から掘り込まれていることが北壁の土層観察で確認できている。Ⅳ層は黄褐色系のシルト及び砂質シルト層であり、今回の調査では本層上面を遺構検出面とした。Ⅴ・Ⅵa・Ⅵb層は弥生時代の遺物包含層であり、Ⅵc層上面を弥生時代の遺構検出面とした。Ⅶ・Ⅷ層は粘土質シルト層、Ⅸ層は砂質シルト・砂層で、何れも自然堆積層である。Ⅹ層は粘土・粘土質シルト層で、これまでの調査成果から縄文時代の遺物包含層と考えられるが、本調査区では遺物は出土していない。Ⅺ層は、縄文時代以前の自然堆積層である。

以下、基本層序の詳細を記述する。

第Ⅰ層 近・現代の盛土である。

a層：煉瓦・碎石・粘土ブロック等が大半を占める。現代の盛土。

b層：暗褐色（10YR3/3）砂質シルト。近・現代の盛土。

第Ⅲ層 にぶい黄褐色の微砂層である。色調と土質で2層に分層される。北壁の土層観察によると、古墳時代後期～古代の遺構は本層を掘り込んで構築されている。

a層：にぶい黄褐色（10YR4/3）極微砂。黒褐色砂質シルト粒少量含む。

b層：にぶい黄褐色（10YR5/4）微砂。黒褐色砂質シルト粒微量含む。

第Ⅳ層 本調査では、本層上面を遺構検出面とした。黄褐色系のシルト及び砂質シルト層であり、色調と土質で5層に分層される。調査区中央部は広い範囲が削平されており、Ⅳc層まで露出している部分もある。

a層：黄褐色（10YR5/6）砂質シルト。暗褐色シルト粒を斑状に含む。

b層：シルトであり、色調で3細分される。上部が灰黄褐色（10YR4/2）でやや暗く、中部が黄褐色（10YR5/6）、下部が明黄褐色（10YR6/6）で明るい。

c層：灰黄褐色（10YR4/2）シルト。含有物の量で2細分される。Ⅳ層中最も粘性が高いが、Ⅴ層以下に堆積する粘土質シルトほどの粘性はない。

d層：シルトであり、色調と含有物で2細分される。上部はにぶい黄褐色（10YR5/3）、下部はにぶい黄褐色（10YR5/4）であり、上部がやや灰色を帯びる。

e層：にぶい黄橙色（10YR6/4）砂質シルト。土質で2細分され、上部は砂質が強く、下部はシルト質が強い。

第Ⅴ層 弥生時代の遺物包含層であり、今回の調査では下位に堆積するⅥa層より遺物の包含量が少ない。灰黄褐色（10YR4/2）粘土質シルト層で、黄褐色シルトブロックを少量、炭化物を微量含む。

第Ⅵ層 弥生時代の遺物包含層及び遺構検出面であり、土質と色調、含有物で5層に分層される。上部の黒褐色粘土質シルト層（Ⅵa層）・暗褐色シルト層（Ⅵb層）と、下部の黄褐色系の微砂・砂質シルト・粘土質

シルト層（VI c ~ e 層）に 2 大別される。今回の調査では VI a・b 層から遺物が出土しており、VI c 層上面を弥生時代の遺構検出面とした。

a 層：黒褐色（10YR3/2）粘土質シルト層を基調とし、基本的に含有物の相違で 4 細分される。例外として VI a2 層は黄褐色シルト層で、色調・土質ともに異なっており、下層調査 B トレーンチ北東部にのみ堆積が確認されている。

b 層：暗褐色（10YR3/3）シルト。黄褐色砂質シルト粒・炭化物微量含む。

c 層：色調・土質で 2 細分される。上部は黄褐色（10YR5/6）微砂、下部は明黄褐色（10YR6/6）砂質シルトである。

d 層：明黄褐色（10YR6/6）粘土質シルト。酸化鉄粒少量含む。

e 層：にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土質シルト。黒褐色粘質土粒少量含む。

第VII層 粘土質シルト層であり、色調・含有物で 3 層に分層される。

a 層：黒褐色（10YR3/2）粘土質シルト。含有物で 2 細分される。

b 層：粘土質シルトであり、色調・含有物で 2 細分される。上部がにぶい黄褐色（10YR5/3）、下部がにぶい黄橙色（10YR6/3）である。

c 層：青灰色（5BG5/1）粘土質シルト。グライト化。炭化物を少量含み、VII 層中では最も含有量が多い。

第VIII層 グライ化した粘土質シルト層である。色調と含有物で 2 層に分層される。

a 層：オリーブ灰色（5GY5/1）粘土質シルト。酸化鉄粒・炭化物微量含む。

b 層：暗オリーブ灰色（5GY4/1）粘土質シルト。酸化鉄粒・明オリーブ灰色砂質シルト粒少量含む。

VII a 層より粘性が弱い。

第IX層 砂質シルト・砂層であり、色調と土質で 2 層に

分層される。

a 層：明オリーブ灰色（5GY7/1）砂質シルト。グライト化し、砂質強い。酸化鉄粒・細砂斑に含む。

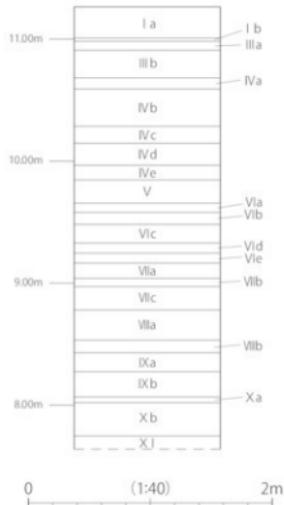
b 層：灰褐色（7.5YR4/1）細砂・粗砂。全体的に酸化。シルト層が互層状に堆積。

第X層 粘土・粘土質シルト層であり、色調と土質で 2 層に分層される。これまでの調査成果から縄文時代の遺物包含層と考えられるが、本調査区では遺物は出土していない。

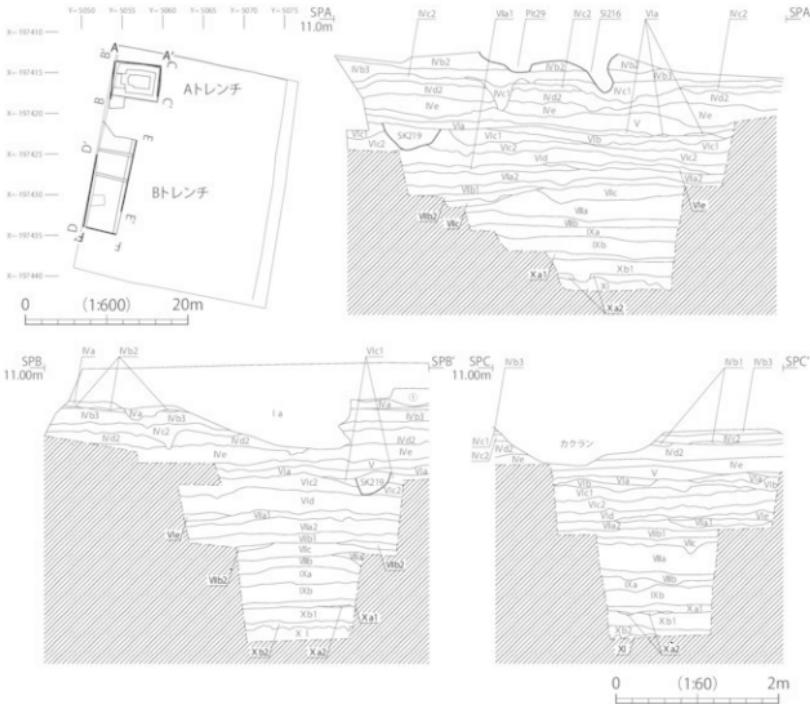
a 層：灰白色（10YR7/1）粘土。含有物で 2 細分される。全体的に酸化しており、特に上部が著しい。

b 層：粘土であり、色調と含有物で 2 細分される。上部は黒色（N2/）粘土、下部は暗灰色（N3/）粘土質シルトと灰色（7.5Y7/1）シルトとの混土である。

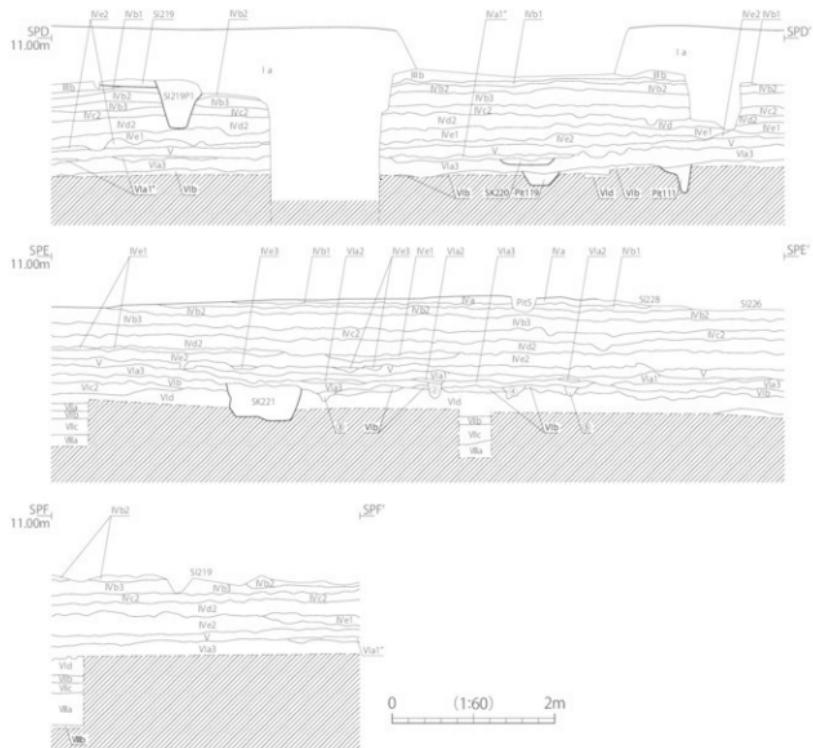
第XI層 灰色（7.5Y7/1）シルト。



第5図 基本層序柱状図



第6図 基本層序 (1)



層位	堆積土		備考
	土質	土質	
Ⅷ a1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。下部細粒。
	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	明瞭な粘土質シルト層にやや多量、炭化物微量含む。
	10YR5/3 にふく黒褐色	粘土質シルト	マングン少量、炭化物微量含む。上部に黒褐色粘土シルトブロック(5mm程度)部分的に含む。下部細粒。
	10YR5/3 にふく黄褐色	粘土質シルト	マングン少量、炭化物微量含む。
Ⅸ a	5BG5/1 青灰色	粘土質シルト	ダイオード、炭化物少量含む。薄層中も炭化物の含有量が多い。
	5GY3/1 オリーブ灰褐色	粘土質シルト	ダイオード、炭化物少量含む。薄層中も炭化物の含有量が多い。
Ⅹ b	5GY4/1 明るいオリーブ灰褐色	粘土質シルト	ダイオード、炭化物少量含む。薄層中も炭化物の含有量が多い。
	5GY7/1 明るいオリーブ灰褐色	砂質シルト	ダイオード、砂質少、粘土質少、薄層中も炭化物の含有量が多い。
X a1	10YR7/1 白褐色	細粒砂	全体的に細粒、シルト層が互層状に堆積。
	10YR7/1 白褐色	粘土	全体的に細粒化した層。
	b1	Xe1	黑色(2N2)の風土とXe1の風土
	b2	N3'	褐色
X-1	7.5YR4/1 灰褐色	粘土質シルト	褐色(7.5YR7/1)シルトとの風土。※Xb1とX-1の風土
X-1	7.5YR7/1 灰色	シルト	白色。

第7図 基本層序 (2)

第5章 検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡34軒、溝跡6条、一本柱列跡1列、土坑16基、ピット125基、性格不明遺構2基である。概ね、古墳時代後期～古代、古墳時代前期、弥生時代中期の三時期に分けられる。出土遺物は、土師器・須恵器を主体にコンテナで18箱程度が出土している。以下、時期毎に詳細を記す。

第1節 古墳時代後期～古代の遺構と遺物（第8～63図）

本節では、重複状況及び出土遺物などから古墳時代後期～古代と考えられる遺構について扱う。検出された遺構は、竪穴住居跡28軒（SI213～232・234～238・240・241・246）、一本柱列跡1列（SA2）、溝跡6条（SD81・113～117）、土坑11基（SK205～211・214・216～218）、ピット105基（P1～94・96～99・101～103・105～108）、性格不明遺構1基（SX1）である。このうちSD81は南側に隣接する第8次調査で既に検出されており、SI221についても同調査のSX3と同一遺構であると考えられる。これらの遺構は基本層IV層上面で検出された遺構であるが、調査区北壁の上層観察によるとⅢ層上面から掘り込まれていることが確認できている。

当該期の遺構は削平や搅乱の影響を受けており残存状況は良好とはいえず、加えて竪穴住居跡同士の重複も激しい部分もあり、具体的な構造が明らかにできなかったものも存在する。特に調査区中央部北側は大きく後世の削平を受けており、調査区北東部は竪穴住居跡同士の重複が激しい。

以下、竪穴住居跡、一本柱列跡、溝跡、土坑、ピット、性格不明遺構の順で記載する。

（1）竪穴住居跡（第8～55図）

竪穴住居跡は、28軒（SI213～232・234～238・240・241・246）検出された。調査区内における分布は西半部と南東部は比較的疎らであり、北東部から中央にかけて特に密集している。調査区中央部北は大きく後世の削平を受けており、検出時に既に重複する住居跡の床面・掘り方が互層状を呈して折り重なって露呈していた。単独で検出された住居跡はSI216・221のみで他は全て住居跡同士が重複しており、特に調査区北東部の重複は激しく、最多で6軒重複している。このような状況から、残存状況が良好であったものはSI217のみであり、他は搅乱や重複する遺構などに一部もしくは大半を失われた状態で検出されている。そのため、平面形状やカマドの有無が確認できなかった住居跡も多い。

竪穴住居跡の平面形状が把握できたものは、ほぼ方形基調である。主軸方向は、大半がN-20°-W～N-60°-W程度北西に傾いている。このほか、SI215・220・246がN-0°、N-8°-E、N-3°-Wと北を指向しており、SI224がカマド基準の主軸方向としてN-58°-Eで北東に傾いている。規模は、長軸6.5m前後の比較的大きいものが3軒（SI216・225・230）あり、なかでもSI216が長軸6.76mを測り最大である。他は4.5～5.5m程度のものが多く、長軸3.72mを測るSI220のように小型のものもある。竪穴住居跡はいずれも掘り方を伴い、床面は基本層IV層土を多く含有する理上で構築され、貼り床が施されているものが多い。掘り方形状は様々であるが、概ねの傾向としては中央部が高まり、壁方向へと低くなるという特徴がある。周溝は多数の竪穴住居跡で検出され、壁面に沿って全周するものが多いが部分的に検出されたものもある。SI218やSI230などのように後世の削平や重複遺構の影響を受けているものは、本来全周していた可能性が高い。柱穴は、主柱穴を対角線上に4基配置するのが基本形態であり、重複が激しい北東部では主柱穴が狭い範囲内に4組検出されている例もみられる。SI220のような小型の住居跡からは主柱穴が検出されていない。カマドは10軒（SI215～217・220・223～225・229・230・236）から検出され、位置は基本的に北壁に付設されており、例外としてSI224が東壁に付設されている。このほか、SI236が煙道煙出し部のみの検出のため詳細は不明である。燃焼部はいずれもほぼ



第8図 古墳時代後期～古代遺構配置図

壁内に位置しているが、SI220・224・229・230は8~30cm程度壁外に張り出す。袖は残存例が少ないが、いずれも基本層IV層土を突き固めて構築されており、SI217・224では、焚口の芯材に加工礫や土器が用いられていた。支脚は、SI217において土器脚窓が逆位の状態で置かれていた。SI215~217・224・229では、狹長な形態をもつ煙道部が検出されており、何れも燃焼部の奥壁上に接続するものと考えられる。SI220・223・225・230は、後世の削平の影響で煙道部の形態が不明であるが、燃焼部から短く立ち上がる形態の可能性も考えられる。その他の床面施設としては、周溝や貯蔵穴、カマドに関連する施設と考えられる土坑などが検出されている。

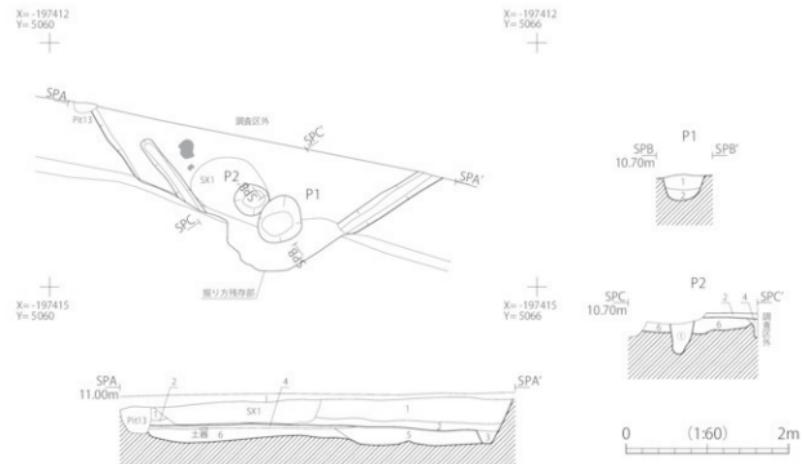
遺物は、土器の环、甕が大半を占め、他に須恵器、土製品、金属器、石製品、礫石器が出土している。これらの竪穴住居跡の時期は、4a期(住社式期新段階)から5bii期(郡山II期官衙期以降)の間に構築されたと考えられる。

SI213 竪穴住居跡(第9図)

【位置・確認】 調査区北部、2グリッドに位置する。大半は調査区外となり南西部周辺を検出したが、南西隅は後世の削平を受けている。基本層IV層上面で検出しているが、調査区壁の断面観察からIII層上面から掘り込まれていることが確認できた。

【重複】 SX1・Pit13より古く、SI234・250、Pit95・100より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸316cm、短軸307cmを測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。



SI213 堆積土封記表

部位	層	土色	土性	備考
住居構造土	1	10Y3/3 褐褐色	砂質シルト 粘土質土・炭化物微量含む。	
	2	10Y3/3 褐褐色	砂質シルト 粘土質土に少量化。	
	3	10Y3/3 褐褐色	砂質シルト 粘土質土に少量、炭化物微量含む。	
埋溝	4	10Y5/4 C-5 黄褐色	砂質シルト 黒褐色シルト・土質質に堆積、粘土質・炭化物微量含む。※貼り床	
	5	10Y3/1 黑褐色	シルト 地上ブロック(高~10cm程度)、古削土ブロック(5~10cm程度)微量含む。	
	6	10Y4/4 黑褐色	砂質シルト 古削土粒多量、古削土ブロック(5~30cm程度)中や多量含む。	

SI213 施設観察表

施設名	平面形	長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考
P1	相内形	(60)×(52)	32	1	10Y4/2 灰黄褐色	砂質シルト 古削土粒少量、他土粒・炭化物微量含む。	
				2	10Y4/2 灰黄褐色	砂質シルト 古削土粒少量、炭化物微量含む。	
				3	10Y4/2 灰黄褐色	砂質シルト 古削土粒中や多量、他土粒・炭化物微量含む。	
P2	円形	(42)×(40)	(42)				

第9図 SI213 竪穴住居跡

【方向】 西壁を基準として N-36°-W である。

【堆積土】 6層に分層した。1・2層は暗褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、3層は周溝堆積土である。4～6層は掘り方理土であり、4層が貼り床である。

【壁面】直線的に外傾して立ち上がる。調査区壁の断面から確認できる壁高は、40cmを測る。

【床面】 棚ね平坦である。

【柱穴】 床面に重複するSX1の底面から、2基(P1・2)検出した。これらは位置関係から、どちらかが南西隅の主柱穴である可能性がある。規模は長軸42～60cm、深さ32～42cmを測り、いずれも柱頭跡は確認されなかつた。

【周溝】 南壁面に沿って検出されたほか、掘り方調査時に西壁の27cm程度内側に部分的に検出された。断面形状は「U」字形を呈し、相模瓦解16×25cm、瀬戸2×16cmを測る。

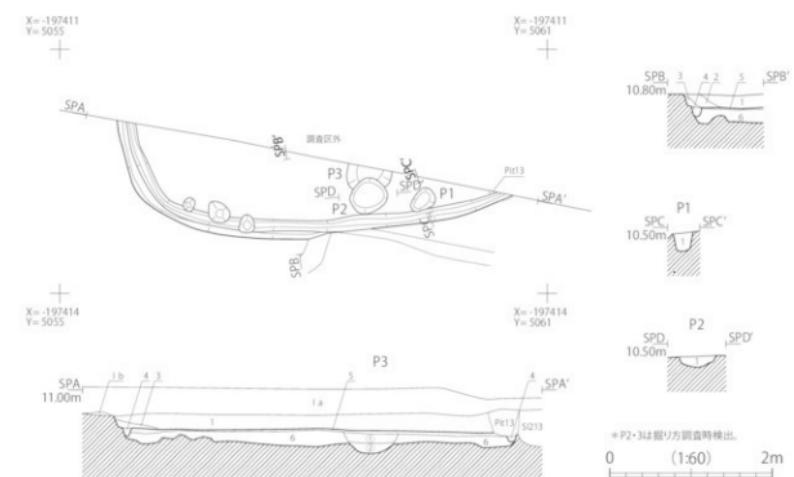
【掲載予定】第2章 11～22（前編）2018年1月号（2月1日発売）にて連続登場する「新規登場キャラクター」を紹介する。

【参考例】 お年寄の方だけではなく、中止活動なども、特に高齢者（七十歳以上後期）を考慮して

SI314 勝安住居跡（第10・11回）

【位置・確認】 調査区北西部、1・2グリッドに位置する。大半は調査区外となり、南西部周辺を検出した。基本

【重複】 Bit13 とりまく SK215 Bit100 とり新11

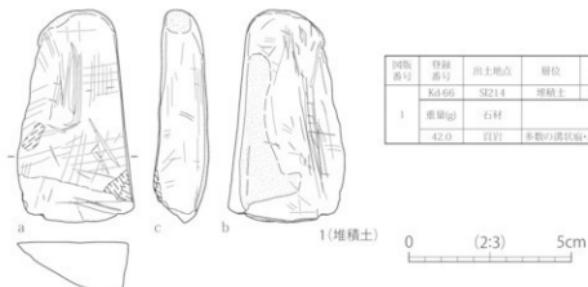


S214堆積土記表				備 考
深 位	種 類	土 基	土 性	
柱状堆積土	1	10YR4/3に2. 黄褐色	砂質シルト	表面と細微含む。
	2	10YR4/3に2. 黄褐色	シルト	表面化水や多少含む。
	3	10YR4/3に2. 黄褐色	砂質シルト	表面化水を含む。
	4	10YR4/3に2. 黄褐色	砂質シルト	表面アーブロック位→10cm程度)や多量、黒褐色シルトブロック(10cm程度)少量含む。
溝開	5	10YR4/2灰褐色	シルト	表面土・紅色白土粘土少層、固形物微量含む。貼り床
	6	10YR4/2灰褐色	砂質粘土	表面アーブロック位シルト→10cm(20cm程度)の間に砂層含む。
側り方				

第10図 SI214 緊穴住居跡

SI214 施設観察表

遺構名	平面形	規模(m)		層位	土 色	土 性	備考
		長軸	短軸				
P1	楕円形	34×25	25	1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦屑土和少量含む。
P2	円形	45×43	13	1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	瓦屑土ブロック(5~30mm程度)や少多量、灰土和少量含む。
P3	円形	55×30	26	① ②	10YR3/2 黒褐色 10YR4/3に近い黄褐色	シルト 砂質シルト	瓦屑土和少量、炭化物微量含む。 瓦屑土ブロック(5~30mm程度)や少多量、炭化物微量含む。



第11図 SI214 壓穴住居跡出土遺物

【規模・形態】 検出した規模は長軸 457cm、短軸 188cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準として N = 11° - W である。

【堆積土】 6 層に分層した。1 ~ 3 層はにぶい黄褐色砂質シルト・シルトを主体とする住居堆積土で、4 層は周溝堆積土である。5 ~ 6 層は掘り方理土であり、5 層が貼り床である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 3 ~ 16cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基 (P1) 検出し、位置関係から壁柱穴又は出入り口に伴う柱穴の可能性がある。規模は長軸 34cm、深さ 25cm を測り、柱痕跡は確認されなかった。

【周溝】 検出した部分では壁面に沿って全周し、西壁沿いは 11cm 程度内側に位置する。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 11 ~ 18cm、深さ 7 ~ 14cm を測る。なお、南壁西隅の周溝の掘り方から、長軸 16 ~ 30cm 程度の小ビットが 3 基検出されている。

【その他の施設】 掘り方から 2 基 (P2・3) 検出した。P3 は貼り床に被覆されている。

【掘り方】 深さ 12 ~ 22cm 程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。壁際沿いには幅 25 ~ 37cm で周溝状の掘り方が巡り、西壁際では床面で検出された周溝より内側に位置することから、建て替えの可能性が考えられる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器が少量、堆積土から砥石 1 点が出土している。この内、頁岩製の砥石 1 点を掲載した（第 11 図-1）。

【時期】 詳細な時期は不明だが、出土遺物から 4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）と考えられる。

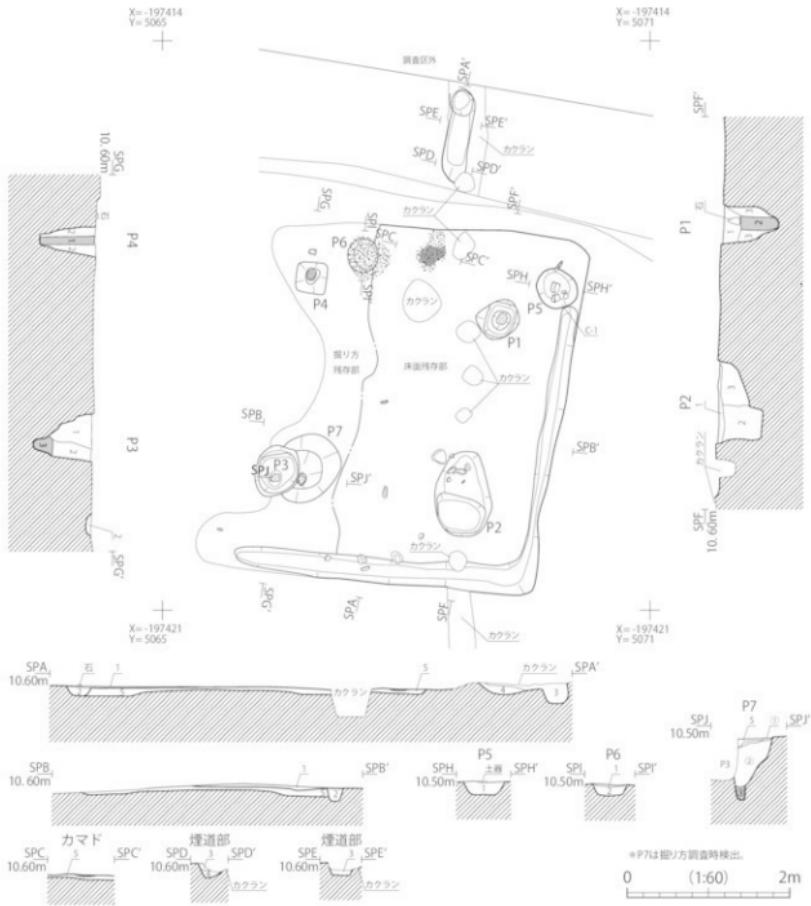
SI215 壓穴住居跡（第 12・13 図）

【位置・確認】 調査区北東部、2・5・6・8 グリッドに位置する。全体的に後世の削平を受けており、残存状態は悪い。特に西部は掘り方まで削平されており、西壁は残存していない。

【重複】 SI218・229・230・231・233、Pit73・81 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 445cm、短軸 420cm を測り、平面形状は方形と推定される。

固有番号	登録番号	出土地点	層位	種別	芯種	法規(m)		
						全長	幅	厚さ
1	Kd66	SI214	堆積土	石製品	風石	6.6	3.6	1.7
	重量(kg)	石材					写真	四枚
	42.0	頁岩	多數の滑石面・斜状面あり、薄面あり					19



第 12 図 SI215 竪穴住居跡

【方向】 カマドを基準として N-8°-E である。

【堆積土】 5 層に分層した。1 層は灰黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、2 層は周溝堆積土である。3・4 層はカマド煙道部の堆積土で、5 層は掘り方埋土である。

【壁面】 東壁と南壁が部分的に僅かに残存し、壁高は 1 ~ 2cm を測る。

【床面】 検出時に露出していた部分も多いが中央から東部にかけて残存しており、概ね平坦である。

【柱穴】 床面及び掘り方残存部上面から 4 基 (P1 ~ 4)、掘り方から 1 基 (P7)、総数 5 基検出した。P1 ~ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 38 ~ 104cm、深さ 58 ~ 74cm を測る。P7 は P3 の位置関係から建て替えの痕跡又は SI229 の主柱穴の可能性が考えられ、規模は長軸 87cm、深さ 77cm を測る。柱痕跡は P1・3・4・7 から確認され、径 11 ~ 24cm 程度である。

【周溝】 東壁・南壁面に沿って巡る。断面形状は逆台形状を呈し、規模は幅 10 ~ 35cm、深さ 10 ~ 20cm を測る。

【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。後世の削平の影響で、煙道基部及び袖は消失しており、燃焼部は火床面まで露出していた。燃焼部の規模・形状は詳細不明だが、径 30cm 程度の焼面とその周囲の炭化物の分布範囲から、奥行き 50cm 程度、幅 40cm 程度の規模が推定される。煙道部は基部から煙出し方向に一段下がっており、煙出し部分はピット状に掘り込まれ先端部が 5cm 程度オーバーハングする。規模は長さ 113cm、幅 27 ~ 30cm、深さ 12 ~ 26cm を測る。

【その他の施設】 床面及び掘り方残存部上面から 2 基 (P5・6) 検出した。P5 は北東隅に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸 52cm、短軸 48cm、深さ 18cm を測る。堆積土上層から上師器表片、堆積土中から上師器環の破片が出土している（第 13 図-1）。P6 はカマド左側に位置し、堆積土は上部に焼土や炭化物が含まれていた。

【掘り方】 深さ 5 ~ 12cm 程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられ、南東部がやや高く他が一段下がる。

SI215 施設解説表

遺構名	平面形	断面(cm)		層位	土	土 性	備 考
		長軸	短軸				
P1	楕円形	51×43	70	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	瓦礫土少量、炭化物微量含む。
				2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	瓦礫土ブロック(5~10cm程度)少量含む、中柱軸跡
				3	10YR5/4 に、灰・黄褐色	砂質シルト	瓦礫土ブロック(5~20cm程度)間に多量含む。
P2	楕円形	104×68	58	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	瓦礫土少量、炭化物微量含む。
				2	10YR5/4 に、灰・黄褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5~50cm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20cm程度)少量含む。
				3	10YR5/4 に、灰・黄褐色	砂質シルト	瓦礫土ブロック(10~50cm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20cm程度)少量含む。
P3	楕円形	(65)×(53)	(74)	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	瓦礫土ブロック(5~10cm程度)少量、地軸軸跡
				2	10YR5/4 に、灰・黄褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5~20cm程度)多量、炭化物微量含む。
				3	10YR5/6 黄褐色	シルト	瓦礫土多量含む、中柱軸跡
P4	方形	⑧⑧×⑧⑧	(72)	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	しまり無し、中柱軸跡
				2	10YR5/4 に、灰・黄褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5~50cm程度)多量含む。
				3	10YR5/6 黄褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5~20cm程度)多量含む。
P5	円形	52×48	18	1.	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	瓦礫土少量、炭化物微量含む。
P6	円形	(42)×(38)	(15)	1.	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	瓦礫土ブロック(5~10cm程度)・炭化物少量含む。
P7	楕円形	87×75	77	2.	10YR5/4 に、灰・黄褐色	シルト	炭化物少体。
				3.	10YR5/4 に、灰・黄褐色	砂質シルト	瓦礫土ブロック(10~50cm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20cm程度)少量含む。
				3.	10YR5/6 黄褐色	シルト	瓦礫土多量含む、中柱軸跡



第 13 図 SI215 積穴住居跡出土遺物

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、床面からカマド材と考えられる切石、掘り方から土玉が出土している。この内、P5 堆積土中から出土した土師器壺 1 点を掲載した（第 13 図-1）。口縁部は内湾気味に外傾し、体部との境目に明瞭な稜をもつ。調整は、外面が口縁部ヘラミガキ、体～底部ヘラケズリで、内面がヘラミガキで黒色処理される。

【時期】 P5 堆積土から 5bi 期（郡山Ⅱ期官衙期）と考えられる土師器壺（第 13 図-1）が出土していることから、5bi 期以降と考えられる。

SI216 穫穴住居跡（第 14 ~ 16 図）

【位置・確認】 調査区北西部、1・4・5・7 グリッドに位置する。全体的に後世の削平を受けており、残存状態は悪い。特に北部は掘り方まで削平されており、壁面は北東隅が一部残存するのみである。

【重複】 Pit14・28 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 676cm、短軸 628cm を測り、平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマド 1 を基準として N - 26° - W である。

【堆積土】 5 層に分層した。1 層にはぶい黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、2 層は周溝堆積土である。

3・4 層はカマド煙道部の堆積土で、5 層は掘り方埋土である。

【壁面】 北東隅で僅かに残存する。直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は 10 ~ 12cm を測る。

【床面】 大半が削平されており、北東隅の一部で僅かに残存している。

【柱穴】 掘り方残存部上面及び攪乱内から 15 基（P1 ~ 7・9 ~ 12・15 ~ 18）検出した。P1 ~ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 52 ~ 69cm、深さ 36 ~ 50cm を測る。P7・10・11・15 はそれれ P4・1・2・3 との位置関係から建て替えの痕跡と考えられ、規模は長軸 46 ~ 105cm、深さ 41 ~ 82cm を測る。P5・6・12・18 はそれれ P1・4・11・3 との位置関係から補助柱穴であると考えられ、規模は長軸 22 ~ 46cm、深さ 18 ~ 45cm を測る。周溝の底面から検出された P17 は壁柱穴であると考えられ、規模は長軸 32cm、深さ 24cm を測る。柱痕跡は P1 ~ 4・6・7・10・11・15・17 から確認され、径 8 ~ 34cm 程度である。

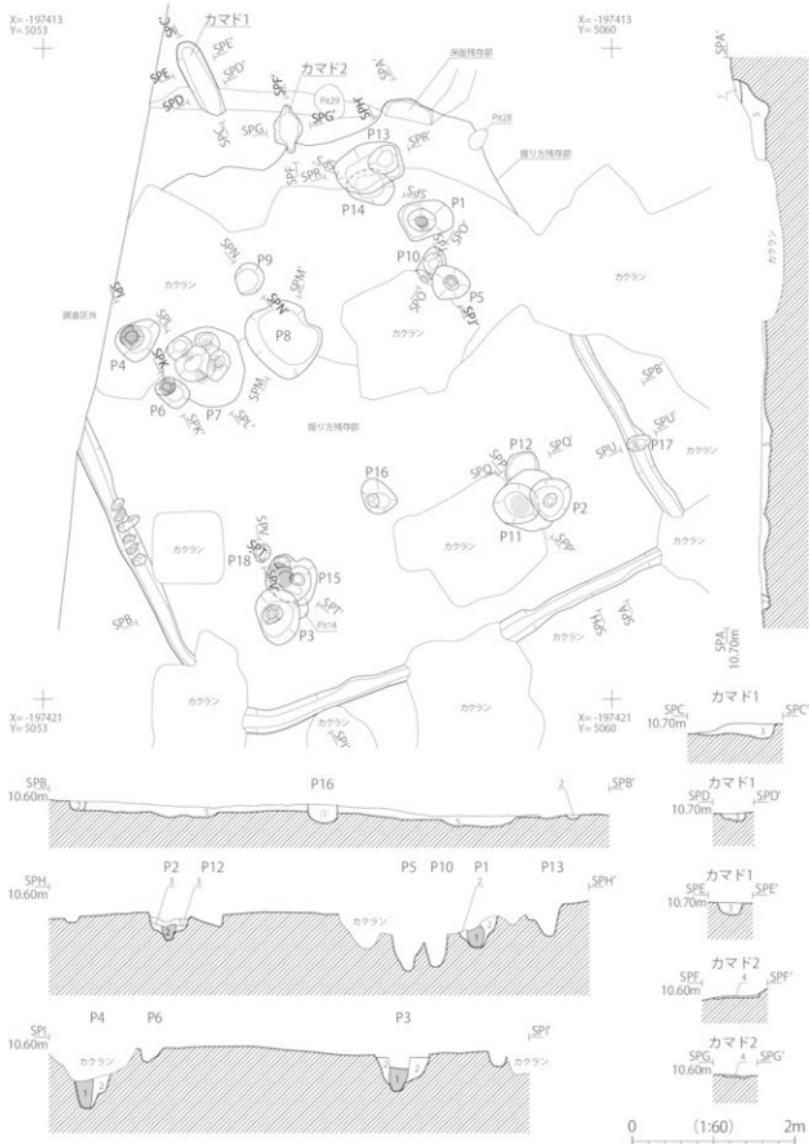
【周溝】 東壁面の南部と西壁・南壁面に沿って巡る。断面形状は逆台形状を呈し、規模は幅 16 ~ 31cm、深さ 2 ~ 20cm を測る。なお西壁面の周溝底面から、長軸 16 ~ 30cm 程度の小ピットが 6 基検出されている。

【カマド】 2 基（カマド 1・2）検出された。カマド 1 は北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。カマド 2 は北壁中央部やや東寄りに位置し、方向は N - 6° - W で、壁面からやや東に傾いて付設される。カマド 1 や壁面と方向が異なることから、重複する別の住居跡に伴う可能性もある。後世の削平の影響で、カマド 1 は煙道基部と燃焼部、カマド 2 は煙出し部と燃焼部が消失している。カマド 1 の煙道部は底面が煙出し方向に向って緩斜し、規模は長さ 99cm、幅 32cm、深さ 15 ~ 18cm を測る。カマド 2 の煙道部は底面が平坦で、規模は長さ 59cm、幅 28 ~ 34cm、深さ 2 ~ 5cm を測る。

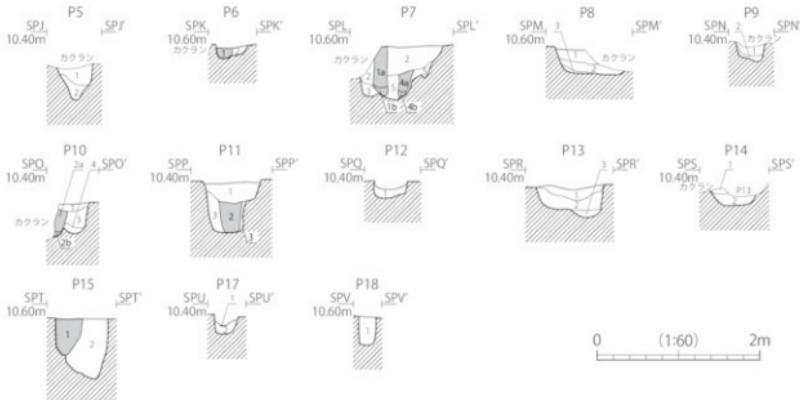
【その他の施設】 掘り方残存部上面及び攪乱内から 3 基（P8・13・14）検出した。P8 は中央部、P13・14 は北東隅に重複して位置し、後者は規模や位置関係から貯蔵穴とその造り替えであると考えられる。平面形状は P13 が長方形、P14 が楕円形を呈し、規模は P13 が長軸 84cm、短軸 58cm、深さ 40cm、P14 が長軸 55cm、短軸 42cm、深さ 22cm を測る。

【掘り方】 深さ 1 ~ 20cm 程度を測り、底面は中央部が高まり四壁方向へと低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び掘り方から土師器・須恵器、床面施設から混入の弥生土器 1 点が出土している。この内、掘り方から出土した土師器壺 1 点を掲載した（第 16 図-1）。口縁部は内湾気味に外傾し、体部との境目に明瞭な稜をもつ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリで、内面がヘラミガキで黒色処理される。



第14図 SI216 竪穴住居跡 (1)



SI216 地質柱状記表

序位	解釈	土色	土性	備考
住居堆積土	1	LOYR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	IV層上土・地下水・炭化物微量含む。
剥離	2	LOYR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	IV層上リック(5~10mm程度)やや多量含む。
カマド1	3	LOYR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層上少量、炭化物微量含む。
カマド2	4	LOYR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層上リック(5~10mm程度)やや多量、黒色シルトブロック(10mm程度)少量含む。
廻り方	5	LOYR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	IV層上リック(5~10mm程度)やや多量含む。

SI216 地質観察表

遺構名	平面形	断面(㎝)		解釈	土色	土性	備考
		長軸	短軸				
P1 (楕円形)	(63)×(45)	408	1	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	灰黃褐色土との互層、炭化物微量含む。※柱取跡	
			2	10YR4/2灰黃褐色	シルト	にぶく黄褐色シルト粒やや多量、炭化物微量含む。	
P2 円形	52×50	36	1	10YR4/2灰黃褐色	砂質シルト	IV層上シルト含む。	
			2	10YR5/2灰黃褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトとの互層、下部に細粒鉄鉱石、※柱取跡	
P3 楕円形	69×53	53	1	10YR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	IV層上リック(5~20mm程度)やや多量含む、※柱取跡	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	IV層上シルトや多量含む。	
P4 (楕円形)	(57)×(45)	42	1	10YR4/3にぶく黄褐色	粘土質シルト	IV層上リック(5~50mm程度)やや多量、地下水・炭化物微量含む。	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック(5~50mm程度)やや多量、地下水・炭化物微量含む。	
P5 (円形)	(46)×(41)	45	1	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	灰黃褐色リットル層や多量、炭化物微量含む。	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	灰黃褐色リットル層、炭化物微量含む。	
P6 長方形	40×32	18	1	10YR4/2灰黃褐色	砂質シルト	IV層上シルト含む。※柱取跡	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上粘土層含む。	
P7 (円形)	(105)×(95)	81	1a	10YR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	IV層上リック・黒褐色シルトブロック(5~50mm程度)を含む。※柱取跡	
			1b	10YR4/2灰黃褐色	粘土質シルト	IV層上リック・黒褐色シルトブロック(5~50mm程度)を含む。※柱取跡	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック(5~20mm程度)やや多量、黒褐色シルト粒少量含む。	
			3	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック・黒褐色シルト粒少量含む。	
			4a	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック・黒褐色シルト粒少量含む。	
P8 (楕円形)	(93)×(82)	32	4b	10YR4/3灰黃褐色	砂質シルト	IV層上リックや多量、黒褐色シルト粒少量含む。※柱取跡	
			5	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック・黒褐色シルト粒少量含む。	
			1	10YR4/4にぶく黄褐色	砂質シルト	IV層上リックや多量、黒褐色シルト粒少量含む。※柱取跡	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック・黒褐色シルト粒少量含む。	
			3	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リックや多量含む。	
P9 (円形)	(39)×(36)	27	1	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック(5~20mm程度)多量含む。	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リックや多量含む。	
P10 (楕円形)	(46)×(38)	41	1	10YR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5~50mm程度)やや多量含む。※柱取跡	
			2a	10YR4/2灰黃褐色	シルト	IV層上粘土層含む。※柱取跡	
			2b	10YR4/2灰黃褐色	シルト	IV層上リック(5~50mm程度)多量、黒褐色シルト粒少量含む。	
			3	10YR4/4 黑褐色	砂質シルト	IV層上リック(5~80mm程度)多量、黒褐色シルト粒少量含む。	
P11 (円形)	(76)×(75)	65	4	10YR4/2灰黃褐色	砂質シルト	IV層上粘土層や多量含む。	
			1	10YR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	IV層上リック・黒褐色シルト粒少量含む。※柱取跡	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック・黒褐色シルト粒少量含む。※柱取跡	
			3	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リック(5~50mm程度)やや多量、黒褐色シルト粒少量含む。	
P12 (円形)	(45)×(37)	21	1	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	IV層上リックや多量含む。	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	地表付近、炭化物微量含む。	
			3	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	地表付近や多量、炭化物微量含む。	
P13 長方形	(84)×(58)	40	1	10YR4/3にぶく黄褐色	砂質シルト	地表付近、炭化物微量含む。	
			2	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	地表付近や多量、炭化物微量含む。	
			3	10YR4/3にぶく黄褐色	シルト	地表付近や多量、炭化物微量含む。	

第15図 SI216 穴六住居跡 (2)

遺構名	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	参考		
		長軸	短軸	深さ						
P14	楕円形	65.9	42.2	(22)	1	10VR7/6明黄褐色	砂質シルト	古崩土主体。		
					2	10VR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色色粘土質シルト和や多量含む。		
P15	楕円形	68	61	82	1	10VR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	古崩土和少量、炭化物微量含む。※柱痕跡		
					2	10VR4/2灰黄褐色	シルト	古崩土ブロック(5~30mm程度)少量、炭化物微量含む。		
P16	楕円形	46	36	32	①	10VR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	古崩土少量、炭化物微量含む。		
					2	10VR4/2灰黄褐色	シルト	古崩土ブロック(5~30mm程度)少量、炭化物微量含む。※柱痕跡		
P17	楕円形	32	19	24	1	10VR4/2灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトとの互層、下部に焼化鉄沈着。		
					2	10VR5/2灰黄褐色	粘土質シルト			
P18	円形	22	20	36	1	10VR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	古崩土少量含む。		



第 16 図 SI216 穫穴住居跡出土遺物

【時期】 挖り方から 5a ~ bi 期（郡山 I ~ II 期官衙期）と考えられる土師器環（第 16 図-1）が出土していることから、5a ~ bi 期以降と考えられる。

SI217 穫穴住居跡（第 17 ~ 19 図）

【位置・確認】 調査区中央部東、8・9・11・12・15 グリッドに位置する。

【重複】 P126・27 より古く、SI224・225・227・244・246・247、SK214、Pit93・94・102・105、SX2 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 577cm、短軸 544cm を測り、平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N - 37° - W である。

【堆積土】 17 層に分層した。1 ~ 5 層は住居堆積土で、堆積土中位にレンズ状に層厚 1 ~ 3cm 程度で炭化物層が堆積し（3 層）、その上位と下位に暗褐色・にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする土層が堆積している。6 層は周溝堆積土である。7 ~ 13 層はカマド関連の堆積土で、8 層は基本層IV層を主体とした天井崩落土と考えられ下部が被熱している。10 層は炭化物主体、11 層は焼土と灰・炭化物との混土、13 層は焼土主体である。14 層はカマド袖構築土で、15 層はカマド掘り方である。16・17 層は掘り方埋土であり、16 層が貼り床である。

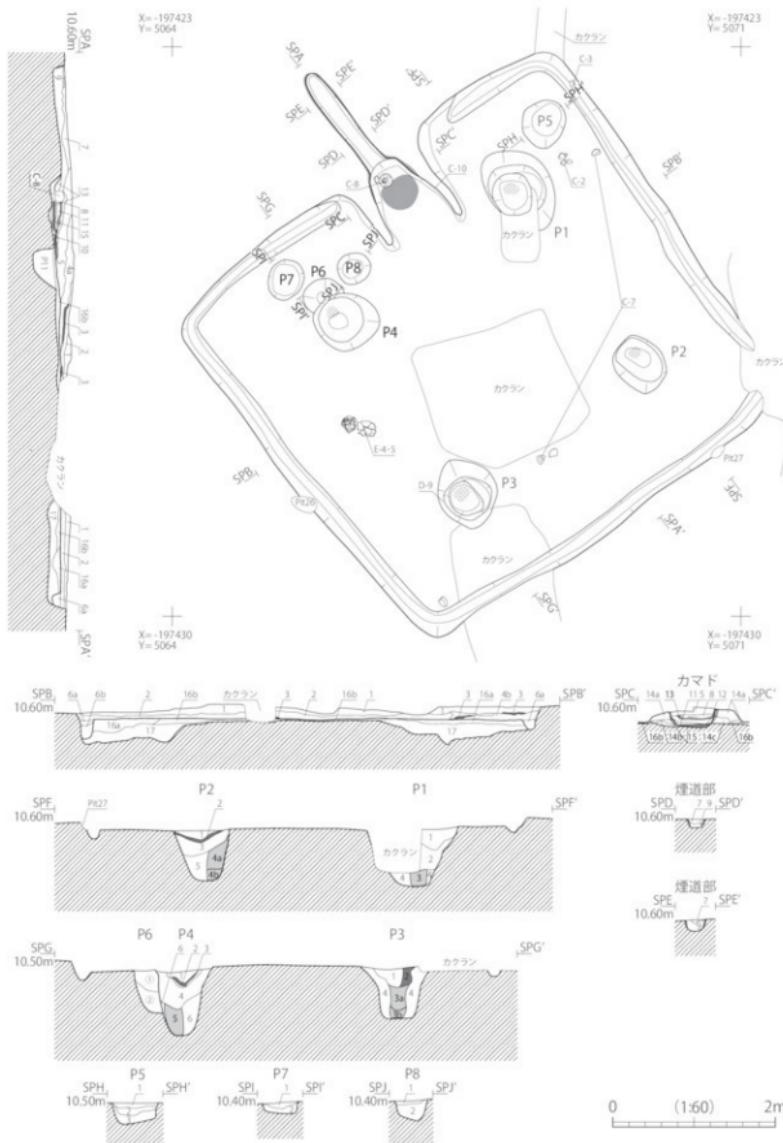
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 3 ~ 18cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

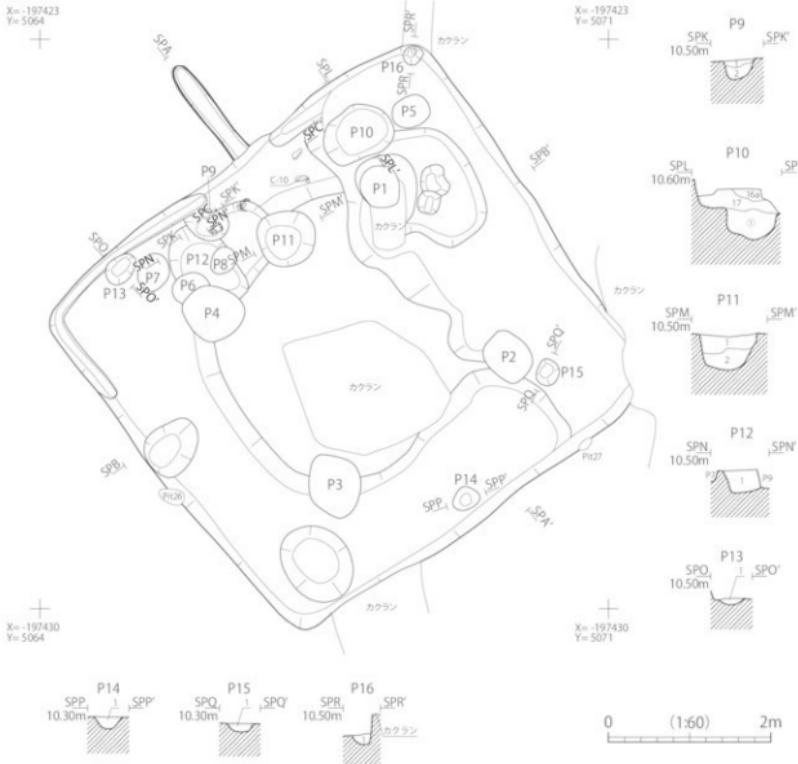
【柱穴】 床面から 5 基（P1 ~ 4・6）、掘り方から 3 基（P14 ~ 16）、総数 8 基検出した。規模や位置関係から P1 ~ 4 は主柱穴と考えられ、規模は長軸 67 ~ 113cm、深さ 62 ~ 82cm を測る。全て柱痕跡が確認され、径 21 ~ 26cm 程度である。P2 ~ 4 は、堆積土上～中位に炭化物がレンズ状に堆積していた。

【周溝】 カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 15 ~ 29cm、深さ 4 ~ 20cm を測る。

【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に直交して付設され、規模は東袖が長さ 123cm、幅 16 ~ 48cm、西袖が長さ 102cm、幅 18 ~ 39cm を測る。両袖の焚口部には、芯材が認められ、東袖には土師器壺の破片が埋設されていた（第 19 図-6）。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き 110cm、焚口幅 77cm を測る。底面は平坦で、径 45cm 程の焼面がみられる。土師器壺が支脚として転用されており（第 19 図-5）、逆位の状態で設置されていた。その上位には別個体の土師器壺の破片が出土しており、高さが調整されていたと考えられる。奥壁は外傾して 8cm 程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は底面が平坦で、



第17図 SI217 竪穴住居跡（1）



SI217堆積土記表

部 位	層 位	土 色	土 性	層 号
住居堆積土	1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト 含泥量少。	
	2	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト 含泥量多、他土と・炭化物微量含む。	
	3	10YR2/1 黒色	シルト 炭化物土体、他土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	
	4a	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト 含泥土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	
	4b	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト 含泥量少。	
周溝	5	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト 含泥量多、他土と・炭化物微量含む。	
	6a	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト 含泥量少。	
	6b	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト 含泥土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	
	7	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト 含泥量多、他土と・炭化物少量含む。	
	8	10YR6/6 明黄褐色	シルト 含泥土土体、赤茶褐色風土。	
カマド	9	10YR3/1 黑褐色	シルト 炭化物土体。	
	10	10YR2/1 黑色	シルト 他土ブロック(5~10mm程度)少量多、炭化物少量含む。	
	11	10YR4/1 黄褐色	シルト 他土ブロック(5~10mm程度)少量多、炭化物少量含む。	
	12	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト 含泥量多量、炭化物少量含む。	
	13	5YR6/6 赤褐色	砂質シルト 地土色。	
カマド構造土	14a	10YR5/4 にふい黄褐色	砂質シルト 他土・炭化物微量含む。	
	14b	7.5YR4/1 褐灰色	シルト 他土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。	
	14c	10YR6/4 にふい黄褐色	シルト 含泥土土体、炭化物微量含む。	
カマド廻り土	15	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト 黒褐色シルト・ロック(5~10mm程度)・他土和・炭化物微量含む。	
	16a	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト 含泥量少、炭化物微量含む。赤褐色土。	
掘り方	16b	10YR5/2 黄褐色	シルト 褐灰土シルトと互層状に堆積。赤褐色土。	
	17	10YR5/4 にふい黄褐色	砂質シルト 含泥土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	

第18図 SI217堅穴住居跡 (2)

規模は長さ 138cm、幅 21 ~ 25cm、深さ 10 ~ 13cm を測る。

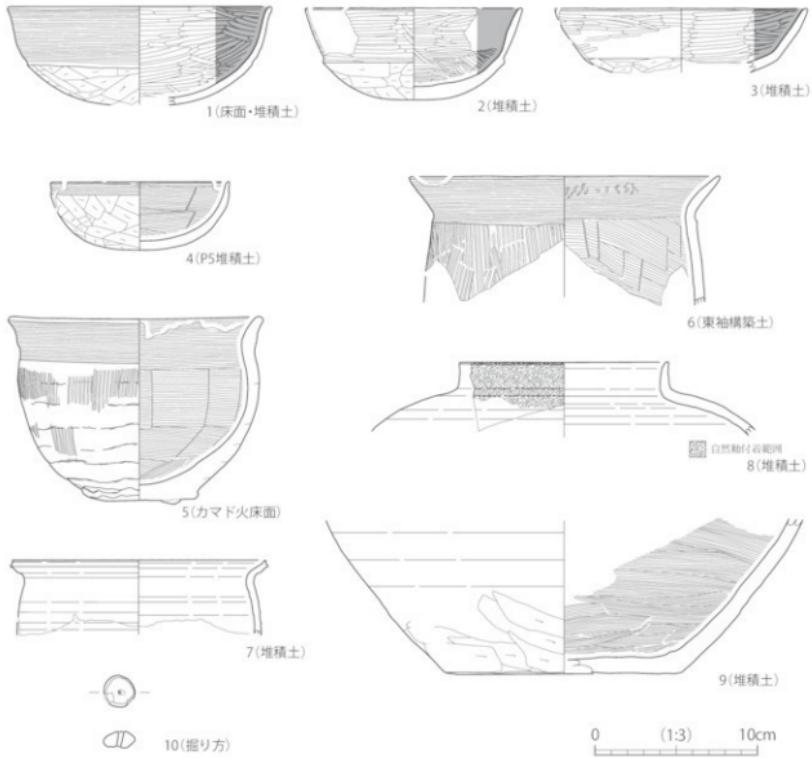
【その他の施設】 床面から 3 基 (P5・7・8)、掘り方から 5 基 (P9 ~ 13)、総数 8 基検出した。P5 は北東隅に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴であると考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸 60cm、短軸 52cm、深さ 28cm を測る。他は全てカマド付近に位置しており、P8・9 は堆積土に多量の焼土ブロック・焼土粒を含む。

【掘り方】 深さ 1 ~ 36cm 程度を測り、底面は中央部が高まり四壁方向へと低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、堆積土からロクロ土師器・不明土製品・台石、掘り方から刀子・土玉が出土している。この内、土師器壺 4 点、土師器甕 2 点、ロクロ土師器甕 1 点、須恵器壺 2 点、土玉 1 点を掲載した (第 19 図-1 ~ 10)。1 は床面及び堆積土、2・3・7 ~ 9 は堆積土、4 は P5 堆積土、10 は掘り方から出土し、6 は東袖の芯材、5 はカマド支脚として転用されていた。別遣構との重複が激しいことからも、堆積土から出土した遺物は本住居跡に伴ないと考えられる。土師器壺 (1 ~ 4) は全て底部から体部にかけて内湾し、1・2 が体部との境目に明瞭な稜をもつ。口縁部は 1 が内湾気味に、2・3 が直線的に外傾し、4 が短く立ち上がる。外面の調整は、口縁部は 1・4 がヨコナデ、2・3 がヘラミガキ、体～底部は全てヘラケズリである。内面の調整は 1 ~ 3 がヘラミガキで黒色処理され、4 は口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラナデである。器形や調整の特徴から、4 は北武藏型土師器であると考えられる。土師器甕は、5 が小型甕、6 が長胴甕である。外面の調整は、口縁部はヨコナデ、胴部は 5 がハケメ・ナデ、6 がハケメであり、5 は外面の輪積み痕が顕著である。内面の調整は、口縁部は 5 がヨコナデ、6 がハケメ後ヨコナデ、胴部はヘラナデ、底部は 5 がナデである。ロクロ土師器甕 (7)

S217 族説觀察表

追跡名	平面形	幅横(cm) 〔行員×列員〕	層位	土 色	土 性	備 考	
						深さ	
P1	楕円形	113×78	72	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤土ブロック(5~30mm程度)や少量、炭化物微量含む。	
				2 10YR4/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	赤土ブロック(5~30mm程度)や少量、炭化物微量含む。	
				3 10YR8/1 灰白色	粘土質シルト	灰褐色のシルト和少量含む、半柱痕跡	
				4 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤土ブロック(5~10mm程度)少量、黒褐色・灰白色シルトブロック(各5mm程度)・炭化物微量含む。	
P2	楕円形	67×57	62	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV 帶土や少量、炭化物微量含む。	
				2 10YR2/1 黑色	シルト	炭化物土。	
				3 10YR4/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	IV 帯土・黑褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、赤土料・炭化物微量含む。	
				4a 10YR4/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	赤土料・黑褐色シルトブロック(5~10mm程度)・赤土料・炭化物微量含む、半柱痕跡	
				4b 10YR8/1 灰白色	シルト	半柱痕跡	
P3	楕円形	(89)×73	66	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV 帯土や少量、黑褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。	
				2 10YR2/1 黑色	シルト	炭化物土。	
				3 10YR4/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	IV 帯土や少量、炭化物微量含む。	
				3a 10YR8/1 灰白色	シルト	半柱痕跡	
				3b 10YR4/1 灰白色	シルト	半柱痕跡	
P4	円形	82×70	82	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV 帯土や少量、炭化物微量含む。	
				2 10YR2/1 黑色	シルト	炭化物土。	
				3 10YR2/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV 帯土ブロック(5~30mm程度)や少量、炭化物微量含む。	
				4 10YR4/2 に赤い黃褐色	砂質シルト	赤土ブロック(5~30mm程度)や少量、赤土料・炭化物微量含む。	
P5	円形	60×52	28	3 10YR3/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	IV 帯土や少量、炭化物微量含む。	
				3 10YR3/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	灰褐色シルト和少量含む。	
				3 10YR3/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	灰褐色シルト和微量含む。	
P6	円形	48×(33)	53	① 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV 帯土ブロック(5~30mm程度)や少量、炭化物微量含む。	
P7	円形	50×43	14	② 10YR4/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	IV 帯土・黑褐色シルトトロッカ(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P8	円形	41×38	25	1 10YR4/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	IV 帯土・半柱・黑褐色シルトトロッカ(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P9	楕円形	(55)×38	24	2 7.5YR4/1 黑色	シルト	半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱や少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
				2 10YR3/3 に赤い黃褐色	砂質シルト	IV 帯土や少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P10	楕円形	88×67	40	① 10YR5/4 に赤い黃褐色	シルト	IV 帯土ブロック(5~30mm程度)や少量、灰褐色粘土質シルトブロック(5~10mm程度)少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P11	円形	72×67	44	1 10YR5/4 に赤い黃褐色	シルト	IV 帯土ブロック(5~30mm程度)や少量、灰褐色粘土質シルトブロック(5~10mm程度)少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
				2 10YR5/4 に赤い黃褐色	シルト	IV 帯土ブロック(5~30mm程度)や少量、灰褐色粘土質シルトブロック(5~10mm程度)少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P12	楕円形	113×(74)	28	1 10YR4/4 に赤い黃褐色	シルト	IV 帯土ブロック(5~10mm程度)・半柱や少量、半柱・半柱(5~10mm程度)少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P13	円形	43×31	8	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV 帯土ブロック(5~10mm程度)や少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P14	円形	35×28	15	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV 帯土ブロック(5~10mm程度)や少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P15	円形	33×27	10	1 10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV 帯土ブロック(5~10mm程度)や少量、半柱・半柱(5~10mm程度)・半柱・炭化物微量含む。	
P16	円形	24×22	11	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV 帯土少量含む。	



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						上部	底	厚さ				
1	C-7	SI217	床面 堆積土	土器部	环	(16.1)	—	(6.0)	口縁部:口付 体~底部:八角形	口縁部:黑色 体~底部:黑色	9.1(左), 黒色處理	19
2	C-2	SI217	堆積土	土器部	环	(13.2)	—	5.6	口縁部:口付 体~底部:八角形	口縁部:黑色 体~底部:黑色	9.1(右), 黒色處理	19
3	C-3	SI217	堆積土	土器部	环	(15.4)	—	(3.9)	口縁部:口付 体~底部:八角形	口縁部:黑色 体~底部:黑色	9.2(左), 黒色處理	19
4	C-77	SI217	P5堆積土	土器部	环	(10.9)	—	4.2	口縁部:口付 体~底部:八角形	口縁部:口付 体~底部:八角形	9.2(右), 黒色處理	19
5	C-8	SI217	窯口火床面	土器部	甕	15.3	6.5	11.3	口縁部:口付 底部:一級部:口付	口縁部:口付 底部:口付	9.1(左) 支脚材	19
6	C-10	SI217	東袖構築土	土器部	甕	(18.8)	—	(7.9)	口縁部:口付 底部:口付	口縁部:口付→口付 底部:口付	東袖材	19
7	D-9	SI217	堆積土	口付土器部	甕	(15.5)	—	(4.6)	口付調整	口付調整	9.2(左)	19
8	E-4	SI217	堆積土	須恵器	短筒甕	(12.7)	—	(4.5)	口付調整	口付調整	外面自然処理	19
9	E-5	SI217	堆積土	須恵器	甕	—	(4.5)	(9.5)	口付調整 底部:口付→底部:八角形	口付調整 底部:口付→底部:八角形	9.1	19

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真 回数
						全長	幅	厚さ			
10	P-6	SI217	掘り方	土製品	土玉	1.9	1.9	1.0	3.60	外面全体的に摩滅。	19

第19図 SI217 積穴住居跡出土遺物

は口唇部が短く立ち上がる。須恵器短頸壺（8）と壺（9）はまとめて出土しているが、器厚も異なり接合も認められないため、同一個体かどうかは不明である。土玉（10）は中央部に孔があり、全体的に摩滅している。

【時期】カマドの支脚や芯材として使用されていた土師器壺（第19図-5・6）や、P5堆積土から出土した土師器環（第19図-4）が5a期（郡山I期官衙期）と考えられることから、5a期と考えられる。

SI218 竪穴住居跡（第20図）

【位置・確認】調査区北部中央、2・5・8グリッドに位置する。全体的に後世の削平を受けており、残存状態は悪い。東部は検出時に床面が露出し、西部は掘り方まで削平されており、壁面は残存していない。

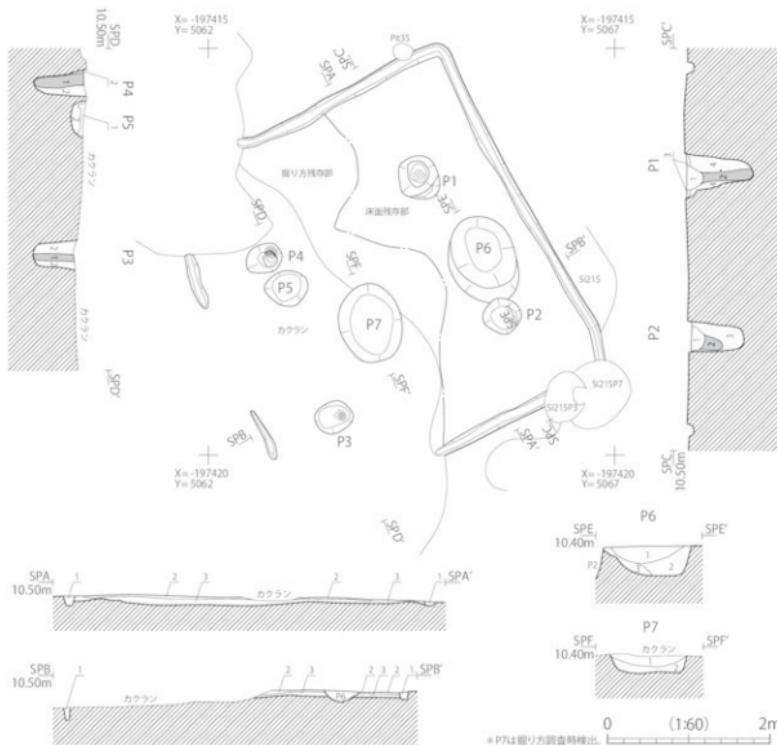
【重複】SI215、Pit35より古く、SI229・230・250、Pit96・98・99より新しい。

【規模・形態】検出した規模は長軸461cm、短軸429cmを測り、平面形状は方形と推定される。

【方向】東壁を基準としてN-28°Wである。

【堆積土】3層に分層した。1層は周溝堆積土、2・3層は掘り方埋土であり、2層が貼り床である。

【床面】東半部で残存しており、北部から南部へやや低くなる。



第20図 SI218 竪穴住居跡

SI218 堆積土註記表

部 位	幅 度	主 色	土 性	備 考
周溝	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	N粘土+・炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 黄褐色	シルト	灰白色粘土質シルトとの混土。炭化物微量含む。下部礫化・半粘土床
掘り方	3	10YR4/3 にぶい 黄褐色	シルト	N粘土ブロック(5~10cm程度)や多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。

SI218 施設痕跡表

施設名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	深さ	層位	主 色	土 性	備 考
P1	円形	53×50	83	1	10YR4/2 黒褐色	砂質シルト	N粘土+・炭化物微量含む。
				2	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	N粘土+ロック(5~10cm程度)少量含む。半粘土床
				3	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	灰白色粘土質シルトとの混土。炭化物微量含む。
				4	10YR4/2 黄褐色	シルト	N粘土ブロック(5~20cm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
P2	円形	44×43	68	1	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	N粘土+・炭化物微量含む。
				2	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	N粘土+ブロック(5~10cm程度)少量含む。半粘土床
				3	10YR4/2 黄褐色	シルト	N粘土+ブロック(5~20cm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
P3	楕円形	(46)×(38)	(53)	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土+・炭化物微量含む。
				2	10YR4/2 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5~20cm程度)多量含む。
P4	楕円形	(45)×(35)	(64)	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土+・炭化物微量含む。半粘土床
				2	10YR4/2 黄褐色	シルト	N粘土ブロック(5~20cm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
P5	楕円形	(5)×(4)	(20)	1	10YR3/1 にぶい 黄褐色	シルト	堆土ブロック(5~50mm程度)+堆土料多量、N粘土+・炭化物少量含む。
				2	10YR5/6 黄褐色	シルト	N粘土粒間に多量含む。
P6	楕円形	(11)×84	49	1	10YR8/2 黑褐色	粘土質シルト	N粘土+・炭化物微量、灰黃褐色シルト少量含む。
				2	10YR4/3 にぶい 黄褐色	シルト	N粘土ブロック(5~50cm程度)や少量、堆土料+・炭化物微量含む。
				3	10YR5/4 にぶい 黄褐色	シルト	N粘土粒多量、灰黃褐色シルトブロック(5~10cm程度)少量含む。
P7	楕円形	(9)×(7)	(25)	1	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	N粘土ブロック(5~20cm程度)や少量、堆土料+・炭化物微量含む。
				2	10YR5/1 黄褐色	粘土質シルト	N粘土ブロック(5~10cm程度)少量、堆土料+・炭化物微量含む。

【柱穴】 床面及び擾乱内から 4 基 (P1 ~ 4) 検出した。全て規模や位置関係から主柱穴であると考えられ、規模は長軸 44 ~ 53cm、深さ 53 ~ 83cm を測る。柱痕跡はすべての柱穴で確認され、径 9 ~ 18cm 程度である。

【周溝】 床面が残存している東部では壁面に沿って全周し、掘り方まで削平されている西部では西壁際に沿うと考えられる周溝が部分的に検出された。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 5 ~ 18cm、深さ 4 ~ 14cm を測る。

【その他の施設】 床面から 1 基 (P6)、擾乱内から 1 基 (P5)、掘り方から 1 基 (P7)、総数 3 基検出した。P5 は堆積土に多量の焼土ブロック・焼土粒を含む。P6・7 は長軸 100cm 程度の楕円形で規模が近似しており、堆積土に粘土質シルトが確認できた点も共通する。配置や堆積土から、本遺構に伴わない可能性も考えられる。

【掘り方】 深さ 4 ~ 15cm 程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 床面施設及び掘り方から土師器・須恵器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 SI215 より古く、SI229 より新しいことから、5a ~ bi 期（郡山 I ~ II 期官衙期）以降と考えられる。

SI219 穴住居跡（第 21・22 図）

【位置・確認】 調査区南西部、10・14・18 グリッドに位置する。全体的に後世の削平を受けており、残存状態は悪い。南部は掘り方まで削平されており、西壁・南壁面は残存していない。

【重複】 Pit34 より古く、SI226・228、SK209 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 552cm、短軸 526cm を測り、平面形状は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準として N - 25° - W である。

【堆積土】 4 層に分層した。1・2 層はにぶい黄褐色砂質シルト・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、3 層は周溝堆積土、4 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 5 ~ 10cm を測る。

【床面】 北部から東部にかけて残存しており、概ね平坦である。

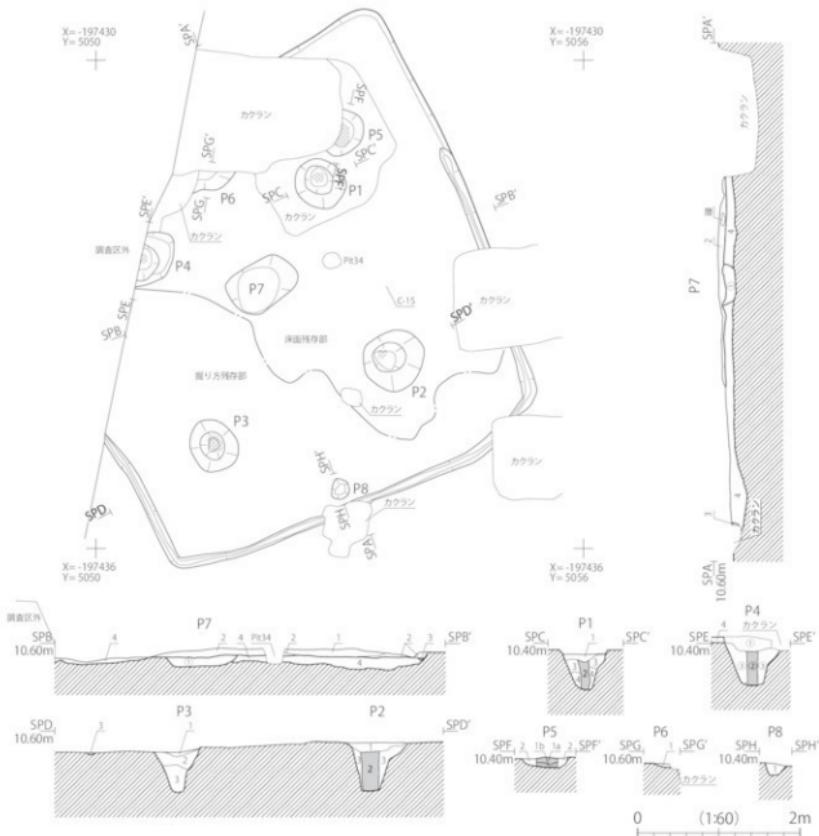
【柱穴】 床面及び掘り方残存部上面、擾乱内から 6 基 (P1 ~ 5・8) 検出した。P1 ~ 4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 63 ~ 77cm、深さ 49 ~ 60cm を測る。P5 は重複する SI226・228 に伴う可能性があり、規模は長軸 58cm、深さ 15cm を測る。P8 は位置関係から出入り口に伴う柱穴の可能性があり、規模は長軸 24cm、深さ 15cm を測る。柱痕跡は P1・2・4・5 から確認され、径 14 ~ 26cm 程度である。

【周溝】 北東隅以外の東壁面と西壁・南壁面に沿って巡る。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅8~16cm、深さ1~9cmを測る。

【その他の施設】 床面から2基(P6・7)検出した。

【掘り方】 深さ2~16cm程度を測り、底面は北部では緩やかに起伏がみられ、南部では東・西・南壁方向へ低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土・掘り方から土師器・須恵器、堆積土から砥石破片が出土しており、この内、土



SI219 堆積土記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
住居堆積土	1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト 粘化物少量、燒土和鐵量含む。	
	2	10YR4/2灰黃褐色	シルト 粘土質・粘化物少含む。	
周溝	3	10YR4/2灰黃褐色	砂質シルト 粘土質少含む。	
掘り方	4	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト 粘土質ブロック(5~10mm程度)少量含む。	

第21図 SI219 竪穴住居跡

SI219 住居跡表

遺構名	平面形	面積(cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考		
							層位	土色	
P1	円形 (63) × (59)	(49)	1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦刷土と少量含む。			
			2	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	瓦刷土ブロック(5~20mm程度)少量含む。半柱痕跡			
			3	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	瓦刷土ブロック(5~50mm程度)黒褐色土ブロック(5~10mm程度)やや多量含む。			
			4	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	瓦刷土ブロック(5~30mm程度)やや多量含む。			
P2	円形 (77) × (71)	60	1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦刷土・黒褐色土ブロック(5~30mm程度)やや多量、炭化物少量含む。			
			2	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	瓦刷土・砂少量、炭化物微量含む。半柱痕跡			
			3	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦刷土・黒褐色土ブロック(5~50mm程度)やや多量含む。			
P3	楕円形 (69) × (59)	(56)	1	10YR5/3に近い黄褐色	砂質シルト	炭化物や多量含む。			
			2	10YR5/2灰黒褐色	砂質シルト	瓦刷土・少量含む。			
			3	10YR4/2灰黒褐色	砂質シルト	瓦刷土・微量含む。			
P4	(楕円形) (72) × (38)	60	①	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦刷土ブロック(5~20mm程度)少量含む。			
			②	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦刷土ブロック(5~30mm程度)少量含む。半柱痕跡			
			③	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦刷土ブロック(5~30mm程度)やや多量含む。			
P5	(円形) (58) × (26)	(15)	1a	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。一部グリーン。半柱痕跡			
			1b	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦刷土・黒褐色土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物微量含む。半柱痕跡			
			2	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	瓦刷土ブロック(5~10mm程度)やや多量、黒褐色土ブロック(5mm程度)少量含む。			
P6	不明	(45) × (23)	5	1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	瓦刷土・黒褐色土ブロック(5~10mm程度)やや多量含む。		
P7	長方形	84 × 57	16	①	10YR4/2灰黒褐色	シルト	瓦刷土・黒褐色土ブロック(5~10mm程度)やや多量含む。		
P8	円形	(24) × (22)	(15)	1	10YR4/2灰黒褐色	シルト	瓦刷土・黒褐色土ブロック(5~10mm程度)やや多量含む。		



第22図 SI219 穫穴住居跡出土遺物

師器環3点を掲載した（第22図一～3）。1・3は堆積土、2はP2堆積土から出土した。全て鬼高系土師器の特徴をもち、1は环蓋模倣、2・3は环身模倣と考えられる。口縁部は1・2が直立、3が内傾気味に直立し、体部との境目に明瞭な稜をもつ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリである。内面は1が全面ヘラミガキで、2・3が口縁部はヨコナデ、体部は2がヘラナデ、3が放射状のヘラミガキである。

【時期】 P2堆積土から4a～b期（往社式期新段階～栗廻式期）と考えられる土師器環（第22図－2）が出土していることから、4a～b期と考えられる。

SI220 穫穴住居跡（第23・24図）

【位置・確認】 調査区中央部、10・14・15グリッドに位置する。西部と北東部が擾乱によって失われており、カマドは西半部が残存していた。

【重複】 SI225、SD81より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸372cm、短軸333cmを測り、平面形状は方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-0°である。

【堆積土】 10層に分層した。1～3層は灰黒褐色・黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土である。4～7層はカマド廻連の堆積層で、4層は下部が被熱していることから基本層IV層を主体とした天井崩落土と考えられ、6・7層は焼土と炭化物との混土である。8層はカマド袖構築上、9・10層は掘り方埋土であり、9層が貼り床である。

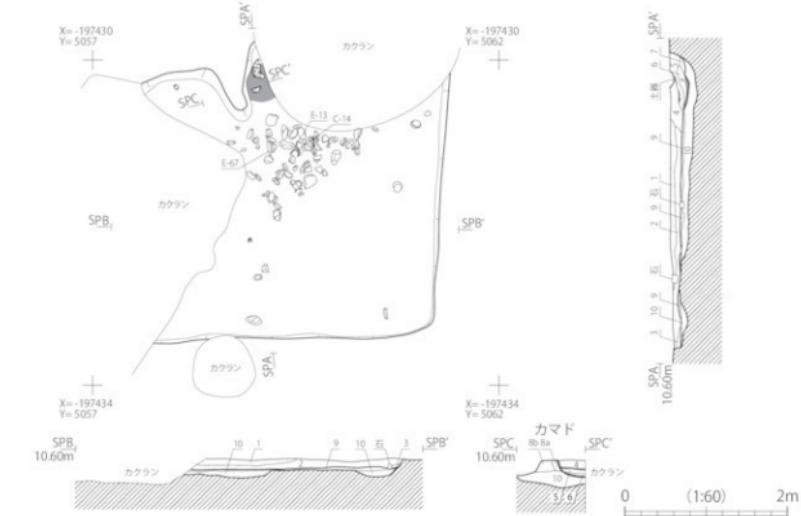
【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は5～18cmを測る。

【床面】 概ね平坦である。

【カマド】 北壁中央部のやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。カマド東半部が攪乱によって失われ西半部のみ残存しており、煙道部は削平の影響によって失われている。袖は壁面に直交して付設され、規模は西袖が長さ67cm、幅29~42cmを測る。燃焼部は30cm程度壁外に位置し、規模は奥行き98cmを測り、焚口は幅40cm残存している。底面は平坦で、径48cm程の焼面がみられる。奥壁は外傾して16cm程度立ち上がり、煙道部に繋がったと考えられる。なお、図化はしていないが、カマド堆積土から土師器甕の破片が、火床面から丸瓦の小破片が出土している。

【掘り方】 深さ1~20cm程度を測り、底面はカマドから前方部が一段低くなっている。

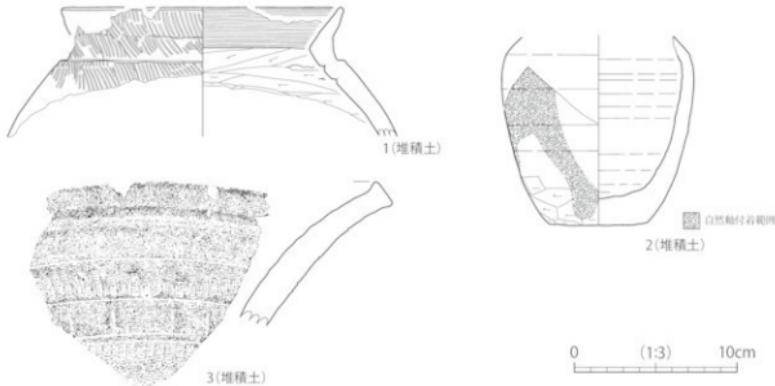
【出土遺物】床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器、堆積土から土玉1点、カマドから丸瓦破片1点、床面から鉄製品1点が出土している。特にカマド前方の堆積土中からは、埋没途中の投棄と考えられる多量の礫がまとまって出土した。この礫とともに出土した須恵器・土師器破片の内、土師器甕1点と須恵器壺1点・甕1点を掲載した(第24図-1~3)。これらは、本遺構に伴わない可能性が高い。土師器甕(1)は口縁部と胴部との境に明瞭な稜をもち、調整は外側がハケメ、内側が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリである。須恵器壺(2)は、肩部から底部にかけて残存しており、外側に自然軸が付着する。須恵器甕(3)は、口唇部が短く立ち上がり、口縁部に沈線が3条、櫛状工具による縱長列点文・押引文が4段施されている。



S1220 墓地土質記表

箇	部	種	目	科	属	種	原	考
柱筋堆積土		1	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	白雲土粘・炭化物微量含む。		
		2	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	白雲土粘(0.05~10mm程度)少量、炭化物微量含む。		
		3	10YR5/6	黃褐色	砂質シルト	白雲土土体、黑雲母土粘微量含む。		
カマド		4	10YR4/3	灰・黃褐色	砂質シルト	白雲土粘・炭化物微量含む。※天保原土。		
		5	10YR4/3	灰・黃褐色	砂質シルト	地盤上・ブロック(0~20mm程度)部分に多量、炭化物微量含む。		
		6	10YR2/1	黑色	シルト	地盤上・ブロック(0~10mm程度)・地盤上・炭化物や少量含む。		
カマド構築土		7	7.5YR4/1	灰褐色	砂質シルト	地盤上・土壌・地盤上・ブロック(0~10mm程度)・炭化物少量含む。		
		8a	7.5YR4/3	褐色	砂質シルト	地盤上・ブロック(0.05~0.1mm程度)少量含む。		
		8b	10YR4/3	灰・黃褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。		
割り方		9	10YR5/1	黑色	シルト	白雲土粘・シルトとの混土、炭化物微量含む。下部細化。※筋引床		
		10	10YR4/3	灰・黃褐色	シルト	黄褐色土粘(0.05~0.1mm程度)少量含む。		

第23図 SI220 穂穴住居跡



第24図 SI220 穫穴住居跡出土遺物

【時期】 SI225より新しいこととカマドから丸瓦の破片が出土していることから、5bi～ii期（郡山II期官衙期～郡山II期官衙期以降）と考えられる。

SI221 穫穴住居跡（第25図）

【位置・確認】 調査区南西部、18グリッドに位置する。大半は調査区外となり、北東部周辺を検出した。第8次調査で検出されているSX3と同一遺構であると考えられる。

【規模・形態】 検出した規模は長軸220cm、短軸212cm、第8次調査のSX3と合わせると長軸340cm、短軸307cmを測る。平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 東壁を基準としてN-31°-Wである。

【堆積土】 3層に分層した。1層はにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、2層は周溝堆積土、3層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は10～17cmを測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

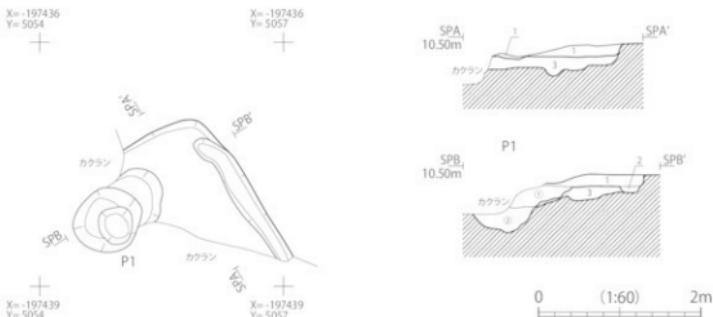
【周溝】 東壁面に沿って巡る。断面形状は逆台形状を呈し、規模は幅19～29cm、深さ5～8cmを測る。

【その他の施設】 床面から1基（P1）検出した。第8次調査のSX3と同一遺構として考えると、規模や位置関係から貯蔵穴であると考えられる。平面形状は橢円形を呈し、規模は長軸122cm、短軸77cm、深さ63cmを測る。

【掘り方】 深さ6～21cm程度を測り、底面は埋際が一段高く中央部が低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 詳細な時期は不明だが、出土遺物から4・5期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。



SI221 堆積土註記表				備 考
層 位	標 位	土 色	土 性	
住居跡土	1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	古褐色土粒・黒褐色土粒少量・炭化物微量含む。
周溝	2	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	古褐色土粒微量含む。
掘り方	3	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	古褐色ブロック(5~30mm程度)多量・黒褐色シルトブロック(10~20mm程度)少量含む。

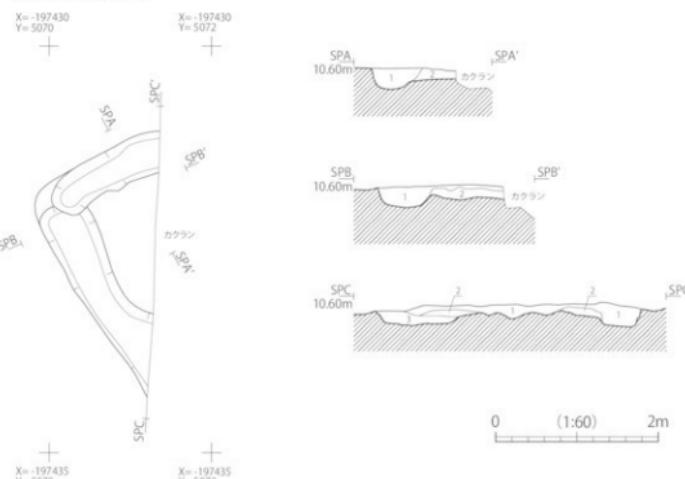
SI221 旗設観察表						備 考
遺構名	平面形	[幅幅×奥幅] [深さ]	層位	土 色	土 性	
P1 (楕円形)	(122)×(77)	63	①	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	古褐色土粒・黒褐色土粒の互層・地土ブロック(5mm程度)・炭化物少量含む。
			②	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	古褐色ブロック(5~15mm程度)多量・黒褐色土粒ブロック(5mm程度)・炭化物少量含む。

第 25 図 SI221 穫穴住居跡

SI222 穫穴住居跡（第 26・27 図）

【位置・確認】 調査区中央東部、15・16 グリッドに位置する。東部から南部は擾乱によって失われており、北西部周辺を検出した。床面は全て削平されており、掘り方のみが残存していた。

【重複】 SI223 より新しい。



第 26 図 SI222 穫穴住居跡

SI222 堆積土記表

部 位	層 位	主 色	土 性	備 考
掘り方	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト A1層土・炭化物微量含む。	
	2	10YR3/2 黄褐色	シルト 無色粘土質シルトブロック(5~20mm程度)頂に少量含む。	
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト A1層土・炭化物微量含む。	



箇所	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法線(㎝)	外面調整	内面調整	備考	写真番号
1	C-16	SI222	掘り方	土師器	环	(11.80) - (2.97)	口縁部:3.0付 底部:6.9付	口縁部:3.0付 体部:6.9付		20

第27図 SI222 穫穴住居跡出土遺物

【規模・形態】 検出した規模は長軸 289cm、短軸 187cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準として N – 30° – W である。

【堆積土】 3 層に分層し、全て掘り方埋土である。

【掘り方】 深さ 8 ~ 25cm 以上であったと考えられ、底面は中央部が高まり北壁・西壁面方向へと低くなる。

【出土遺物】 掘り方から土師器・須恵器が少量出土しており、この内、土師器環 1 点を掲載した（第27図-1）。掘り方から出土した小片であるため、混入であり本遺構に伴わないと考えられる。鬼高系土師器の特徴をもち、坏蓋模倣であると考えられる。口縁部は直立して立ち上がり、調整は外側が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。

【時期】 詳細な時期は不明だが、SI223 より新しいことから 5a 期（郡山 I 期官衙期）以降と考えられる。

SI223 穫穴住居跡（第28・29図）

【位置・確認】 調査区中央部東、12・15・16・20 グリッドに位置する。東部から南部は擾乱によって失われており、北西部周辺を検出した。カマドは西半部が残存している。

【重複】 SI222、SD113、Pit38 より古く、SI237・240・241 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 481cm、短軸 273cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準として N – 25° – W である。

【堆積土】 13 層に分層した。1 ~ 5 層は住居堆積土で、上層（1・2 層）の砂質シルト層と下層（3 ~ 5 層）のシルト層に土性で 2 大別される。6 層は周溝堆積土である。7・8 層はカマド関連の堆積土で、7 層は炭化物主体、8 層は焼土粒を多量に含む。9 層はカマド袖構築土で、10 ~ 13 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は 10 ~ 29cm を測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・2）検出した。規模や位置関係から P1 は主柱穴と考えられ、規模は長軸 56cm、深さ 74cm を測り、柱痕跡は径 15cm 程度である。周溝の底面から検出された P2 は壁柱穴であると考えられ、規模は長軸 33cm、深さ 15cm を測る。

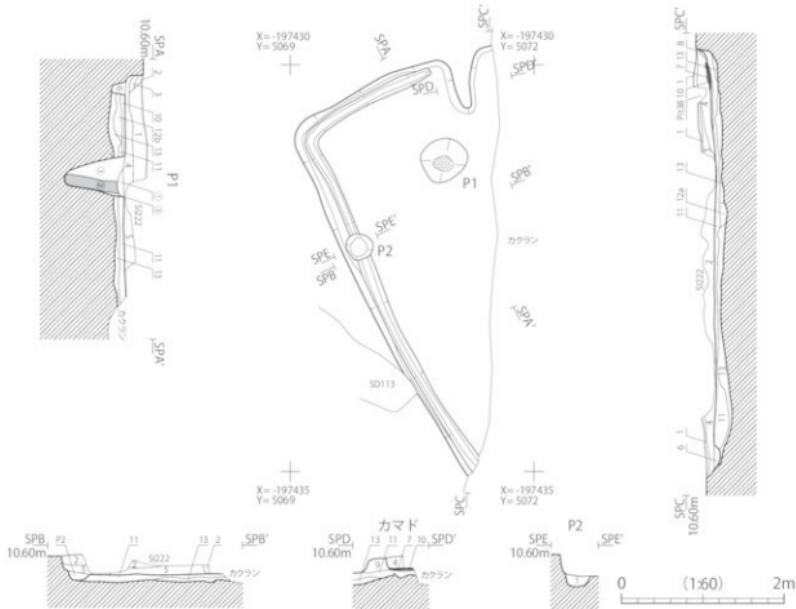
【周溝】 検出された範囲では、カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面のやや内側に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 12 ~ 19cm、深さ 3 ~ 17cm を測る。

【カマド】 北壁に位置し、壁面に直交して付設されている。カマド東半部が擾乱によって失われ西半部のみ残存しており、煙道部は削平の影響によって失われている。西袖は壁面に対してやや「ハ」の字状に付設され、規模は長さ 74cm、幅 31 ~ 43cm を測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き 74cm を測り、焚口は幅 28cm 残存している。

底面は奥壁から焚口に向って傾斜しており、被熱は弱く焼化は進んでいない。奥壁は外傾し13cm程度立ち上がり、煙道部に繋がったと考えられる。

【掘り方】深さ7~22cm程度を測り、底面は南部中央がやや高まる。

【出土遺物】床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、堆積土から刀子が出土している。この内、堆積土から出土した土師器壺1点、刀子1点を掲載した(第29図-1・2)。土師器壺(1)は、口縁部が直線的



SI223 堆積土註記表

部位	層	色	土 性	備 考
住居堆積土	1	10YR4/2 从黃褐色	砂質シルト	粘土粒・炭化物微量含む。
	2	10YR4/2 从黃褐色	砂質シルト	粘土粒プロック(5~10mm程度)やや多量、炭化物微量含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘土粒・黑褐色粘土質シルト粘土に少額含む。
	4	10YR4/2 从黃褐色	シルト	粘土粒・炭化物微量含む。
	5	10YR5/4 に5-3 黄褐色	シルト	粘土粒に多量、黒褐色粘土質シルトプロック(10~30mm程度)少額含む。
廻溝	6	10YR4/3 に5-3 黄褐色	シルト	黒褐色粘土質シルト粒多量、粘土粒やや多量含む。
カマド	7	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物1種。
	8	7.5YR5/2 从黃褐色	シルト	砂土粒や少多量、塊状プロック(5mm程度)少額含む。
	9	7.5YR4/2 从黃褐色	シルト	粘土粒・炭化物微量含む。
掘り方	10	10YR6/6 从黃褐色	粘土質シルト	粘土粒上位、燒土粒微量含む。
	11	10YR4/3 に5-3 黄褐色	シルト	粘土粒・黑褐色粘土粒微量含む。
	12a	10YR4/3 に5-3 黄褐色	シルト	粘土粒・黑褐色シルト粒多量、燒土粒少量、炭化物微量含む。
	12b	10YR4/3 に5-3 黄褐色	シルト	粘土粒・黑褐色シルト粒多量、燒土粒やや多量、炭化物微量含む。
	13	10YR5/2 从黃褐色	粘土質シルト	粘土粒・黑褐色シルト粒少額含む。

SI223 掘股側壁表

造営名	平面形	幅員(cm)	層位	土 色	土 性	備 考	
						(1) 10YR4/2 从黃褐色	(2) 10YR4/2 从黃褐色
P1	円形	56×51	74	① 10YR4/2 从黃褐色 ② 10YR4/2 从黃褐色 ③ 10YR5/4 に5-3 黄褐色	砂質シルト	IV 粘土粒・焼土粒・炭化物微量含む。	砂質シルト
					IV 粘土粒・少額含む、半柱痕跡	IV 粘土粒・少額含む	IV 粘土粒・少額含む
					IV 粘土粒プロック(5~20mm程度)やや多量、黒褐色粘土質シルトプロック(5~10mm程度)少額含む。	IV 粘土粒・少額含む	IV 粘土粒・少額含む
P2	円形	33×32	15	1 10YR4/2 从黃褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトプロック(5~10mm程度)、粘土粒・焼土粒・炭化物微量含む。	

第28図 SI223 積穴住居跡



第29図 SI223 穫穴住居跡出土遺物

に外傾し、体部との境目に明瞭な稜をもつ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリで、内面がヘラミガキで黒色処理される。

【時期】 詳細な時期は不明だが、SI237より新しいことから、5a期（郡山1期官衙期）以降と考えられる。

SI224 穫穴住居跡（第30・31図）

【位置・確認】 調査区中央部、7・8・10・11グリッドに位置する。全体的に後世の削平を受けしており、残存状態は悪い。特に北部は掘り方まで削平されており、北部壁面は残存していない。

【重複】 SI217、Pit57より古く、SI225・246より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸497cm、短軸417cmを測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-58°-Eである。

【堆積土】 10層に分層した。1層は灰黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、2層は周溝堆積土である。3～7層はカマド関連の堆積土で、3層は燃焼部、4～7層は煙道部の堆積土である。8～10層は掘り方埋土である。

【壁面】 南壁と西壁南部が残存している。直線的に直立して立ち上がり、壁高は1～11cmを測る。

【床面】 南壁と南西・南東隅周辺で残存しており、概ね平坦である。

【柱穴】 床面及び搅乱内から4基（P1～4）検出した。全て規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸55～73cm、深さ33～86cmを測る。柱痕跡はP1・3から確認され、径20～23cm程度である。

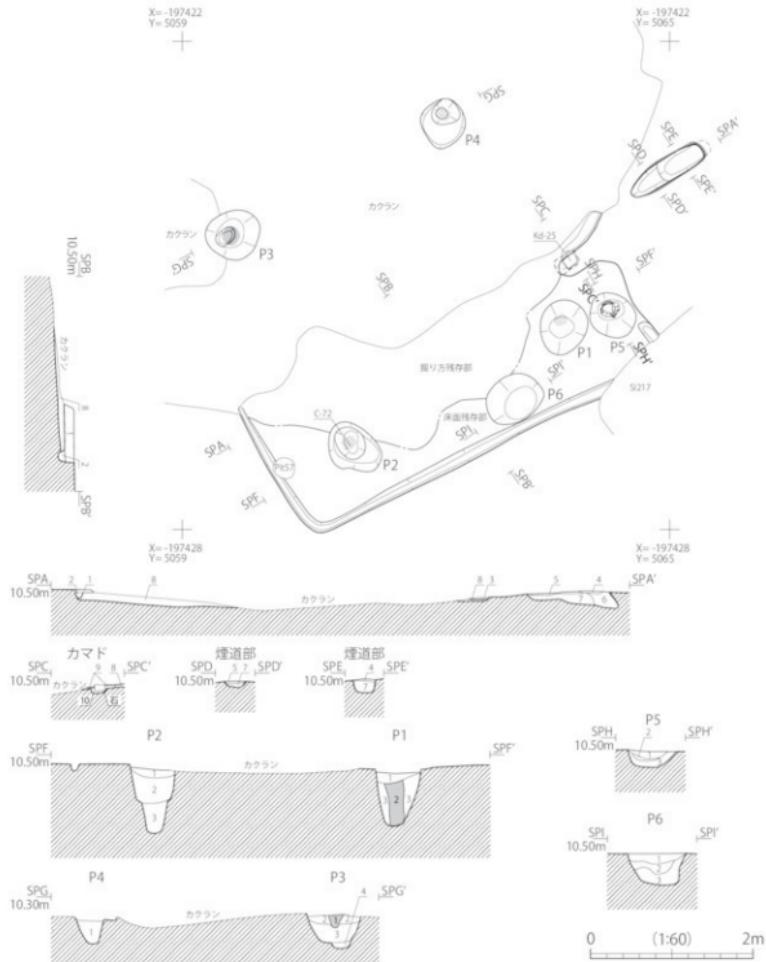
【周溝】 検出された範囲では、カマドが付設されている東壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅7～17cm、深さ6～16cmを測る。

【カマド】 東壁中央部のやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。後世の削平の影響で、煙道基部及び北袖と燃焼部の大半は消失している。南袖は壁面に直交して付設され、規模は長さ60cm、幅22～48cmを測り、袖の焚口部には凝灰岩製の切石が芯材として埋設されていた（写真図版20-7）。燃焼部は24cm程度壁外に位置し、規模は奥行き73cm、幅は最大14cm残存している。底面は大半が削平されているため詳細不明である。奥壁は外傾して3cm程度立ち上がり、煙道部に繋がったと考えられる。煙道部は基部から煙出し方向に傾斜しており、煙出し部分の先端が10cm程度オーバーハングする。規模は長さ102cm、幅10～27cm、深さ6～20cmを測る。

【その他の施設】 床面から2基（P5・6）を検出した。P5は南東隅に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴であると考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸53cm、深さ23cmを測る。堆積土上面から土師器片が出土し、中位には焼土が堆積していた。P6は堆積土上層に多量の焼土ブロック・焼土粒・炭化物を含む。

【掘り方】 深さ1～15cm程度を測り、底面は緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器が出土している。この内、土師器環2点、土師器壺1点を掲載した（第31図-1～3）。またカマド袖から芯材として出土した切石1点を写真のみ掲載した（写

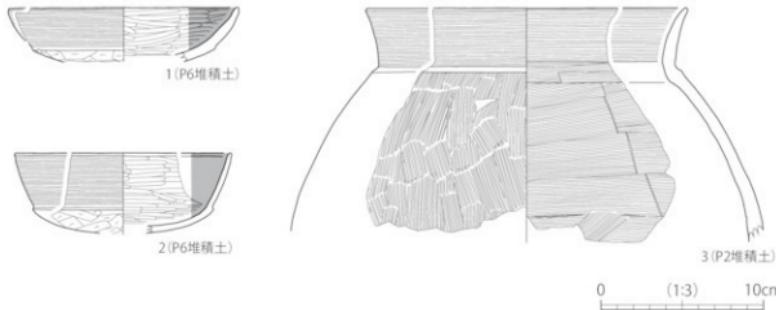


部位	層位	層色	土性	備考
住居堆积土	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	砂化鉄粒少額、植土和・炭化物微量含む。
周溝	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘土粒・炭化物微量含む。
カマド	3	10YR5/3 に漸く黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。
	4	5YR3/1 黑褐色	シルト	砂土粒や多量含む。
	5	10YR5/3 に漸く黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。
	6	5YR2/1 黑色	シルト	黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)多量、粘土粒少額含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト粒や多量、炭化物微量含む。
掘り方	8	10YR4/3 に漸く黄褐色	シルト	粘土粒ブロック(5~10mm程度)少量、砂土粒・炭化物微量含む。
	9	10YR6/6 明顯褐色	シルト	粘土粒少額。
	10	10YR6/4 に漸く黄褐色	砂質シルト	砂土粒・炭化物微量含む。

第30図 SI224 竪穴住居跡

SI224 施設観察表

施設名	平面形	面積(cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土 色	土 性	備 考	
							シルト	粘土質シルト
P1	円形	67×59	70	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	粘土質少量、炭化物微量含む。	
				2	10YR4/3 に△の黄褐色	シルト	粘土質ブロック(5~10mm程度)やや多量、炭化物少額含む。しまり弱い。※柱取跡	
				3	10YR4/4 浅褐色	砂質シルト	粘土質ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物微量含む。	
P2	楕円形	67.0×55.4	86	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘土質少量、炭化物微量含む。	
				2	10YR4/3 に△の黄褐色	シルト	粘土質ブロック(5~20mm程度)やや多量含む。	
				3	10YR4/2 浅褐色	シルト	粘土質ブロック(5~20mm程度)やや多量、炭化物微量含む。	
P3	円形	66.7×66.0	42	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	粘土質ブロック(5~10mm程度)やや多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。 ※柱取跡	
				2	10YR5/3 に△の黄褐色	シルト	粘土質ブロック(5~20mm程度)多量、灰黃褐色シルトやや多量含む。	
				3	10YR5/4 に△の黄褐色	シルト	粘土質多量、灰黃褐色シルト和少量含む。	
P4	椭丸方形	55.0×54.0	33	1	10YR4/3 に△の黄褐色	粘土質シルト	粘土質少量含む。	
				2	10YR5/3 に△の黄褐色	シルト	粘土質ブロック(5~10mm程度)やや多量、炭化物少額含む。しまり弱い。	
				3	5YR5/4 に△の黄褐色	砂質シルト	砂土質	
P5	円形	60×53	23	1	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	砂土質少量含む。	
				2	5YR4/4 に△の黄褐色	砂質シルト	砂土質	
				3	10YR5/3 に△の黄褐色	砂質シルト	砂土質少量含む。	
P6	楕円形	72×57	40	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	粘土質少量含む。	
				2	10YR4/2 灰褐色	シルト	粘土質・地土ブロック(5~10mm程度)・砂土多量、炭化物やや多量、灰白色粘土質シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。	
				3	10YR6/2 灰褐色	粘土質シルト	灰白色粘土質シルトブロック(5~30mm程度)多量含む。	



固版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法面(cm)			外側調整	内側調整	備 考	写真 回数
						口縁	幅	厚さ				
1	C-19	SI224	P6堆積土	土師器	环	(14.0)	—	(3.3)	口縁部:12mm 体部:9mm	口縁部:10mm 体部:9mm	口縁部:10mm 体部:9mm	20
2	C-81	SI224	P6堆積土	土師器	环	(13.2)	—	(4.9)	口縁部:13mm 体部:10mm	口縁部:10mm 体部:9mm	口縁部:10mm 体部:9mm	20
3	C-72	SI224	P2堆積土	土師器	帯	(9.9)	—	(4.4)	口縁部:13mm 体部:10mm	口縁部:10mm 体部:9mm	口縁部:10mm 体部:9mm	20

固版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法面(cm)			重量(g)	石材	備 考	写真 回数
						全長	幅	厚さ				
—	Kd-25	SI224	南端断面	石器類	磨石	17.7	(12.0)	11.9	1880.4	凝灰岩	切石	20

第31図 SI224 穫穴住居跡出土遺物

真図版20~7)。1・2はP6堆積土、3はP2堆積土から出土した。土師器環(1・2)は口縁部が内湾気味に外傾し、体部との境目に明瞭な棱をもつ。調整は、外側が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、内側がヘラミガキで黒色処理される。土師器壺(3)は大型広口壺で、調整は外側が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内側が口縁部ヨコナデ、頸～体部ヘラナデである。

【時期】 P2・6堆積土から5a期(郡山1期官衙期)と考えられる土師器環・壺(第31図-1~3)が出土していることSI217より古いことから、5a期と考えられる。

SI225 穫穴住居跡(第32~36図)

【位置・確認】 調査区中央部、8・10・11・15グリッドに位置する。重複遺構と後世の削平の影響により、東壁・北壁東部は残存していない。

【重複】 SI217・220・224、SK205・208、Pit12・26・43・57・65・82より古く、SI227より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 641cm、短軸 638cm を測り、平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として N - 40° - W である。

【堆積土】 19 層に分層した。1～12 層は、概ね灰黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土である。2・4 層は炭化物層であり、堆積土中位～床面直上にかけてレンズ状に堆積する。10・11 層は黒色粘土質シルト・黒褐色シルトであり、南壁・西壁・北壁西部にかけての壁際に堆積しており壁材崩落土の可能性がある。13・14 層は周溝堆積土である。15・16 層はカマド関連の堆積層で、15 層は焼土と灰の混土、16 層は焼土主体である。17 層はカマド袖構築土で、18・19 層はカマド掘り方である。20 層は掘り方埋土である。

【壁面】 南壁と西壁、北壁西部が残存している。直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 12～33cm を測る。

【床面】 概ね平坦であるが、南部から北部へやや低くなる。

【柱穴】 床面から 7 基 (P1～5・8・11)、掘り方から 3 基 (P16～18)、総数 10 基検出した。P1～4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 79～132cm、深さ 56～73cm を測る。P1・3 は、堆積土上～中位に炭化物がレンズ状に堆積していた。P16～18 は P1・3・4 との位置関係から主柱穴が建て替えられた可能性があり、規模は長軸 81～87cm、深さ 63～70cm を測る。周溝の上面及び底面から検出された P5・8・11 は壁柱穴であると考えられ、規模は長軸 23～32cm、深さ 12～46cm を測る。柱痕跡は P5・8・16・17 から確認され、径 6～12cm 程度である。

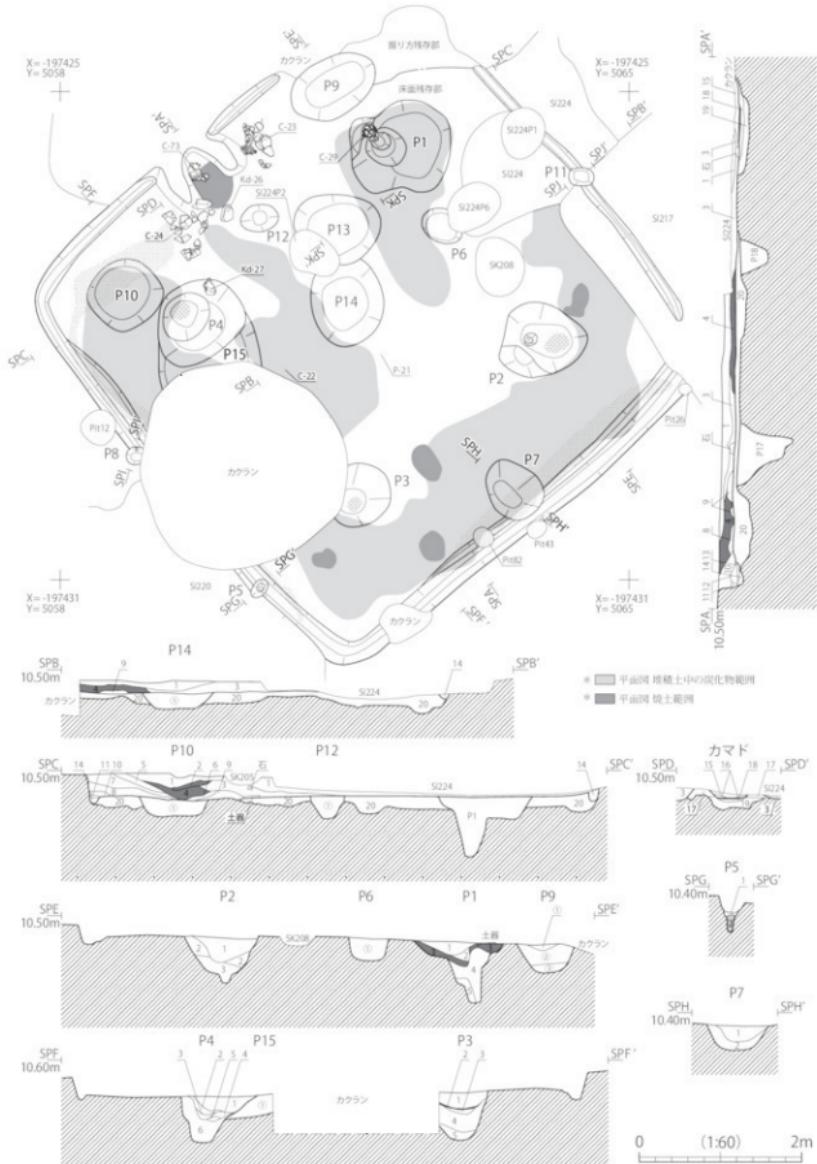
【周溝】 検出された範囲では、カマドが付設されている北壁の一部を除き壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 11～41cm、深さ 2～15cm を測る。

【カマド】 北壁中央部のやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部の上部と煙道部は、後世の削平の影響によって失われている。袖は壁面に直交して付設され、規模は東袖が長さ 71cm、幅 35～38cm、西袖が長さ 88cm、幅 32～44cm を測る。西袖には、自然礫が芯材として埋設されていた。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き 81cm、焚口幅 33cm を測る。底面は平坦で、全体的に焼けている。奥壁は緩やかに外傾し 4cm 程度立ち上がり、煙道部に繋がったと考えられる。

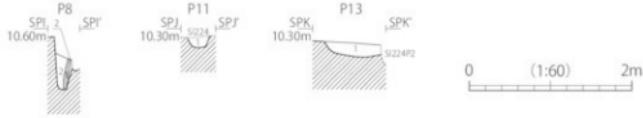
【その他の施設】 床面から 8 基 (P6・7・9・10・12～15)、掘り方から 2 基 (P19・20)、総数 10 基検出した。P9・10 はそれぞれ北東隅・北西隅に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴であると考えられる。平面形状は P9 が楕円形、P10 が隅丸方形を呈し、規模は長軸 85～113cm、短軸 71～82cm、深さ 22～35cm を測る。他の土坑は P7 が南壁中央付近、その他はカマド前方から中央部にかけて位置している。

【掘り方】 深さ 3～27cm 程度を測り、底面は中央部が高まり四壁方向へと低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器・石製品・土製品が出土している。この内、土師器環 1 点、土師器鉢 3 点、土師器甕 2 点、土師器壺 1 点、環状土製品 1 点、土製の支脚 1 点を掲載した（第 34～36 図-1～9）。また床面と P4 堆積土上面から出土した切石 2 点を写真のみ掲載した（写真図版 21～3・4）。8・9 は堆積土、1・4 は床面、5 はカマド火床面、6 は P1 堆積土上面、3 は P19 堆積土、7 は床面・カマド・P7 堆積土、2 は掘り方から出土した。土師器環（1）と土師器鉢（2）は全て底部から体部にかけて内湾し、口縁部と体部との境目に明瞭な稜をもつ。口縁部は 1 が直線的に、2 がやや外反気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部が 1 はヘラケズリ、2 はヘラケズリ後ミガキ、内面がヘラミガキで黒色処理される。土師器鉢（3）は平底で、調整は外面が口縁部ヨコナデ、体部上～中位ハケメ後ナデ、体部下位ヘラケズリである。土師器鉢（4）は小型の壺の可能性もある。調整は内外面ともに口縁部ヨコナデ、体部ハケメである。土師器甕（5）が長胴甕、6 が小型甕である。調整は外面が 5 が口縁部ハケメ後ヨコナデ、6 が口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ・ケズリ、内面が口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラナデ・ナデである。土師器壺（7）は単孔の大型壺で、口縁部と胴部との境目に明



第32図 SI225 竪穴住居跡 (1)



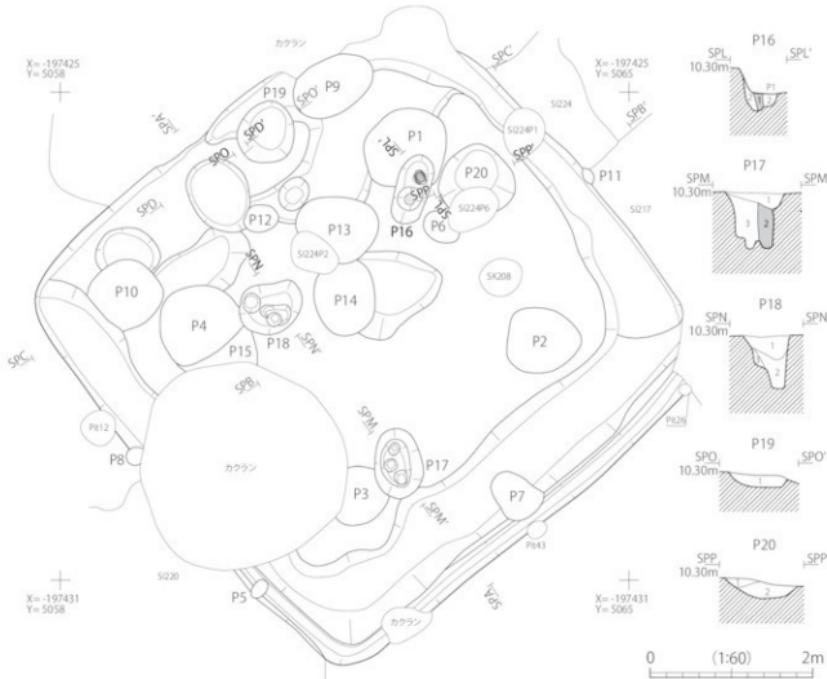
SI225 増積土試験表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
住居堆積土	1	10YR4/2 黒褐色	砂質シルト	炭化鉄粒少額、植土・炭化物微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	炭化物少額、植土粒や少額含む。
	3	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	炭化鉄粒少額、植土・炭化物微量含む。
	4	10YR2/1 黑色	シルト	炭化物少額、植土粒に多額含む。
	5	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	炭化鉄粒少額、植土・炭化物微量含む。
	6	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	炭化物少額、植土粒・炭化物微量含む。
	7	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化鉄粒シルト少額、炭化物微量含む。
	8	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	炭化鉄粒・炭化物微量含む。
	9	10YR6/4 に～5 黄褐色	シルト	黑色粘土・シルト粒や少額含む。
	10	10YR2/1 黑色	粘土質シルト	粘土質シルト・少額含む。
	11	10YR3/2 黑褐色	シルト	黑色粘土・シルト・ブロック(5mm程度)少額含む。
	12	10YR5/4 に～5 黄褐色	砂質シルト	砂質シルト・少額含む。
面溝	13	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	黒褐色・ブロック(5~50mm程度)や少額、N層土粒少額含む。
	14	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	N層土粒や少額、炭化物シルト少額含む。
カマド	15	7.5TR4/1 黑褐色	シルト	植土・炭多量、N層土・ブロック(5mm程度)・炭化物少額含む。
	16	SYR5/4 に～5 黄褐色	シルト	植土・土・炭化物少額含む。
カマド構築土	17	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	N層土・ブロック(5~10mm程度)少額含む。
	18	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	N層土・ブロック(5mm程度)や少額、炭化物少額含む。
カマド掘り方	19	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	N層土・ブロック(5~10mm程度)少額含む。
掘り方	20	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	N層土・ブロック(5~10mm程度)多量、黑色粘土・ブロック(5mm程度)少額含む。

SI225 無機顕微鏡表 (1)

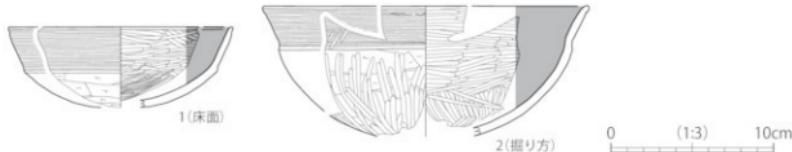
道構名	平面形	面積(m ²)		層位	土 色	土 性	備 考
		丘輪×矢輪	深さ				
P1	不整形	132×112	73	1	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	植土粒・炭化物微量含む。
				2	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	炭化物や少額、植土粒と少額含む。
				3	10YR2/1 黑色	シルト	炭化物少額。
				4	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	IV層土・ブロック(5~60mm程度)多量、黒褐色土粒少額、炭化物微量含む。
				5	10YR4/3 に～5 黄褐色	シルト	IV層土・ブロック(5~30mm程度)や少額含む。
P2	楕円形	112×92	56	1	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	IV層土・ブロック(5~80mm程度)少額、黒褐色土粒・炭化物微量含む。
				2	10YR4/3 に～5 黄褐色	シルト	IV層土・ブロック(5~30mm程度)多量、黒褐色土粒・炭化物微量含む。
				3	10YR4/3 に～5 黄褐色	粘土質シルト	IV層土・ブロック(5~10mm程度)や少額、炭化物微量含む。
P3	楕円形	79×(57)	59	1	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	IV層土・少額多量、黒褐色土粒・炭化物微量含む。
				2	10YR2/1 黑色	シルト	炭化物少額。
				3	10YR4/2 黑褐色	シルト	炭化物微量含む。
				4	10YR4/3 に～5 黄褐色	シルト	IV層土・ブロック(5~10mm程度)や少額、黒褐色土粒・炭化物微量含む。
				5	10YR4/4 黑色	シルト	IV層土・少額含む。
P4	楕円形	116×95	59	1	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	IV層土・黒褐色土粒少額、植土粒・炭化物微量含む。
				2	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	炭化物多量・古樹根少額微量含む。
				3	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	古樹根少額・黒褐色土粒微量含む。
P5	楕円形	27×17	36	1	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	IV層土・少額多量。
				2	10YR4/2 黑褐色	粘土質シルト	IV層土・粘土質多量。
				3	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	下部に黒褐色土粒・上部に空隙あり、古樹根跡。
				4	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	IV層土・ブロック(5~20mm程度)や少額、炭化物微量含む。
				5	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV層土・ブロック(5~30mm程度)や少額、炭化物微量含む。
				6	10YR4/3 に～5 黄褐色	シルト	IV層土・少額多量、黒褐色土粒少額含む。
P6	楕円形	52×42	27	①	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	IV層土・少額多量。
P7	楕円形	76×64	32	1	10YR4/3 に～5 黄褐色	シルト	IV層土・ブロック(5~10mm程度)少額、炭化物微量含む。
P8	楕円形	23×(19)	(46)	1	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	黒褐色土・ブロック(20mm程度)や少額、古樹根・ブロック(5mm程度)少額含む、古柱跡。
P9	楕円形	(113)×(71)	35	①	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	IV層土・少額多量、炭化物微量含む。
				②	10YR4/3 に～5 黄褐色	粘土質シルト	IV層土・黒褐色土粒少額、浅黄色粘土粒・植土粒・炭化物微量含む。
				③	10YR4/4 黑色	砂質シルト	黒褐色土粒少額含む。
P10	圓丸方形	85×82	22	④	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	IV層土・ブロック(5~20mm程度)や少額、黒褐色土と少額、白色粘土粒微量含む。
P11	楕円形	(32)×22	12	1	10YR4/2 黑褐色	砂質シルト	IV層土・ブロック(5~10mm程度)少額、炭化物微量含む。
P12	楕円形	47×33	28	⑤	10YR4/3 に～5 黄褐色	シルト	IV層土・ブロック(5~20mm程度)や少額、黒褐色土粒少額含む。
P13	(楕円形)	107×86	18	1	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	IV層土・ブロック(5~30mm程度)や少額、黒褐色土粒・炭化物微量含む。
P14	楕円形	(100)×90	21	⑥	10YR4/3 に～5 黄褐色	砂質シルト	IV層土・ブロック(5~30mm程度)や少額、黒褐色土粒少額含む。
P15	(楕円形)	(126)×(67)	27	⑦	10YR4/4 黑色	砂質シルト	IV層土多量、炭化物微量含む。

第33図 SI225 穴六住居跡 (2)



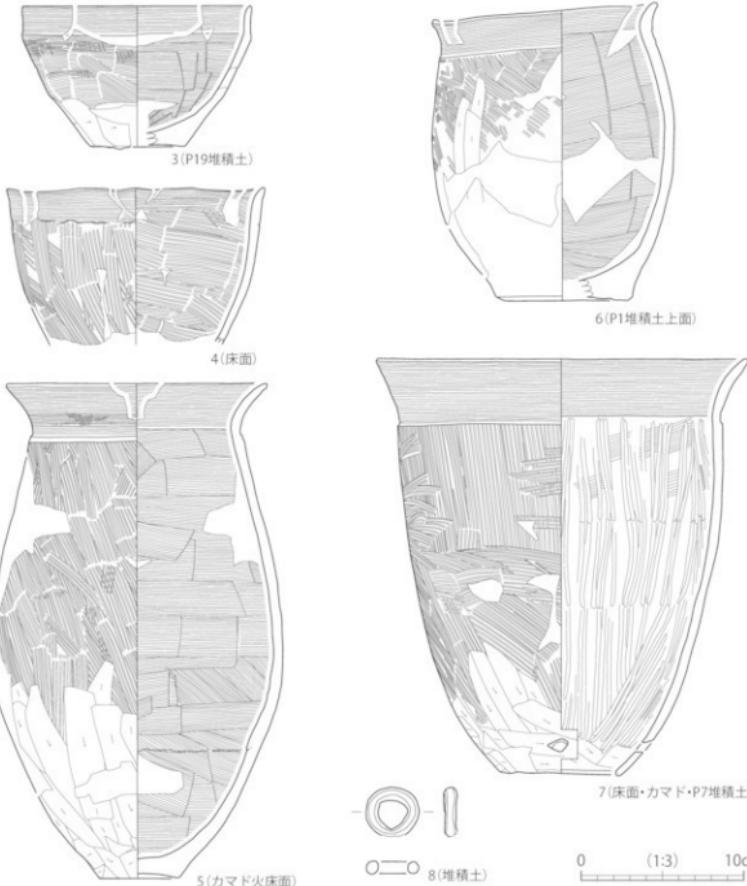
SI225 施設観察表(2)

遺構名	平面形	面積(cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	
							柱	壁
P16	楕円形	86×41	63	1 10YR4/3に高い黄褐色 2 10YR4/3に高い黄褐色	シルト 砂質シルト	粘土質ブロック(5~10mm程度)少量化む。半柱有。		
P17	楕円形	87×59	70	1 10YR4/3に高い黄褐色 2 10YR4/3に高い黄褐色 3 10YR4/4褐色	砂質シルト 粘土質シルト 砂質シルト	粘土質ブロック(5~10mm程度)少量化む。 粘土質シルト 粘土質シルト		
P18	楕円形	81×64	67	1 10YR4/2灰褐色 2 10YR4/3に高い黄褐色 3 10YR4/4褐色	砂質シルト 砂質シルト シルト	砂質シルト多量、黒褐色土粒少量化む。 砂質シルト 砂質シルト		
P19	円形	77×70	16	1 10YR4/3に高い黄褐色 1 10YR4/3に高い黄褐色 2 10YR4/3に高い黄褐色	砂質シルト 砂質シルト シルト	粘土質ブロック(5~30mm程度)少量化む。 粘土質ブロック(5~30mm程度)少量化む、黒褐色土粒少量化む。 粘土質ブロック(5~50mm程度)多量化む。		
P20	卵形	94×89	25					



測定番号	詳細番号	出土地点	層位	種別	遺構	法面(3)			外面調整	内面調整	備考	写真 番号
						上部	底部	高さ				
1	C-22	SE225	床面	土壌器	坪	(13.6)	—	(4.9)	上部底面:12mm 底→底面:六押打	0.13mm, 黒色処理	20	
2	C-28	SE225	掘り方	土壌器	坪	(19.9)	—	(8.0)	上部底面:12mm 底→底面:六押打	0.13mm, 黒色処理	20	

第34図 SI225 穫穴住居跡(3)・出土遺物(1)



国鉄番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真回数
						口径	底径	高さ				
3	C-71	SI225	P19堆積土	土器部	鉢	(13.9)	(5.8)	8.8	口縁部:12.4°、体部:上～中位:6.4°、下位～底部:6.2°	口縁部:12.4° 体部:6.4°		20
4	C-23	SI225	床面	土器部	鉢	(15.7)	—	(9.6)	口縁部:12.4° 体部:6.4°	口縁部:12.4° 体部:6.4°		20
5	C-73	SI225	P17火床面	土器部	甕	(15.9)	4.8	(0.04)	口縁部:12.4°～12.6° 胴部:6.4°、下位～底部:6.2°	口縁部:12.4° 胴部:6.4°		20
6	C-29	SI225	P1堆積土上面	土器部	甕	13.7	(8.0)	18.2	口縁部:12.4°、胴部:上～中位:6.4°～6.8°、下位～底部:6.2°	口縁部:12.4° 胴部:6.4°		20
7	C-24	SI225	床面 P7堆積土	土器部	甕	22.9	7.3	25.5	口縁部:12.4°、胴部:上～中位:6.4°、下位～底部:6.2°	口縁部:12.4°～12.6°、下位:6.4°	単孔 体部下位に内孔2箇所	20
国鉄番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真回数	
						全長	幅	厚さ				
8	P-20	SI225	堆積土	土器部	陶器小製品	3.0	3.2	0.8	6.52			21

第35図 SI225 積穴住居跡出土遺物(2)



第36図 SI225 積穴住居跡出土遺物(3)

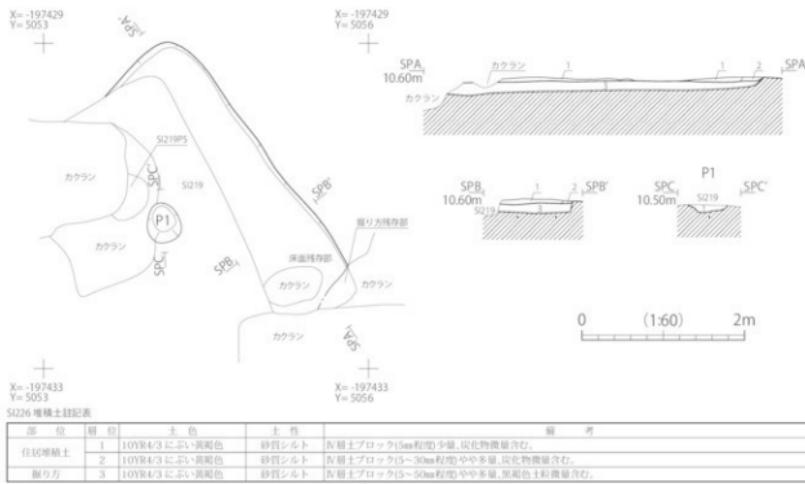
瞭な稜をもち、胸部下位に円孔が2箇所ある。調整は外面が口縁部ヨコナデ、胸部上～中位ハケメ、下位ヘラケズリ、内面が口縁部ヨコナデ、胸部ヘラナデ後ヘラミガキ、胸部下位ヘラケズリである。土製品は8が環状土製品、9が支脚である。

【時期】 P1・7・19 堆積土やカマド、床面、掘り方から 4b～5a期（栗園式期～郡山I期官衙期）と考えられる土師器壺・鉢・甕・瓶（第34・35図-1～7）が出土していることから、4b～5a期と考えられる。

SI226 積穴住居跡（第37・38図）

【位置・確認】 調査区南西部、10・14グリッドに位置する。重複遺構と後世の削平の影響により、北東隅及び東壁付近のみを検出した。

【重複】 SI219より古く、SI228、SK209より新しい。



第37図 SI226 積穴住居跡

SI226 斧型軽便表

遺構名	平面形	面積(cm)		層位	土色	土性	備考		
		長軸	×短軸				深さ		
P1	楕円形	(50.0)	×(41.1)	(10)	1	10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト	IV 墓土ブロック(5~30mm程度)やや多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。	



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外周調整	内面調整	備考	弓高 四角	
						口径	底径	器高					
1	C-31	SE226	堆積土	土師器	土器	15.67	(6.2)	5.3	4.6	指付, 手	指付, 手	手捏ね	21

第38図 SI226 穫穴住居跡出土遺物

【規模・形態】 検出した規模は長軸 375cm、短軸 109cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 東壁を基準として N - 38° - W である。

【堆積土】 3 層に分層した。1・2 層には赤い黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、3 層は掘り方埋土である。

【壁面】 北壁の北東隅部分と東壁が残存している。直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 1 ~ 5cm を測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】 重複する SI219 の底面から 1 基 (P1) 検出した。規模は長軸 50cm、深さ 10cm を測る。

【掘り方】 深さ 5 ~ 16cm 程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器が出土している。この内、堆積土から出土した土師器のミニチュア土器 1 点を掲載した（第38図-1）。調整は、内外面ともに指オサエとナデである。

【時期】 SI219 より古いことから、4a ~ b 期（住社式前期段階～栗田式期）と考えられる。

SI227 穫穴住居跡（第39図）

【位置・確認】 調査区中央部東、8・11・12・15 グリッドに位置する。重複遺構と後世の削平の影響により、大半が掘り方のみの検出であり、南壁付近のみ床面が残存していた。

【重複】 SI217・225、Pit27 より古く、SI245・247、SD117、SX2 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 554cm、短軸 370cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 南壁を基準として N - 47° - E である。

【堆積土】 2 層に分層した。1 層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2 層は掘り方埋土である。

【壁面】 南壁の一部が残存しており、壁高は 7 ~ 15cm を測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

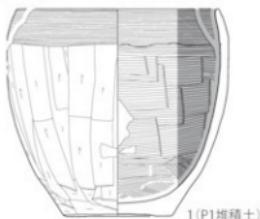
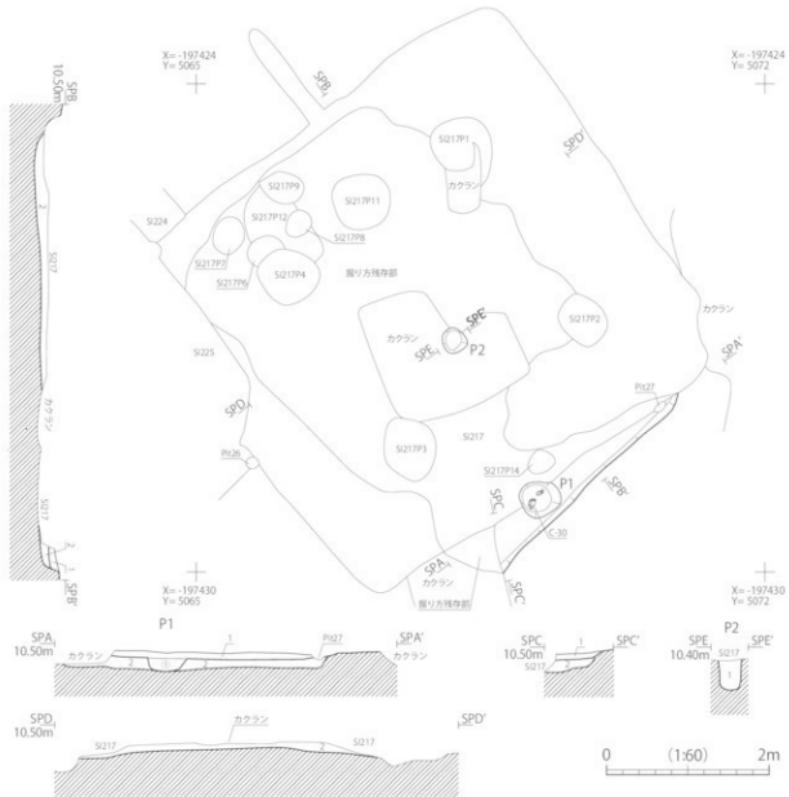
【柱穴】 重複する SI217 の底面から 1 基 (P2) 検出した。規模は長軸 32cm、深さ 37cm を測る。

【その他の施設】 床面から 1 基 (P1) 検出した。南壁際に位置し、平面形状は円形、規模は長軸 52cm、短軸 44cm、深さ 17cm を測る。堆積土からは土師器鉢（第39図-1）と甕片が出土している。

【掘り方】 深さ 3 ~ 22cm 程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器が出土している。この内、P1 堆積土から出土した土師器鉢 1 点を掲載した（第39図-1）。調整は、外周が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、内面が口縁部ヨコナデ、体部上～中位ヘラナデ、体部下位～底部ナデで黒色処理される。

【時期】 P1 堆積土から 4b 期（栗田式期）と考えられる土師器鉢（第39図-1）が出土していることと SI226 より古いことから、4b 期と考えられる。



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法線(cm)		
						上幅	下幅	高さ
1	C-30	SI227	P1堆積土	土師器	鉢	(12.3)	6.5	12.7
			外周調整	内面調整				写真 回数
			口縁部:2段 体部:5段 底面:5段	口縁部:2段 体部上~中段:5段 体部下段~底面:5段				21

第39図 SI227 積穴住居跡・出土遺物

SI228 穫穴住居跡（第 40 図）

【位置・確認】 調査区南西部、10・14 グリッドに位置する。中央部から南西部は重複遺構と擾乱によって失われており、北壁と東壁及び南東隅付近のみ検出した。床面は全て削平されており、掘り方のみが残存していた。

【重複】 SI219・226、SD114、SK209、Pit52 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 343cm、短軸 342cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

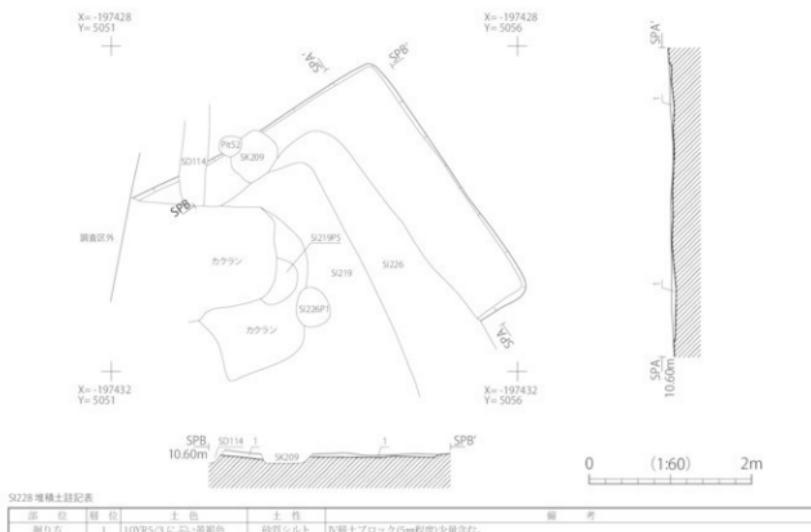
【方向】 東壁を基準として N - 35° - W である。

【堆積土】 単層であり、掘り方埋土である。

【掘り方】 深さ 1 ~ 6cm 程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 掘り方から土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 SI219・226 より古いことから、4a ~ b 期（住社式期新段階～栗園式期）と考えられる。



第 40 図 SI228 穫穴住居跡

SI229 穫穴住居跡（第 41・42 図）

【位置・確認】 調査区北部中央、5・8 グリッドに位置する。全体的に重複遺構と擾乱によって削平されており、残存状況は悪い。北壁の大半と西壁は残存していない。

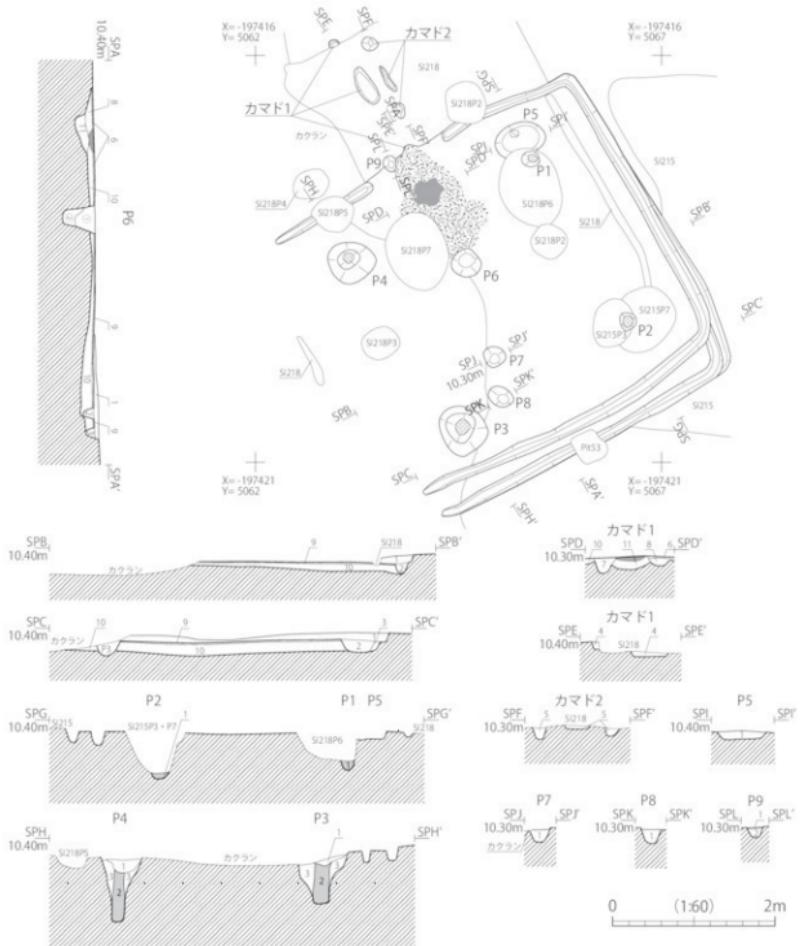
【重複】 SI215・218、Pit53 より古く、SI230・233 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 430cm、短軸 421cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 カマド I を基準として N - 33° - W である。

【堆積土】 11 層に分層した。1 層は、灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土である。2・3 層は周溝堆積土である。4・5 層はカマド関連の堆積土で、4 層がカマド I、5 層がカマド II の各煙道部に堆積している。6 ~ 8 層はカマド I の掘り方埋土である。9 ~ 11 層は掘り方埋土であり、9 層が貼り床である。

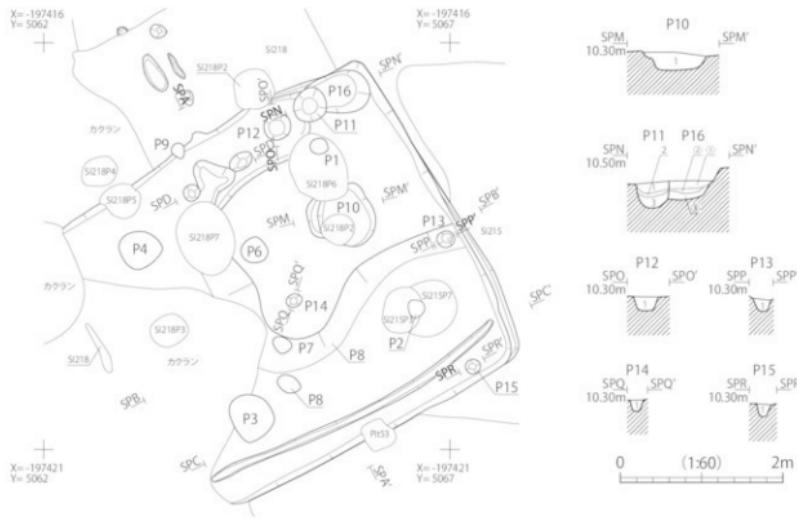
【壁面】 南壁中央部と東壁北部及び北壁の東端部が残存している。直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 5 ~



SI229 堆積土註記表

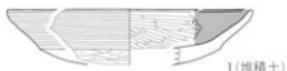
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	粘土ブロック(5~30cm程度)間に多量含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	粘土ブロック内に化物微量含む。
圍溝	3	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	粘土ブロック(5~10cm程度)・粘土少量、化物微量含む。
カマド	4	10YR4/3 に赤い黃褐色	シルト	粘土少量、化物微量含む。
	5	10YR4/3 に赤い黃褐色	シルト	粘土少量、化物微量含む。
カマド廻り方	6	10YR4/3 に赤い黃褐色	シルト	灰黃褐色上・ブロック(10~30cm程度)・灰白色粘土質シルト・植土和・化物少量含む。
	7	10YR4/3 に赤い黃褐色	シルト	灰土上・ブロック(5~10cm程度)・化物少量含む、灰黃褐色上・ブロック(10~30cm程度)少量含む。
掘り方	8	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰褐色土質シルトとの混土、化物少量含む、下部鉢化、半貼り床
	9	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰白色粘土質シルトとの混土、化物少量含む、下部鉢化、半貼り床
	10	10YR4/3 に赤い黃褐色	シルト	灰黃褐色土質ブロック(10~30cm程度)少量含む。
	11	10YR4/3 に赤い黃褐色	シルト	灰黃褐色土質ブロック(10~30cm程度)や少量含む。

第41図 SI229 積穴住居跡 (1)



Si229 竪穴住居跡

遺構名	平面形	面積(cm)	層位	土色	土性	備考
P1 (円形)	(23)×(20)	46	1	10YR4/1 蒼灰色 10YR4/3 に赤い斑駁色	粘土質シルト 砂質シルト	灰白色粘土四シルト多量、黒褐色シルト少量含む。※柱孔跡
P2 (円形)	(22)×(21)	57	1	10YR4/3 に赤い斑駁色 10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	IV帶土 黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)地・柱・炭化物微量含む。※柱孔跡
P3 (隅丸方角)	(60)×(54)	60	1 2 3	10YR3/2 黑褐色 10YR3/4 に赤い斑駁色 10YR3/4 に赤い斑駁色	シルト N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、砂質シルト N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。	N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、砂質シルト N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。
P4 (円形)	(59)×(52)	78	1 2 3	10YR4/2 灰黃褐色 10YR4/4 褐色 10YR5/6 黃褐色	砂質シルト シルト N帶土ブロック	N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、しまりや少ないと、※柱孔跡
P5 條円形	63×(39)	10	1	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、燒土粒・炭化物微量含む。下位に5mm程度炭化物集中點
P6 円形	35×(34)	42	①	10YR4/4 褐色	シルト	N帶土ブロック(5mm程度)少量、燒土粒・炭化物微量含む。
			②	10YR5/3 に赤い斑駁色	粘土質シルト	N帶土粘土量、燒土粒・炭化物微量含む。
P7 円形	27×25	16	1	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	N帶土ブロック(5~30mm程度)少量、燒土粒・炭化物微量含む。
P8 條円形	33×24	21	1	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	N帶土ブロック(5~30mm程度)少量、燒土粒・炭化物微量含む。
P9 條円形	21×17	12	1 2	10YR4/4 に赤い斑駁色 10YR3/4 に赤い斑駁色	シルト 砂質シルト	燒土粒・炭化物少や多量含む。
P10 円形	85×79	23	1	10YR4/4 褐色 10YR4/3 に赤い斑駁色	シルト 砂質シルト	N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
			2	10YR4/3 に赤い斑駁色	シルト	N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物少量含む。
P11 円形	43×38	33	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV帶土粘土多量、黒褐色シルト少量含む。
P12 円形	34×31	16	1	10YR4/2 黑褐色	シルト	灰白色土少量、燒土粒・炭化物微量含む。
P13 円形	22×20	14	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	N帶土粘土量含む。
P14 條円形	20×16	14	1	10YR4/2 黑褐色	シルト	N帶土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。
P15 円形	18×18	16	1	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	N帶土粘土量、黒褐色シルト少量含む。
			①	10YR4/3 に赤い斑駁色	砂質シルト	N帶土粘土量、燒土粒・炭化物微量含む。
			②	10YR4/4 褐色	シルト	N帶土粘土量、燒土粒・炭化物微量含む。
			③	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック(5~30mm程度)や多量含む。



0 (1:3) 10cm

回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法面(cm)	外面部調整	内面部調整	備考	写真 番号
1	C-32	SI229	堆積土	土師器	环	(14.9)	—	(3.0)	IV帶土粘土少量、黒褐色シルト少量含む。 体～底部へ99.5%まで	21

第42図 Si229 竪穴住居跡(2)・出土遺物

11cm を測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面及び擾乱内から 5 基 (P3・4・6～8)、SI218P6 の底面から 1 基 (P1)、SI215P3 の底面から 1 基 (P2)、掘り方から 3 基 (P13～15)、総数 10 基検出した。P1～4 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 22～60cm、深さ 46～78cm を測る。全て柱痕跡が確認され、径 13～21cm 程度である。P13・15 は位置関係から壁柱穴又は入り口に伴う柱穴の可能性があり、規模は長軸 18～22cm、深さ 14～16cm を測る。

【周溝】 検出された範囲では、カマドが付設されている北壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。また南壁際では新旧 2 条の周溝が確認され、南側に拡張した建て替えの痕跡と考えられる。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 11～17cm、深さ 4～17cm を測る。

【カマド】 2 基 (カマド 1・2) 検出された。カマド 1 は北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。重複遺構の影響で、煙道基部及び袖は消失しており、燃焼部は火床面まで露出していた。燃焼部は規模・形状は詳細不明だが、残存状況では 8cm 程度は壁外に位置しており、径 40cm 程度の焼面とその周囲の炭化物の分布範囲から、奥行き 80cm 程度の規模が推定される。また、掘り方に認められる小ピットは、袖構築材の痕跡の可能性がある。煙道部は部分的に残存しており、底面に起伏があったと考えられる。規模は長さが 150cm 程度と推定され、幅 13～21cm、深さ 4～9cm を測る。カマド 2 は北壁中央部やや東寄りに位置し、方向は N-23°-W で、壁面からやや東に傾いて付設される。燃焼部は検出されておらず、煙道部が部分的に残存しているのみであり、底面に起伏があったと考えられる。規模は長さが 140cm 程度と推定され、幅 6～18cm、深さ 1～16cm を測る。

【その他の施設】 床面から 2 基 (P5・9)、掘り方から 4 基 (P10～12・16)、総数 6 基検出した。P5・11・16 は北東隅に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴であると考えられる。平面形状は楕円形・円形を呈し、規模は P5 が長軸 63cm、短軸 39cm、深さ 10cm、P11 が長軸 43cm、短軸 38cm、深さ 33cm、P16 が長軸 81cm、短軸 52cm、深さ 23cm を測る。他の土坑はカマドから北東部にかけて位置している。P9 は、堆積土上位に多くの焼土粒と炭化物が堆積している。

【掘り方】 深さ 3～23cm 程度を測り、底面は中央部から北東部が高まり、他が一段下がる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器が少量と、混入の弥生土器が 1 点出土している。この内、堆積土から出土した土師器壺 1 点を掲載した (第 42 図-1)。口縁部は内湾気味に外傾し、体部との境目に明瞭な稜をもつ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケゼリで、内面がヘラミガキで黒色処理される。

【時期】 堆積土から 5a～bi 期 (郡山 I～II 期官衙期) と考えられる土師器壺 (第 42 図-1) が出土していることから、5a～bi 期以降と考えられる。

SI230 穫穴住居跡 (第 43～45 図)

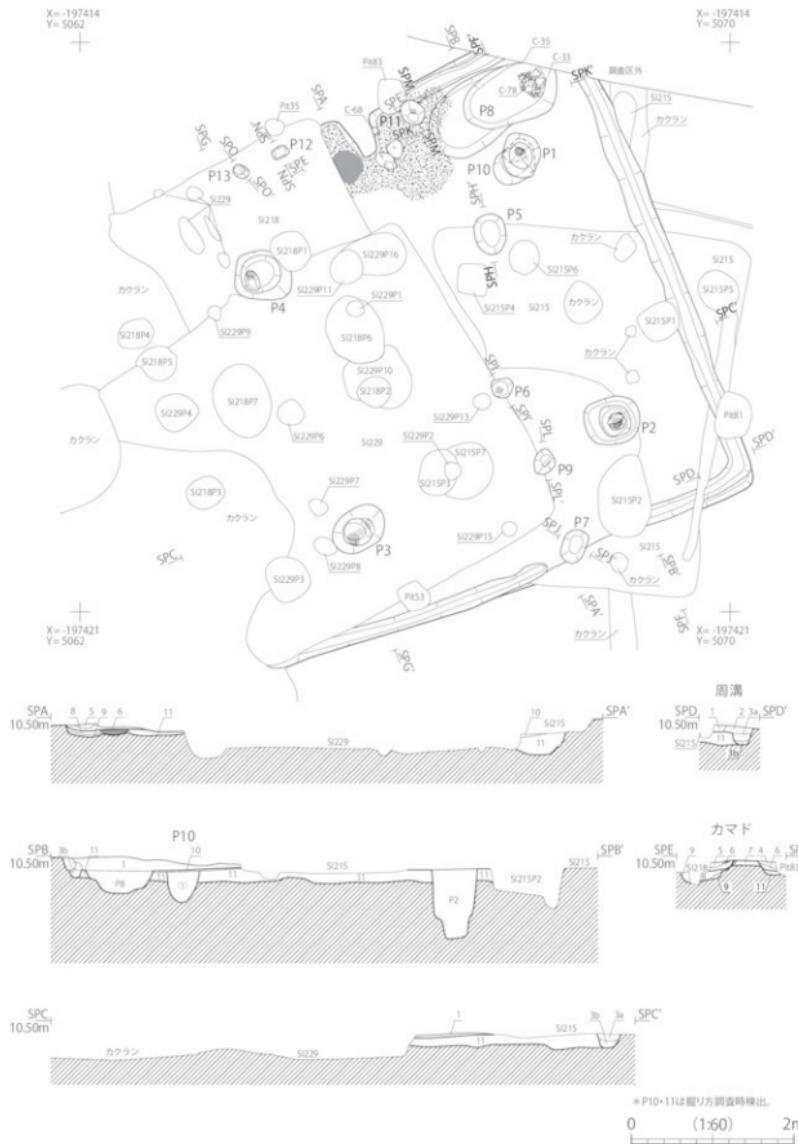
【位置・確認】 調査区北部東、2・5・6・8 グリッドに位置する。重複遺構によって西部と南部の大半は削平されている。基本層IV層上面で検出しているが、調査区壁の断面観察からIII層上面から掘り込まれていることが確認できた。

【重複】 SI215・218・229、Pit53・81・83 より古く、SI231～233・250、Pit96・98・99 より新しい。

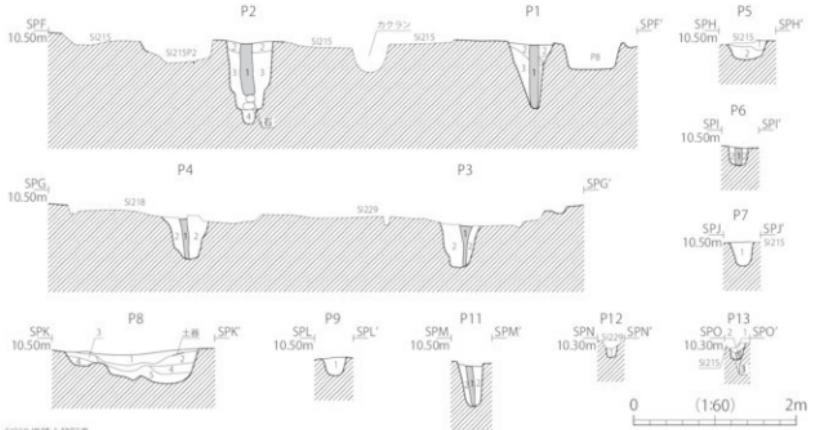
【規模・形態】 検出した規模は長軸 644cm、短軸 625cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準として N-28°-W である。

【堆積土】 11 層に分層した。1・2 層は住居堆積土で、にぶい黄褐色砂質シルト・黒褐色シルトを主体とする土層が堆積している。3 層は周溝堆積土である。4～6 層はカマド関連の堆積土で、5 層は下部が被熱していることから基本層IV層を主体とした天井崩落土と考えられ、6 層は焼土と炭化物の混土である。7 層はカマド袖構築土で、8・



第43図 SI230 積穴住居跡 (1)



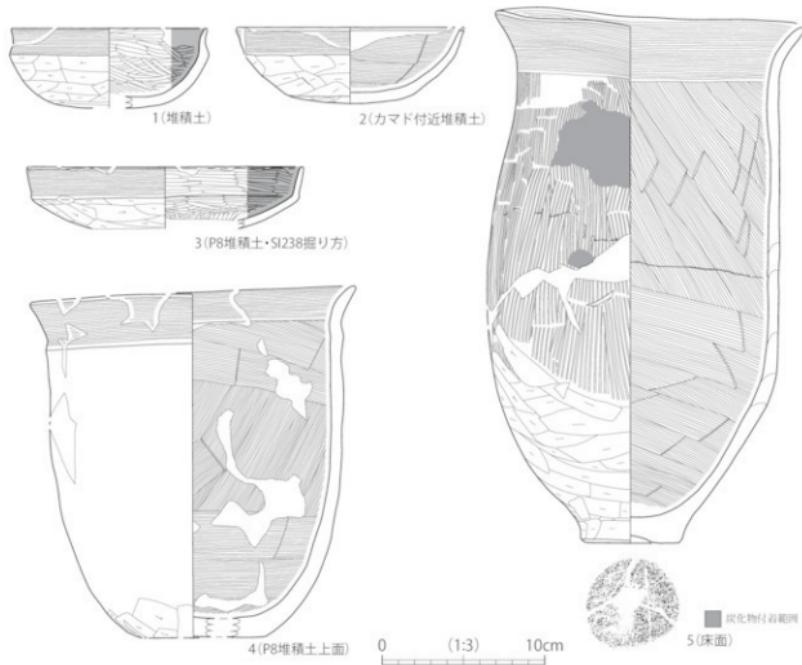
SI230 堆積土計表

部位	層	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4に似る・黄褐色	砂質シルト N層土と少量・炭化物微量含む。	
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト N層土と少量含む。	
周溝	3a	10YR3/2 黒褐色	シルト N層土や少量含む。	
	3b	10YR4/2 に似る・黄褐色	シルト 黒褐色シルトを微量含む。	
カマド	4	10YR5/3 に似る・黄褐色	砂質シルト N層土と・塊土ブロック(5~10mm程度)・块土分の多量・炭化物微量含む。	
	5	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト N層土主体・黒褐色シルトを微量含む・半天津頭底土	
カマド側溝土	6	7.5YR3/1 黑褐色	シルト 塊土ブロック(5~10mm程度)・块土分の多量・炭化物微量含む。	
カマド側溝土	7	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト N層土主体。	
カマド側溝土	8	10YR4/3 に似る・黄褐色	砂質シルト 塊土ブロック(5~10mm程度)多量・N層土や少量含む。	
カマド側溝土	9	10YR4/3 に似る・黄褐色	砂質シルト N層土や少量・黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。	
振り土	10	10YR3/2 黒褐色	シルト N層土和粘土シルトとの混入・N層土上・炭化物微量含む・沾泥り土	
	11	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土ブロック(5~30mm程度)多量・黒褐色粘土質シルトブロック(10~20mm程度)少量含む。	

SI230 施設観察表

施設名	平面形	面積(cm)	幅員×前輪	深さ	層位	土色	土性	備考
P1	楕円形	58×47	81	1	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト N層土と・炭化物微量含む・非粘土		
				2	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と少量・炭化物微量含む。		
				3	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と多量・黒褐色粘土質シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。		
P2	楕円方形	668×58	103	1	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト N層土と・炭化物微量含む・非粘土		
				2	10YR5/1 黄褐色	シルト N層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。		
				3	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と少量・炭化物微量含む。		
				4	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と多量・黑褐色粘土質シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。		
P3	楕円形	70.0×(5.1)	(55)	1	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と・炭化物微量含む・非粘土		
				2	10YR4/2 黄褐色	シルト N層土と多量・黑褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む・粘性や強粘。		
P4	方形	68.0×60.0	(53)	1	10YR4/2 黄褐色	シルト N層土と多量・黑褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量含む・非粘土		
				2	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と多量・黑褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む・非粘土		
P5	楕円形	(50)×(38)	26	1	10YR3/3 に似る・黄褐色	砂質シルト 塊土ブロック(5~10mm程度)・N層土多量・黑褐色粘土質シルトブロック(5mm程度)微量含む。		
				2	10YR3/2 黑褐色	シルト 塊土ブロック(5~10mm程度)・N層土・炭化物や多量・N層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
P6	円形	(28)×25	28	1	10YR3/2 黑褐色	シルト N層土と・炭化物微量含む・非粘土		
				2	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト N層土とブロック(5mm程度)・N層土少量含む。		
P7	楕円形	(41)×29	30	1	10YR3/2 黑褐色	シルト N層土とブロック(20~30mm程度)・块土ブロック(5~10mm程度)や少量・炭化物少量含む。		
				2	10YR4/2 黄褐色	シルト N層土と少量・炭化物シルトブロック(10~30mm程度)少量含む。		
P8	楕円形	177×83	40	1	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と少量・炭化物シルトブロック(10mm程度)少量・N層土ブロック(5~10mm程度)少量・块土ブロック(5mm程度)微量含む。		
				2	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と少量・炭化物シルトブロック(10mm程度)少量・N層土ブロック(5~10mm程度)少量・块土ブロック(5mm程度)微量含む。		
				3	10YR8/1 白灰色	粘土質シルト N層土と少量・炭化物シルト和面に多量・块土・炭化物微量含む。		
				4	10YR4/3 に似る・黄褐色	粘土質シルト N層土と少量・炭化物微量含む。		
				5	10YR8/1 白灰色	炭化物微量含む。		
P9	(楕円形)	31×26	23	1	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土ブロック(5~30mm程度)少量・炭化物微量含む。		
P10	(楕円形)	60.9×46	76	①	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト N層土ブロック(5~10mm程度)や少量含む。		
P11	円形	33×27	56	1	10YR4/2 黄褐色	シルト N層土ブロック(5mm程度)少量・块土・炭化物微量含む・非粘土		
				2	10YR3/3 に似る・黄褐色	砂質シルト N層土ブロック(5mm程度)少量・炭化物微量含む。		
P12	長方形	220×(15)	111	1	10YR4/3 に似る・黄褐色	砂質シルト N層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
				2	10YR4/3 に似る・黄褐色	砂質シルト N層土ブロック(5~10mm程度)や少量含む。		
				3	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と微量含む・非粘土		
P13	楕円形	220×(15)	20	1	10YR4/3 に似る・黄褐色	砂質シルト N層土ブロック(5mm程度)少量含む。		
				2	10YR4/3 に似る・黄褐色	シルト N層土と微量含む・非粘土		
				3	10YR4/3 に似る・黄褐色	砂質シルト N層土ブロック(5mm程度)少量含む。		

第44図 SI230 壓穴住居跡(2)



段階番号	日報番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(m)	外側調整	内面調整	備考	写真回数	
						口径	底径	高さ			
1	C-34	SI230	堆積土	土器部	坪	(11.9)	—	14.5m 口縁部:22mm 底~底面:5mm	凹びなし, 黒色処理	21	
2	C-68	SI230	坪付近 堆積土	土器部	坪	(13.9)	—	14.8m 口縁部:22mm 底~底面:5mm	凹びなし	21	
3	C-33	SI230	P8堆積土 SI238 掘り方	土器部	坪	(16.8)	—	6.8m 口縁部:22mm 底部:5mm	凹びなし, 黒色処理	21	
4	C-78	SI230	上部 堆積土	土器部	壺	19.8	7.7	21.6 口縁部:22mm 底部:5mm	口縁部:22mm 底部:5mm	外側調整熟成のため不 明瞭	
5	C-35	SI230	床面	土器部	壺	18.9	5.7	32.9 下部:22mm 底面:木炭痕	底面:22mm 底面:5mm	付着物付着	21

第45図 SI230 穫穴住居跡出土遺物

9層はカマド掘り方埋土である。10・11層は掘り方埋土であり、10層が貼り床である。

【壁面】直線的に外傾して立ち上がり、壁高は4~18cmを測る。

【床面】検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】床面から5基(P1・2・6・7・9)、重複遺構の底面から4基(P3・4・12・13)、掘り方から2基(P10・11)、総数11基検出した。P1~4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸58~70cm、深さ53~103cmを測る。P2の底面からは、礎板石と考えられる自然礎が2点重なって検出された。なお、P2で礎の下位から小穴が検出されていることやP3で柱痕跡と考えられる変色範囲が2箇所検出されたことから、主柱穴の建て替えが行われていると考えられる。P10についても、P1との位置関係から建て替えの痕跡と考えられ、規模は長軸60cm、深さ76cmを測る。P7は、位置関係から壁柱穴又は出入り口に伴う柱穴の可能性があり、規模は長軸41cm、深さ30cmを測る。柱痕跡はP1~4・6・11・13から確認され、径6~16cm程度である。

【周溝】 検出された範囲ではカマドが付設されている北壁の一部と南壁の一部を除き、壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 15 ~ 32cm、深さ 3 ~ 17cm を測る。

【カマド】 北壁中央部に位置すると考えられ、壁面に直交して付設されている。燃焼部西部と西袖及び煙道部は、重複遺構と後世の削平の影響によって失われている。袖は壁面に直交して付設され、規模は東袖が長さ 50cm、幅 26 ~ 45cm を測る。東袖の前方には、カマドの構築材として使用されていたと考えられる径 22 ~ 41cm 程度の自然礫が検出された。燃焼部は 8cm 程度壁外に位置し、規模は奥行き 68cm、焚口は幅 33cm 残存している。底面は平坦で、径 40cm 程度の焼面がみられる。奥壁は緩やかに外傾して 6cm 程度立ち上がり、煙道部に繋がったと考えられる。

【その他の施設】 床面から 2 基 (P5・8) 検出した。P8 は北東隅に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴であると考えられ、上面から土師器甕 (第 45 図-4) が出土している。平面形状は橢円形を呈し、規模は長軸 177cm、短軸 83cm、深さ 40cm を測る。

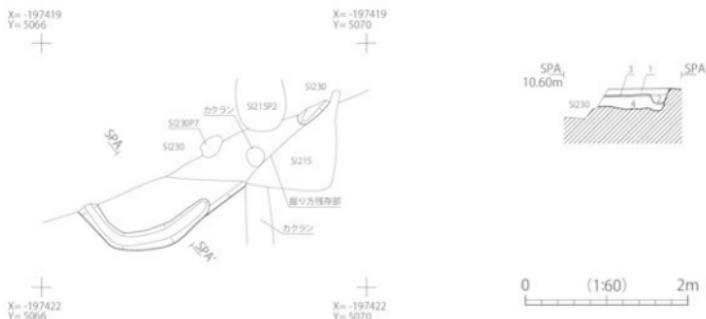
【掘り方】 深さ 1 ~ 38cm 程度を測り、底面は中央部が高まり東壁と南壁方向へ低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器と混入の弥生土器が出土している。この内、土師器甕 3 点、土師器甕 2 点を掲載した (第 45 図-1 ~ 5)。1・2 は堆積土、4 は P8 堆積土上面、5 は床面から出土している。3 は P8 堆積土と SI238 の掘り方から出土した遺物が接合しており、混入であると考えられる。土師器甕 1 は口縁部が外反気味に立ち上がり、底部から体部にかけて内湾する。2 は口縁部が直線的にやや外傾する。3 は口縁部が外傾し、底部から体部にかけて内湾する。1・3 の調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、内面がヘラミガキで黒色処理される。2 の調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、内面がヘラナデである。器形や調整の特徴から、2 は鬼高系土師器であると考えられる。土師器甕 4 は外面が強く被熱しており、調整は外面が口縁部ヨコナデ、胴部下位～底部ヘラケズリで全体的に不明瞭である。5 は長胴甕で、調査区壁を拡張して取り上げた。調整は口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、下半ヘラケズリ、内面が口縁部ヨコナデ、胴～底部ヘラナデで、底部には木葉痕がある。

【時期】 堆積土や P8 堆積土、床面から 4a ~ b 期 (住社式期新段階～栗廻式期) と考えられる土師器甕・甕 (第 45 図-1 ~ 5) が出土していることから、4a ~ b 期と考えられる。

SI231 穫穴住居跡 (第 46 図)

【位置・確認】 調査区北東部、5・8 グリッドに位置する。重複遺構によって大半が削平されており、南西隅から



第 46 図 SI231 穫穴住居跡

SI231 増積土記表

部 位	層 位	主 色	土 性	備 考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV崩土ブロック(5~10mm程度)や粘土質少量、炭化物微量含む。
周溝	2	10YR4/3 に似る黄褐色	シルト	IV崩土ブロック(5~20mm程度)や多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量化。
掘り方	3	10YR5/1 開底色	シルト	灰白色粘土質シルトとの混土、炭化物微量含む。下部強化。※貼り床
	4	10YR4/3 に似る黄褐色	砂質シルト	IV崩土ブロック(5~50mm程度)や多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量化。

南壁付近のみが検出された。

【重複】 SI215・230より古く、SI232・233・247より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 322cm、短軸 102cm を測り、方形又は長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準として N - 40° - W である。

【堆積土】 4 層に分層した。1 層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、2 層は周溝堆積土である。3・4 層は掘り方埋土であり、3 層が貼り床である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 2 ~ 16cm を測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【周溝】 南壁と西壁の一部で検出された。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 18 ~ 26cm、深さ 5 ~ 12cm を測る。

【掘り方】 深さ 11 ~ 19cm 程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 SI230 より古いことから、4a ~ b 期（住社式期新段階～栗園式期）と考えられる。

SI232 穫穴住居跡（第 47 図）

【位置・確認】 調査区北東部、8 グリッドに位置する。重複遺構と擾乱によって大半が削平されており、南東部周辺のみ検出した。床面は全て削平されており、掘り方のみが残存していた。

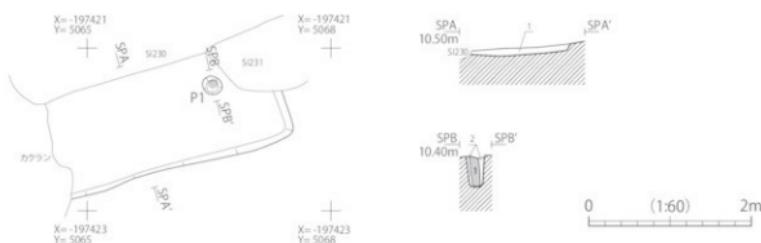
【重複】 SI230・231 より古く、SI246・247、Pit68 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 292cm、短軸 130cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 東壁を基準として N - 17° - W である。

【堆積土】 単層であり、掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方から 1 基（P1）検出し、規模や位置関係から主柱穴の可能性がある。規模は長軸 24cm、深さ



SI232 増積土記表

部 位	層 位	主 色	土 性	備 考
掘り方	1	10YR4/3 に似る黄褐色	砂質シルト	IV崩土ブロック(5~50mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(10mm程度)少量化。

SI232 旗股耕剖表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	主 色	土 性	備 考
		長軸	短軸				
P1	円形	24×24	38	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV崩土と微量含む。半柱跡
				2	10YR4/3 に似る黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5~40mm程度)少量化。

第 47 図 SI232 穫穴住居跡

38cmを測り、柱痕跡は径11cm程度である。

【掘り方】深さ4~17cm程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】出土していない。

【時期】SI231より古いことから、4a~b期（住社式期新段階～栗廻式期）と考えられる。

SI234 穫穴住居跡（第48図）

【位置・確認】調査区北部、2グリッドに位置する。大半は調査区外となり南西部周辺を検出した。基本層IV層上面で検出しているが、調査区壁の断面観察からⅢ層上面から掘り込まれていることが確認できた。掘り方のみ検出したが、調査区壁の断面では床面の残存が確認できた。

【重複】SI213より古く、SI250より新しい。

【規模・形態】検出した規模は長軸90cm、短軸55cmを測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】西壁を基準としてN-53°-Wである。

【堆積土】3層に分層した。1層は灰黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、2・3層は掘り方埋土である。

【壁面】調査区壁の断面観察では、壁中位に段をもって立ち上がり、壁高は23cmを測る。

【床面】調査区壁の断面観察では、概ね平坦である。

【掘り方】深さ16~23cm程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】出土していない。

【時期】SI213より古く、SI250より新しいことから、4・5期（古墳時代後期～奈良時代）と考えられる。



第48図 SI234 穫穴住居跡

SI235 穫穴住居跡（第49図）

【位置・確認】調査区東部、9グリッドに位置する。擾乱によって大半が失われており、北西隅付近のみが検出された。

【重複】SI233・238より新しい。

【規模・形態】検出した規模は長軸113cm、短軸82cmを測り、方形又は長方形と推定される。

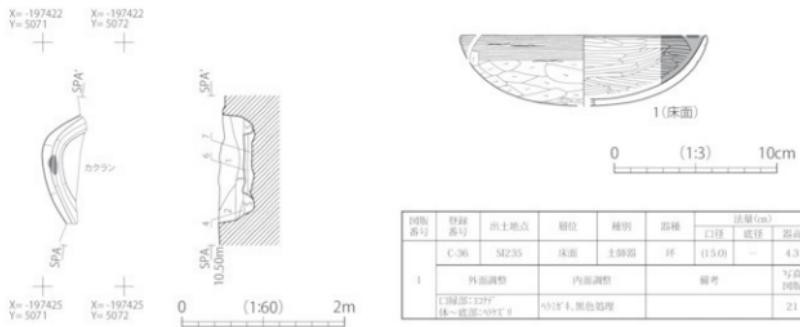
【方向】西壁を基準としてN-26°-Wである。

【堆積土】7層に分層した。1~4層は住居堆積土であり、1層は灰黄褐色砂質シルト、2層は灰黄褐色シルト、3層はにぶい黄褐色シルトを主体とする。4層は黒褐色砂質シルトで、周溝の上面に部分的に堆積していた。5層は周溝堆積土、6・7層は掘り方埋土であり、6層が貼り床である。

【壁面】直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は21~30cmを測る。

【床面】検出された範囲では、概ね平坦である。

【周溝】検出された範囲では、壁際のやや内側に沿って周溝がある。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅13~17cm、深さ7~14cmを測る。周溝の上面には黒褐色砂質シルト（4層）や焼土が部分的に堆積していた。



SII35 堆積土註記表

部 位	種 類	土 命	性	考
右肩堆積土	1	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	表面ブロク(10~30mm程度)少量、他土と炭化物混在む。
	2	10YR4/2 黄褐色	シルト	表面ブロク少額、炭化物混在む。
	3	10YR4/3 に2 黄褐色	シルト	表面ブロク(5~20mm程度)や少額、他土と炭化物混在む。
	4	10YR3/2 黄褐色	砂質シルト	表面ブロク微量含む。
則溝	5	10YR4/3 に2 黄褐色	シルト	表面ブロク(5~20mm程度)や少額、他土と炭化物混在む。
脛り方	6	10YR5/6 黄褐色	シルト	表面土層、炭化物混在量少、地貼り床
	7	10YR4/3 に2 黄褐色	シルト	表面ブロク(5~20mm程度)や少額、他土と炭化物混在む。

第49図 SI235 竪穴住居跡・出土遺物

【掘り方】 深さ9~14cm程度を測り、西壁・北壁方向へ低くなる。

【出土遺物】堆積土、床面から土師器が少量出土しており、土師器壺1点（第49図-1）を掲載した。1は底部から土部にかけて内浦1型紋は外面が口縁部コナボ、体へ底部へラケブリ、内面がヘラミガキで黒色加理される。

【時期】床面から5a～bi期（郡山I～II期官衙期）と考えられる土師器環（第49図-1）が出土しているため、5a～bi期と考えられる。

SI236 竪穴住居跡（第50図）

【位置・確認】 調査区東部、12 グリッドに位置する。搅乱によって大半が失われており、煙道部の煙出し部分のみが検出された。

【重複】 SJ237 より新しい

【堆積土】 2層に分層し、ともにカマド煙道部煙出しの堆積土である。2層には
堆積土マーカーが認められ、多く含む。

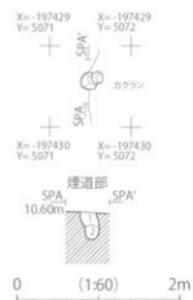
【カマド】 煙道部の煙出し部分のみが検出され、残存状況から北壁から西壁に付設されていたと考えられる。底面は東部が一段低くなっており、煙道部の検出した拘束棒は長さ 28cm、幅 22cm、深さ 33cm を測る。

【出土遺物】出土していない

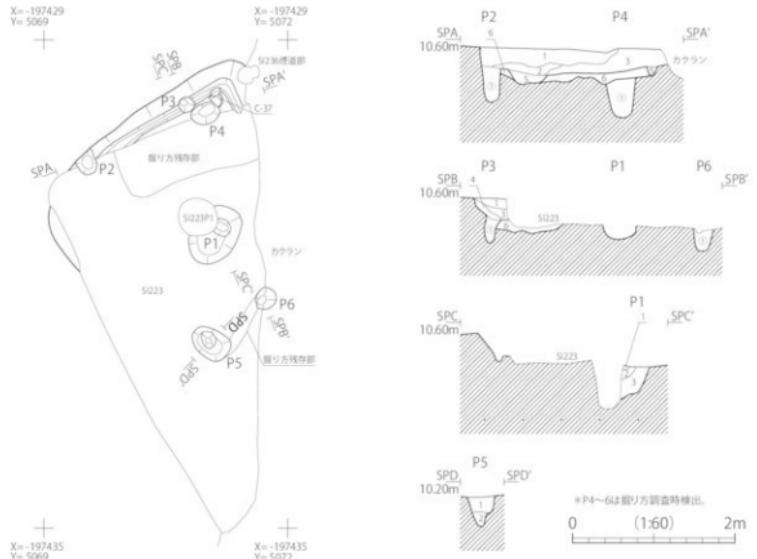
【時期】 詳細な時期は不明だが、SI237より新しいことから、5a期（郡山Ⅰ期
空巣地）以降と想われる。

©2020 Cengage Learning

SD20土壤填土表			備考
部 位	種 位	土 色	土 性
カマド	1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト IV耐圧土・施工後少量含む。
	2	10YR3/2褐色	シルト 他プロック状構成のものや多量、IV耐圧プロック(15~10mm程度)・炭化物少量含む。



第50図 SI236 聰穴住居跡

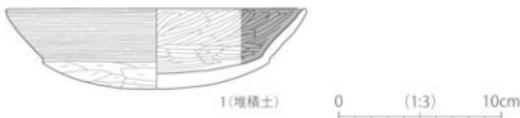


SI237 堆積土註記表

部位	層級	主色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	灰褐色粘土質シルト面に多量、瓦屑土粒少量、炭化物微量含む。
	2	10YR5/4 に赤い黄褐色	砂質シルト	瓦屑土粒体、黒褐色粘土質シルト少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(10~30mm程度)やや多量、瓦屑土ブロック(5~10mm程度)少量、瓦土ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR5/4 に赤い黄褐色	砂質シルト	瓦屑土粒体、黒褐色粘土質シルト少量含む。
	5	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5~10mm程度)やや多量、炭化物微量含む。
	6	10YR4/4 に赤い黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5~30mm程度)やや多量、瓦土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。

SI237 施設観察表

施設名	平面形	断面(10cm)		層位	主色	土性	備考
		長軸×短軸	深さ				
P1 棚門形	(77) × (52)	(46)	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	瓦屑土粒やや多量含む。	
			2	10YR5/4 に赤い黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5~30mm程度)・瓦屑土粒多量含む。	
			3	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5~10mm程度)やや多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。	
P2 円形	(26) × 22	44	①	10YR5/4 に赤い黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5~10mm程度)やや多量、炭化物微量含む。	
P3 円形	20 × 19	33	①	10YR5/4 に赤い黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5~10mm程度)やや多量、炭化物微量含む。	
P4 棚門形	35 × (25)	50	①	10YR5/4 に赤い黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5~10mm程度)やや多量、瓦土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。	
P5 相円形	(50) × (35)	(35)	1	10YR5/2 灰黃褐色	砂質シルト	瓦屑土粒少量含む。	
			2	10YR5/3 に赤い黄褐色	シルト	瓦屑土粒微量含む。	
P6 円形	(27) × (24)	(27)	①	10YR5/4 に赤い黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5~10mm程度)やや多量、炭化物微量含む。	



回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法長(㎝)	口径(㎝)	高さ(㎝)	外側調整	内側調整	備考	写真回数
1	C-37	SI237	堆積土	土器部	环	18.3	-	4.9	口縁部:3.0cm 体:4.0cm	内底部:1.0cm 体:4.0cm		22

第51図 SI237 穫穴住跡・出土遺物

SI237 竪穴住居跡（第 51 図）

【位置・確認】 調査区東部、11・12・15・16 グリッドに位置する。大半が重複遺構と搅乱によって失われており、北壁際付近と西壁の一部・床面施設が検出された。

【重複】 SI222・223・236、Pit38 より古く、SI240・241・244・245、SX2 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 313cm、短軸 305cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 北壁を基準として N - 52° - E である。

【堆積土】 6 層に分層した。1 ~ 4 層は住居堆積土で、にぶい黄褐色砂質シルト、灰黄褐色・暗褐色シルトを主体とする。5 層は周溝堆積土で、6 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は 17 ~ 28cm を測る。

【床面】 北壁付近で僅かに検出されたのみであり、詳細不明である。

【柱穴】 床面から 3 基 (P2 ~ 4)、重複する SI223 の底面から 3 基 (P1・5・6)、総数 6 基検出した。P1 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 77cm、深さ 46cm を測る。周溝の上面及び壁際から検出された P2・3 は壁柱穴であると考えられ、規模は長軸 20 ~ 26cm、深さ 33 ~ 44cm を測る。

【周溝】 検出された範囲では、壁面に沿って巡る。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅 11 ~ 14cm、深さ 6 ~ 11cm を測る。

【掘り方】 深さ 5 ~ 19cm 程度を測り、北壁付近と P5・6 付近に部分的に残存する。

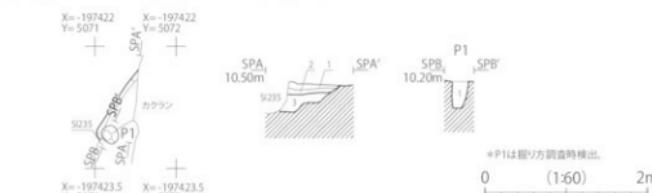
【出土遺物】 床面施設及び堆積土から土師器が少量出土している。この内、土師器壺 1 点を掲載した(第 51 図-1)。1 は堆積土から出土しており、口縁部が外傾し、体部との境目に明瞭な稜をもつ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、内面がヘラミガキで黒色処理される。

【時期】 詳細時期は不明だが、堆積土から 5a 期（郡山 I 期官衙期）と考えられる土師器壺（第 51 図-1）が出土していることから、5a 期以降と考えられる。

SI238 竪穴住居跡（第 52 図）

【位置・確認】 調査区東部、9 グリッドに位置する。搅乱によって大半が失われており、南西隅付近のみが検出された。

【重複】 SI235 より古く、SI233 より新しい。



SI238 堆積土記録表

部位	組合	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黃褐色	砂質シルト	IV 剥離土・炭化物微量含む。
	2	10YR6/6 明黃褐色	砂質シルト	IV 剥離土。
掘り方	3	10YR4/4 黄色	シルト	灰褐色粘土質シルトブロック(10~50mm厚)間にやや多量含む。

SI238 施設概要表

施設名	平面形	規模(cm)		組合	土色	土性	備考
		長軸	短軸				
P1	円形	22×20	32	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	IV 剥離土少、炭化物微量含む。

第 52 図 SI238 竪穴住居跡

【規模・形態】 検出した規模は長軸97cm、短軸31cmを測り、方形又は長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-35°-Eである。

【堆積土】 3層に分層した。1・2層は住居堆積土であり、1層は灰黄褐色砂質シルト、2層は明黄褐色砂質シルトを主体とする。3層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は9~14cmを測る。

【床面】 西壁付近で僅かに検出されたのみであり、詳細不明である。

【柱穴】 掘り方から1基(P1)検出した。南西隅の壁際に位置することから壁柱穴と考えられ、規模は長軸22cm、深さ32cmを測る。

【掘り方】 深さ10~21cm程度を測り、壁際から10~25cm程度東側で一段低くなる。

【出土遺物】 掘り方から土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 SI235より古いことから、5a~bi期(郡山I~II期官衙期)以前と考えられる。

SI240 壓穴住居跡(第53図)

【位置・確認】 調査区中央部東、15グリッドに位置する。重複遺構によって大半が失われており、南西隅付近のみが検出された。

【重複】 SI223・237より古く、SI241より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸102cm、短軸65cmを測り、方形又は長方形と推定される。

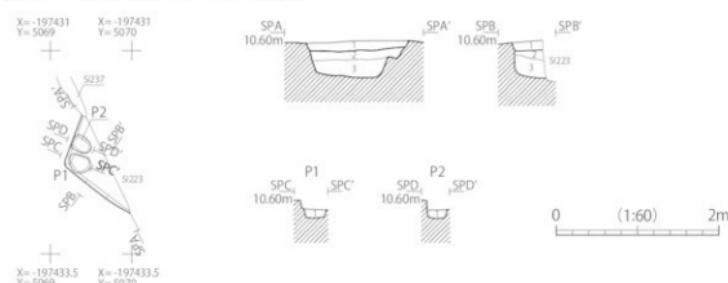
【方向】 南壁を基準としてN-53°-Wである。

【堆積土】 3層に分層した。1層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土であり、2・3層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は7~11cmを測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から2基(P1・P2)検出した。ともに南西隅の壁際に位置することから壁柱穴の可能性があり、規模は長軸25~28cm、深さ10~11cmを測る。



SI240 堆積土住居表

部位	層	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3暗褐色	シルト	N層土・炭化物微量含む。
	2	10YR4/2灰黃褐色	シルト	N層土少量・炭化物微量含む。
掘り方	3	10YR4/4褐色	シルト	黒褐色&土質シルトブロック(5~50mm程度)・N層土粒間に多量含む。

SI240 施設観察表

施設名	平面形	断面(m)	層位	土色	土性	備考
P1	楕円形	28×22	11	1	10YR3/2黒褐色	シルト N層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P2	楕円形	25×19	10	1	10YR3/2黒褐色	シルト N層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。

第53図 SI240 壓穴住居跡

【掘り方】 深さ 10 ~ 33cm 程度を測り、南西隅から南壁際が一段低くなる。

【出土遺物】 堆積土と掘り方から土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 詳細時期は不明だが、SI237 より古いことから、5a 期（郡山 1 期官衙期）以前と考えられる。

SI241 竪穴住居跡（第 54 図）

【位置・確認】 調査区中央部東、15・16 グリッドに位置する。重複遺構によって東部が失われ、南西部が削平されている。

【重複】 SI223・237・240、SD113 より古く、SI244・245 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 236cm、短軸 109cm を測り、方形又は長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準として N - 21° - W である。

【堆積土】 3 層に分層した。1 層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土であり、2・3 層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 2 ~ 5cm を測る。

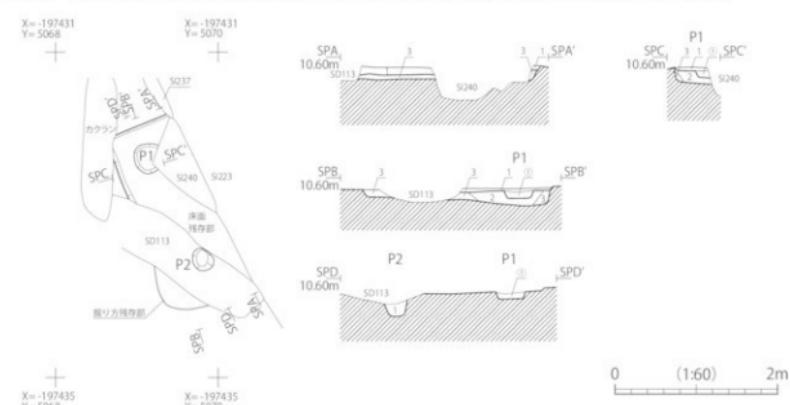
【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基 (P1)、重複する SD113 の底面から 1 基 (P2)、総数 2 基検出した。これらは配置から主柱穴の可能性があり、規模は長軸 29 ~ 37cm、深さ 8 ~ 19cm を測る。

【掘り方】 深さ 4 ~ 20cm 程度を測り、北西隅が一段低くなる。

【出土遺物】 床面施設と掘り方から土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。

【時期】 詳細時期は不明だが、SI240 より古いことから、5a 期（郡山 1 期官衙期）以前と考えられる。



SI241 堆積土記表

部 位	層 位	土 色	土 性	留 考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	粘土質シルト
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	粘土質シルトに少々含む。
掘り方	3	10YR5/3 に 2-3 黄褐色	砂質シルト	粘土質シルトや多量 黒褐色粘土質シルト料少量含む。

SI241 墓段観察表

遺構名	平面形	面積(cm)	幅員(3)	層位	土 色	土 性	留 考
P1	(71.8)	37 × (35)	8	(1)	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	粘土質シルトにやや多量、炭化物微量含む。
P2	(相P1)	(29) × (24)	11.8	1	10YR5/3 に 2-3 黄褐色	砂質シルト	粘土質少額、炭化物微量含む。

第 54 図 SI241 竪穴住居跡

SI246 穫穴住居跡（第 55 図）

【位置・確認】 調査区中央部、8・11 グリッドに位置する。大半が重複遺構と擾乱によって失われており、東壁付近のみ検出した。床面は全て削平されており、掘り方のみが残存していた。

【重複】 SI217・224・232 より古く、Pit106 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 298cm、短軸 138cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

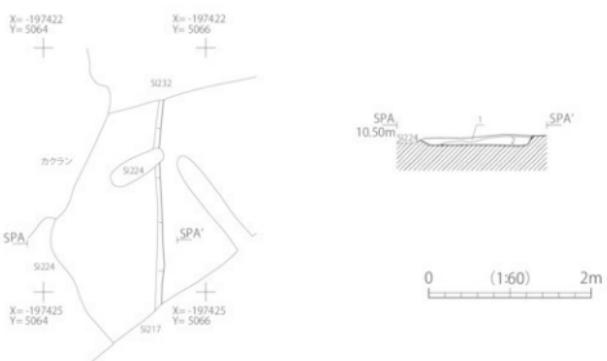
【方向】 東壁を基準として N - 3° - W である。

【堆積土】 2 層に分層し、全て掘り方埋土である。

【掘り方】 深さ 8 ~ 14cm 程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 出土していない。

【時期】 SI232 より古いことから、4a ~ b 期（住社式期新段階～栗廬式期）と考えられる。



SI246 堆積土記表

部 位	層 段	土 色	土 性	備 考
掘り方	1	TOYS/4 に赤い黄褐色	砂質シルト	赤褐色土中に多量、黒褐色粘土質シルトと間に少量含む。
	2	TOYS/4 に赤い黄褐色	シルト	赤褐色土中に少量含む。

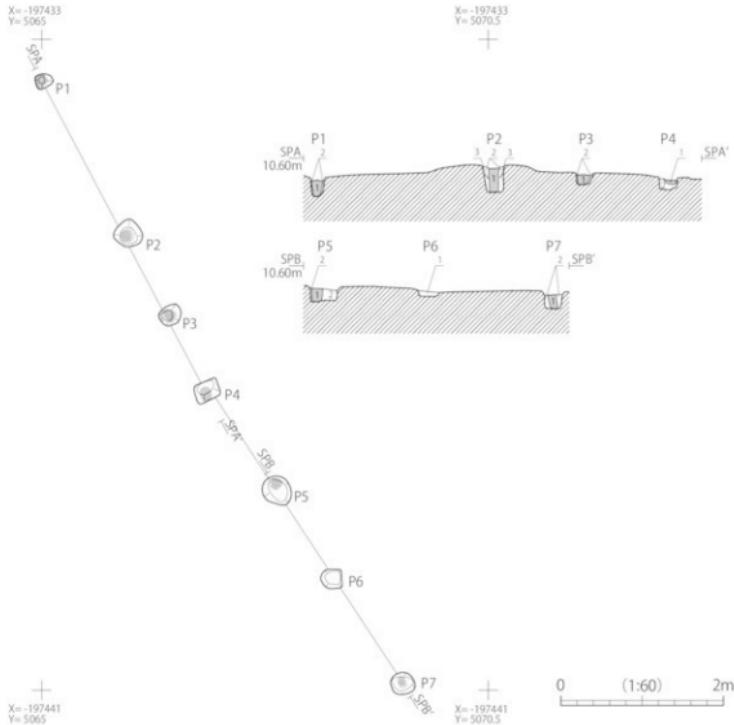
第 55 図 SI246 穫穴住居跡

(2) 一本柱列跡（第 56 図）

一本柱列跡は、1 列 (SA2) 検出された。大半の竪穴住居跡と同様、主軸方向は西へ傾いている。古代の竪穴住居跡とは重複しておらず、4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる SD116 より新しい。

SA2 一本柱列跡（第 56 図）

調査区南東部の 15・19・22 グリッドに位置し、柱穴 7 基を検出した。SI239・244、SD116、Pit76・77 より新しい。柱穴列の検出長は約 8.65m を測り、方向は N - 31° - W である。掘り方の平面形状は P1・3 が梢円形、P2 が側丸形、P4 が長方形、P5・7 が円形、P6 が方形を呈する。規模は径 21 ~ 39cm、深さ 8 ~ 38cm で、P1 ~ 5・7 から径 11 ~ 17cm 程度の柱痕跡が検出された。各柱間の距離は P1 から P2 間が 217cm、P2 から P3 間が 110cm、P3 から P4 間が 105cm、P4 から P5 間が 136cm、P5 から P6 間が 136cm、P6 から P7 間が 152cm を測る。遺物は P2 ~ 5・7 から土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。時期は、SD116 との重複関係から 4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。



SA2一本柱列 路断面図

道標名	Y(右)	平面形	幅幅(cm) (左幅×右幅)	深さ m	層位	土色	土性	備考		裏 観
								左幅	右幅	
P1	15	楕円形	21×18	28	1	10VR3/2 黒褐色	砂質シルト	粘土質潤に少や多量含む。※柱40#		SD244より新しい。
					2	10VR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	粘土質多量含む。		
P2	19	圓角方形	33×31	38	1	10VR3/2 黑褐色	砂質シルト	粘土質や少多量、地下水・炭化物微量含む。※柱40#		—
					3	10VR4/3 に少、黃褐色	砂質シルト	粘土質多量、炭化物微量含む。		
P3	19	楕円形	28×24	14	1	10VR3/2 黑褐色	砂質シルト	粘土質潤に少量、炭化物微量含む。※柱40#		—
					2	10VR3/2 黑褐色	砂質シルト	粘土質潤に多量含む。		
P4	19	長方形	30×22	19	1	10VR3/2 黑褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。しまりや空隙は、※柱40#		P#70より新しい。
					2	10VR4/2 黑褐色	砂質シルト	粘土質潤に少や多量、地下水・炭化物微量含む。		
P5	19	円形	39×34	18	1	10VR4/2 黑褐色	砂質シルト	粘土質潤に少や多量、炭化物微量含む。		SD239, SD116より新しい。
					2	10VR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	粘土質潤に少や多量含む。		
P6	19	方形	25×24	8	1	10VR4/3 に少、黃褐色	砂質シルト	粘土質潤に少や多量含む。		SD239, SD116より新しい。
					2	10VR3/2 黑褐色	砂質シルト	粘土質潤微量含む。※柱40#		
P7	22	円形	31×27	23	1	10VR3/2 黑褐色	砂質シルト	粘土質潤に少や多量、炭化物微量含む。		—
					2	10VR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	粘土質潤に少や多量含む。		

第 56 図 SA2一本柱列跡

(3) 溝跡 (第 57・58 図)

溝跡は、6 条 (SD81・113～117) 検出された。SD81・114～116 はほぼ南北方向に、SD113・117 は北西から北東方向に走行する。

SD81 溝跡（第 57 図）

調査区南西部、14・18 グリッドに位置し、第 8 次調査で検出された溝跡の続きである。Pit61・64、SI220 より古い。また第 8 次調査の調査成果から、SI221(第 8 次調査 SX3)よりも新しいと考えられる。規模は検出長 5.44m、幅 28 ~ 49cm、深さ 8 ~ 28cm を測り、第 8 次調査部分と合わせると検出長 7.86m を測る。方向は N - 2° - E で、SD114・115・116 と並走して南北方向に延びる。断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は 2 層に分層され、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。遺物は土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。詳細な時期は不明だが、SI220 より古いことから、4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）と考えられる。

SD113 溝跡（第 57 図）

調査区南東部、15・16 グリッドに位置する。SI223・240・244・245、SD116、Pit54・58・70・103 より新しい。規模は検出長 4.86m、幅 43 ~ 63cm、深さ 3 ~ 14cm を測る。方向は N - 61° - W で、断面形状は弧状を呈する。堆積土は 2 層に分層され、上層は灰黄褐色砂質シルト、下層にはにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。遺物は出土していない。詳細な時期は不明だが、SI223 より新しいことから、5a 期（郡山 1 期官衙期）以降と考えられる。

SD114 溝跡（第 57 図）

調査区中央部西、10 グリッドに位置する。Pit39・40 より古く、SI228 より新しい。規模は検出長 2.40m、幅 29 ~ 37cm、深さ 11 ~ 16cm を測る。方向は N - 0° で、SD81・115・116 と並走して南北方向に延びる。断面形状は逆台形状を呈する。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。詳細な時期は不明だが、SI228 より新しいことから、4a ~ b 期（住社式期新段階～栗圓式期）以降と考えられる。

SD115 溝跡（第 57 図）

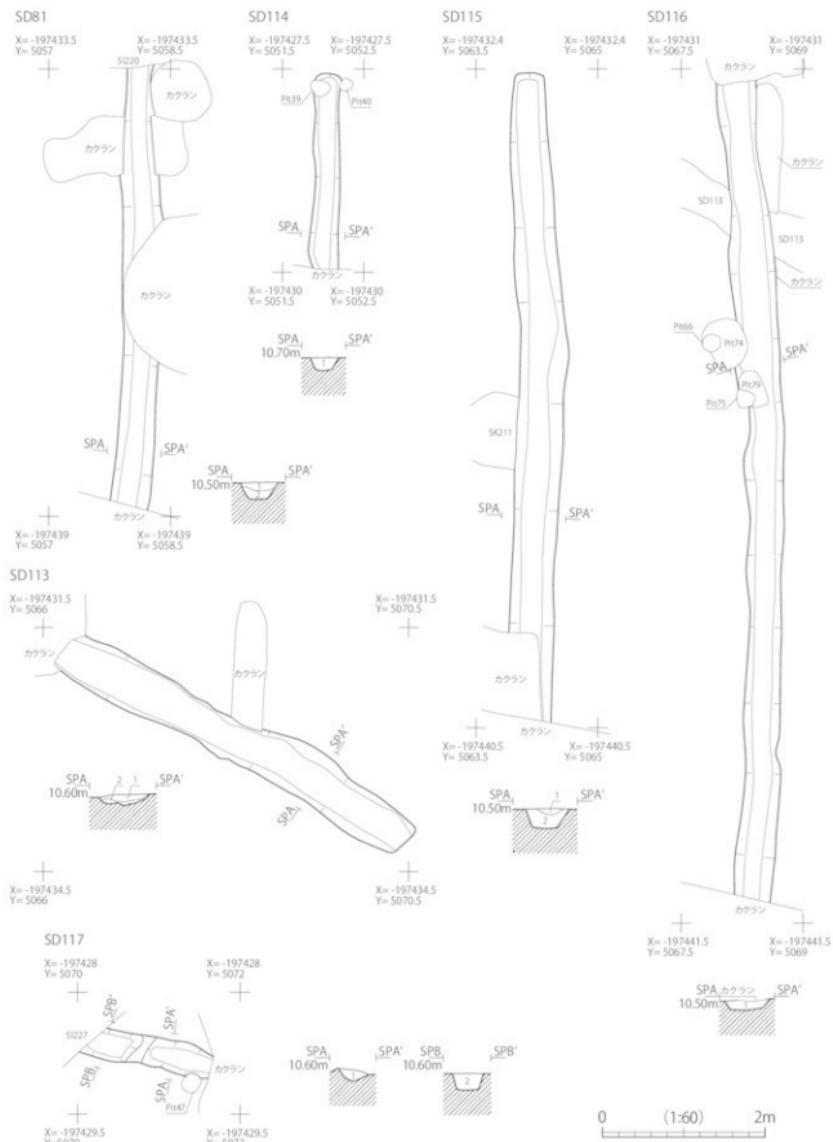
調査区南部中央、15・19・22 グリッドに位置する。SK211 より古く、SI239・244、Pit87 より新しい。規模は検出長 7.98m、幅 37 ~ 60cm、深さ 2 ~ 26cm を測る。方向は N - 0° で、SD81・114・116 と並走して南北方向に延びる。断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は 2 層に分層され、上層は暗褐色砂質シルト、下層にはにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。遺物は土師器・須恵器が出土しているが、図化できるものはなかった。詳細な時期は不明だが、出土遺物と SI239・244 より新しいことから、4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）と考えられる。

SD116 溝跡（第 57・58 図）

調査区南東部、15・19・22 グリッドに位置する。SD113、Pit74・75・79 より古く、SI239・244・245、Pit85・90・97・107 より新しい。規模は検出長 10.04m、幅 38 ~ 56cm、深さ 4 ~ 14cm を測る。方向は N - 0° で、SD81・114・115 と並走して南北方向に延びる。断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は黒褐色シルトの単層である。遺物は土師器・須恵器のほか、掲載した凝灰岩製の砥石 1 点（第 58 図-1）が出土した。詳細な時期は不明だが、出土遺物と SD113 より古いことから、4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）と考えられる。

SD117 溝跡（第 57 図）

調査区中央部東、12 グリッドに位置する。SI227、Pit47 より古く、SI245、Pit108、SX2 より新しい。規模は検出長 1.62m、幅 34 ~ 38cm、深さ 7 ~ 20cm を測る。方向は N - 80° - W で、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は 2 層に分層され、東部は灰黄褐色砂質シルト、西部にはにぶい黄褐色シルトを主体とする。遺物は土師器



第57図 SD81・113～117溝跡

が少量出土しているが、図化できるものはなかった。SI227より古いことから、4b期（栗団式期）以前と考えられる。

測量 納取表

遺構名	グリッド	平面形	周縁(cm)		層位	土 色	土 性	備 考	重 視
			横径	幅					
SD81	14・18	N-Z'・E	54.4× 29~49	8~ 28	1	10YR4/3に赤い黄褐色	砂質シルト	N/粘土ブロック(5~15mm程度)やや多量含む。	SE220, Pt61・64より古く、 SE223・240・244~245、 SD116, Pt54・58・70・103 より新しい。
			48.6× 43~63	3~ 14	1	10YR4/4灰黄褐色	砂質シルト	N/粘土粒・灰土粒・炭化物微量含む。	
SD114	10	N-O'	24.0× 29~37	11~ 16	1	10YR4/4に赤い黄褐色	砂質シルト	N/粘土粒や多量、炭化物微量含む。	Pt39・40より古く、SI228より新しい。
			29.8× 37~60	2~ 26	1	10YR4/3灰褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。	
SD115	15・19・ 22	N-O'	100.4× 38~56	4~ 14	1	10YR4/3灰褐色	シルト	N/粘土粒少量化。	SK21より古く、SK22・ 244, Pt87より新しい。
			100.4× 34~38	7~ 20	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	N/粘土・黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、 炭化物微量含む。	
SD117	12	N-SO'・W	162× 34~38	7~ 20	2	10YR4/3に赤い黄褐色	シルト	N/粘土ブロック(5~10mm程度)少量化。	SD113, Pt74・75・79と7.5 < SK209・244・245, Pt83・ 90・97・107より古く、 SK227, Pt47より古く、 SK245, Pt108, SK2より新 しい。



第 58 図 SD116 溝跡出土遺物

(4) 土坑（第 59・60 図）

土坑は、11 基（SK205～211・214・216～218）検出された。土坑の時期は特定できないが、重複関係や出土遺物から概ね 4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）と考えられる。

SK205 土坑（第 59 図）

調査区中央部、10 グリッドに位置する。SI225より新しい。検出した規模は長軸 52cm、短軸 44cm、深さ 9cm を測る。平面形状は方形、断面形状は弧状を呈する。堆積土は黒色シルトの単層で、炭化物を多量に含む。遺物は土器師が少量出土しているが、図化できるものはなかった。SI225より新しいことから、4b～5a 期（栗団式期～郡山 I 期官衙期）以降と考えられる。

SK206 土坑（第 59 図）

調査区中央部、15 グリッドに位置する。Pit69 より古く、SI244、SK207 より新しい。検出した規模は長軸 89cm、短軸 82cm、深さ 8cm を測る。平面形状は台形、断面形状は弧状を呈する。堆積土は褐灰色シルトの単層である。遺物は土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。出土遺物と SI244 より新しいことから、4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。

SK207 土坑（第 59・60 図）

調査区中央部、15 グリッドに位置する。SK206、Pit69 より古く、SI244 より新しい。検出した規模は長軸 133cm、短軸 116cm、深さ 32cm を測る。平面形状は台形、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は 2 層に分層され、1 層は黒褐色砂質シルト、2 層はにぶい黄褐色砂質シルトである。遺物は土師器が少量と、掲載した刀子 1 点（第 60 図-1）が出土した。出土遺物と SI244 より新しいことから、4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。

SK208 土坑（第 59 図）

調査区中央部、11 グリッドに位置する。SI225 より新しい。検出した規模は長軸 78cm、短軸 66cm、深さ 19cm を測る。平面形状は梢円形、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。SI225 より新しいことから、4b～5a 期（栗園式一期～郡山 I 期官衙期）以降と考えられる。

SK209 土坑（第 59 図）

調査区南西部、10 グリッドに位置する。SI219・226、Pit52 より古く、SI228 より新しい。検出した規模は長軸 66cm、短軸 47cm、深さ 13cm を測る。平面形状は円形と推定され、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。SI219 より古いことから、4a～b 期（住社式期新段階～栗園式期）以前と考えられる。

SK210 土坑（第 59 図）

調査区南部中央、18・19 グリッドに位置する。検出した規模は長軸 96cm、短軸 83cm、深さ 22cm を測る。平面形状は長方形と推定され、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は 3 層に分層され、1・2 層は黒褐色シルト、3 層はにぶい黄褐色砂質シルトである。遺物は出土していない。時期は不明である。

SK211 土坑（第 59 図）

調査区南部中央、19 グリッドに位置する。SD115 より新しい。検出した規模は長軸 95cm、短軸 92cm、深さ 21cm を測る。平面形状は梢円形、断面形状は弧状を呈する。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。SD115 より新しいことから、4・5 期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。

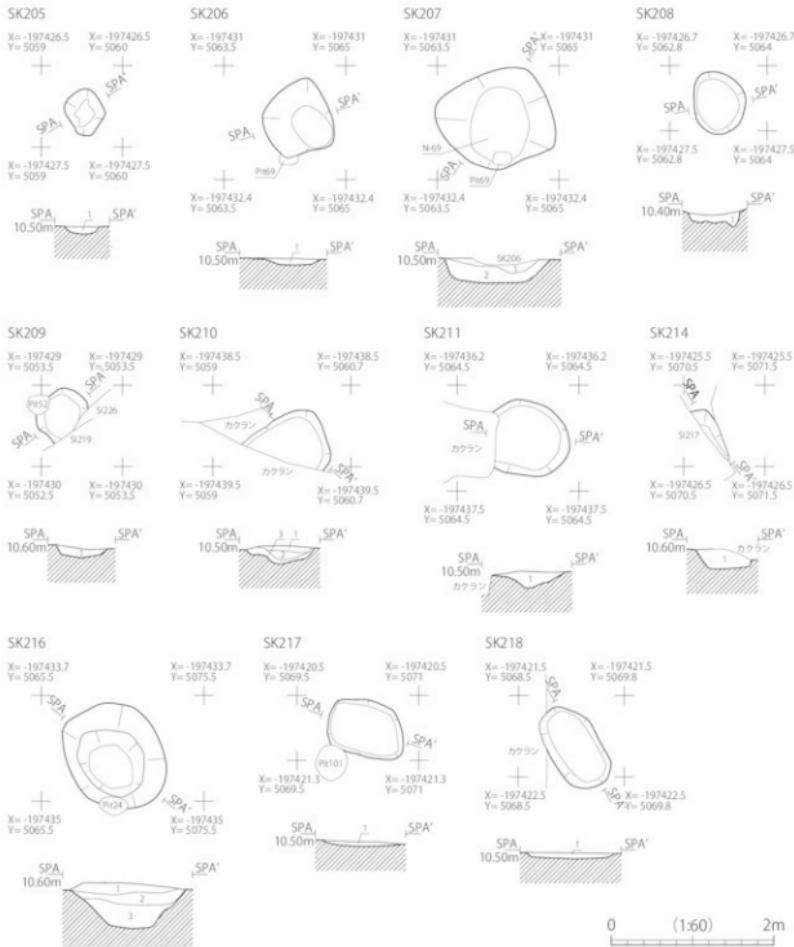
SK214 土坑（第 59 図）

調査区中央部東、12 グリッドに位置する。SI217 より古く、SI247 より新しい。検出した規模は長軸 77cm、短軸 18cm、深さ 24cm を測る。大半が SI217 によって失われているため平面形状は不明であり、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。SI217 より古いことから、

5a期（郡山I期官衙期）以前と考えられる。

SK216土坑（第59図）

調査区南東部、15・19グリッドに位置する。Pit24より古く、SI244より新しい。検出した規模は長軸137cm、短軸116cm、深さ59cmを測る。平面形状は楕円形、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は3層に分層され、1層は灰黄褐色砂質シルト、2層はにぶい黄褐色砂質シルト、3層はにぶい黄褐色シルトである。遺物は



第59図 SK205～211・214・216～218土坑

土坑観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土 色	土 性	備 考	重複
			長軸	短軸					
SK205	10	方形	52×44	9	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物多量、灰黒シルトやや多量含む。	SI225より新しい。
SK206	15	台形	89×82	8	1	10YR5/1 黒褐色	シルト	炭化物微量、灰黒シルトやや多量含む。	Pit69より古く、SI244、SK207より新しい。
SK207	15	台形	133×116	32	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物多量、灰黒シルトやや多量含む。	SK206、Pit69より古く、SI244より新しい。
SK208	11	楕円形	78×66	19	2	10YR5/3 にい・黄褐色	砂質シルト	炭化物微量、灰黒シルトやや多量含む。	SI244より新しい。
SK209	10	円形	66×(47)	13	1	10YR4/3 にい・黄褐色	シルト	灰褐色土(ロック(5~20cm程度)やや多量含む)。	SI219×28、Pit53より古く、SI228より新しい。
SK210	18・19	(長方形)	(96)×(83)	22	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	灰褐色土(ロック(5~20cm程度)少少、炭化物微量含む)。	—
					2	10YR3/2 黑褐色	シルト	灰褐色土(ロック(5~20cm程度)少少、炭化物微量含む)。	
					3	10YR5/3 にい・黄褐色	砂質シルト	灰褐色土(ロック(5~50cm程度)多量、炭化物微量含む)。	
SK211	19	(椭円形)	(95)×92	21	1	10YR4/3 にい・黄褐色	砂質シルト	灰褐色土(ロック(5~20cm程度)やや多量、炭化物微量含む)。	SD115より新しい。
SK214	12	不明	(77)×(18)	24	1	10YR5/3 にい・黄褐色	砂質シルト	灰褐色土ブロック(5~20cm程度)頭にやや多量含む。	SI217より古く、SI247より新しい。
SK216	15・19	楕円形	137×116	59	1	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	灰褐色土(ロック(5~20cm程度)やや多量含む)。	Pit2より古く、SI244より新しい。
					2	10YR5/4 にい・黄褐色	砂質シルト	灰褐色土(ロック(5~20cm程度)やや多量含む)。	
					3	10YR5/3 にい・黄褐色	シルト	灰褐色土(ロック(5~20cm程度)やや多量含む)。	
SK217	8・9	椭円形	96×68	12	1	10YR4/3 にい・黄褐色	砂質シルト	灰褐色土(ロック(5~20cm程度)やや多量、黒褐色シルト少少含む)。	Pit101より古く、SI233より新しい。
SK218	8	楕円形	111×63	8	1	10YR4/3 にい・黄褐色	砂質シルト	灰褐色土(ロック(5~30cm程度)少量、炭化物微量含む)。	SI233より新しい。



回収番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法線(cm)		
						全長	幅	厚さ
1	N-69	SK207	埋蔵土	金屬製品	刀子	5.5	1.3	0.5
			重量(g)		備考	—	万葉 四四	22
			7.4		柄部に木質が部分的に残存する。			

第60図 SK207 土坑出土遺物

土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。出土遺物と SI244 より新しいことから、4・5期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。

SK217 土坑（第59図）

調査区北東部、8・9 グリッドに位置する。Pit101 より古く、SI233 より新しい。検出した規模は長軸 96cm、短軸 68cm、深さ 12cm を測る。平面形状は楕円形、断面形状は弧状を呈する。堆積土はにい・黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。出土遺物と SI233 より新しいことから、4・5期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。

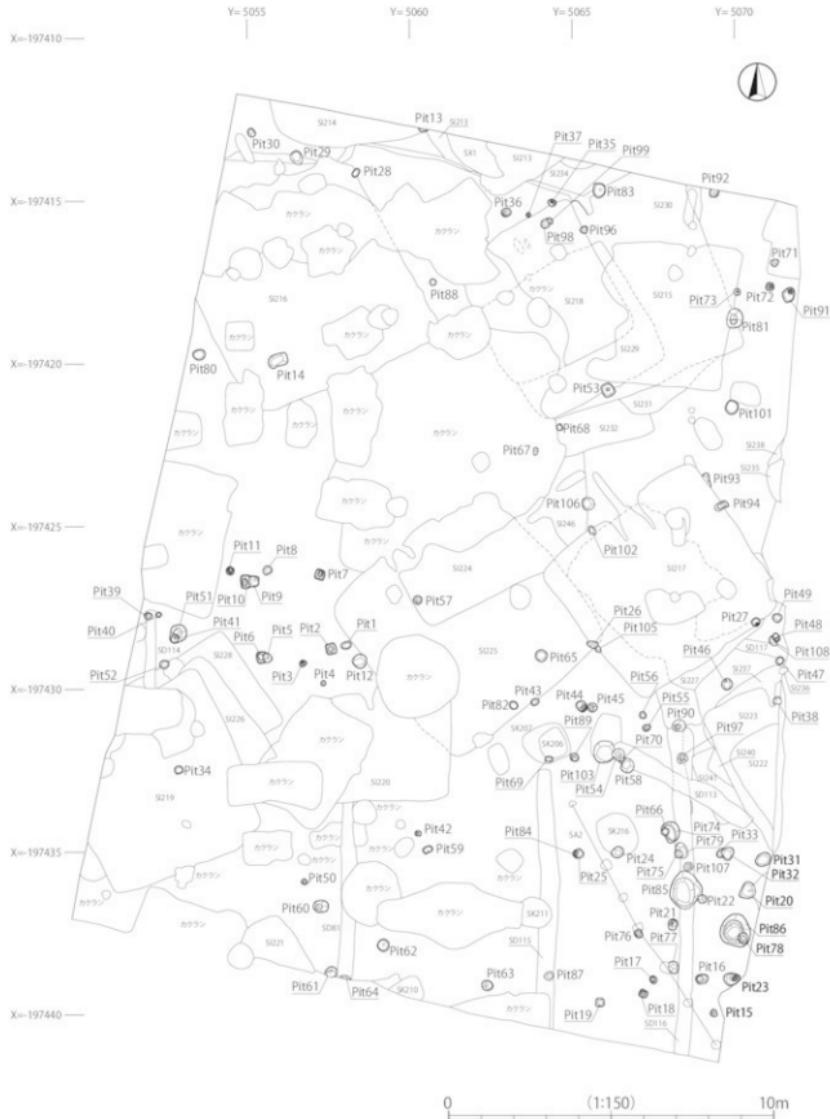
SK218 土坑（第59図）

調査区北東部、8 グリッドに位置する。SI233 より新しい。検出した規模は長軸 111cm、短軸 63cm、深さ 8cm を測る。平面形状は楕円形、断面形状は弧状を呈する。堆積土はにい・黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。出土遺物と SI233 より新しいことから、4・5期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。

(5) ピット（第61図）

ピットは、105 基 (P1 ~ 94・96 ~ 99・101 ~ 103・105 ~ 108) 検出された。分布は調査区のほぼ全域に及び、特に調査区中央部西の 10 グリッド、中央部東の 12 グリッド、調査区南東部の 15・19・20 グリッドに密に分布する。

平面形状は大半が円形、楕円形であり、方形基調とするものが推定も含めて 23 基 (Pit2・6・7・9・10・14・18・19・34・41・42・46・47・53・54・59・68・69・76・85・91・92・94)、不明が 3 基 (Pit64・70・



第 61 図 ピット（古墳時代後期～古代）

93)認められる。規模は長軸14~103cm、短軸10~97cm、深さ5~63cmである。大半が長軸50cm以下であり、長軸55cm以上の大型のものは8基(Pit14・20・51・74・81・85・86・103)認められる。

柱痕跡のあるピットは43基(Pit5・7・10・15・18・20~23・27・31・35・36・39・41・42・44~46・48・50・54・55・57・59・61~64・72~74・76・83・85・86・89・90~92・94・97・107)確認されたが、規則的な配列はみられなかった。

ピットの時期は特定できないが、重複関係や出土遺物から概ね4~5期(古墳時代後期~奈良時代)を主体とすると考えられる。

ピット 確認表(1)

遺構名	形状	面積	最深(cm)	層位	土色	土性	備考		重複
							長軸×短軸	深さ	
Pit1	10	楕円形	32×22	34	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層にやや多量含む。	—
Pit2	10	方形	32×32	42	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層微細含む。	—
Pit3	10	楕円形	23×19	10	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層にやや多量含む。	—
Pit4	10	円形	16×14	14	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層やや多量含む。	—
Pit5	10	楕円形	30×25	18	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層下部に少量含む。	—
Pit6	10	方形	35×(29)	35	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層ブロック(5~20cm程度)少量含む。	Pit6より新しい。
Pit7	10	方形	30×29	24	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層ブロック(5~10cm程度)少量含む。	—
Pit8	10	円形	28×25	18	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層ブロック(5~10cm程度)少量含む。	—
Pit9	10	方形	33×30	26	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層ブロック(5~10cm程度)少量含む。	Pit5より古い。
Pit10	10	長方形	42×(28)	32	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	—
Pit11	10	円形	25×24	21	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	—
Pit12	10	円形	43×43	36	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層下部に少量化物少量化物少量化物微細含む。	S222より新しい。
Pit13	2	(楕円形)	29×(11)	33	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層ブロック(5~10cm程度)少量化物少量化物含む。	S223+214より新しい。
Pit14	4~7	丸丘長方形	62×37	15	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	S216より新しい。
Pit15	19~22	円形	23×21	23	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	—
Pit16	19	楕円形	39×29	47	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	—
Pit17	19	円形	24×21	27	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	S229より新しい。
Pit18	19	方形	26×24	28	1	10YR3/3暗褐色	シルト	柱留付層少量化含む。	S229より新しい。
Pit19	19	方形	25×25	31	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	S229より新しい。
Pit20	20	楕円形	(53)×(49)	23	2	10YR5/4/5灰黄褐色	シルト	柱留付層ブロック(5~10cm程度)やや多量、炭化物微量含む。	—
Pit21	19	楕円形	34×28	23	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	—
Pit22	19	円形	28×24	30	1	10YR5/4/5灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	Pit8より新しい。
Pit23	19~20	楕円形	50×38	25	1	10YR2/1黒褐色	シルト	柱留付層下部に少量化含む。※柱留跡	—
Pit24	15~19	円形	39×32	32	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	S216より新しい。
Pit25	15~19	円形	27×26	24	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	Pit8より新しい。
Pit26	11	楕円形	34×21	18	1	10YR2/2黒褐色	シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	S217+225,Pit105より新しい。
Pit27	12	円形	25×25	12	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	S217+227より新しい。
Pit28	1	楕円形	28×19	27	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	S216より新しい。
Pit29	1	楕円形	(43)×(35)	23	1	10YR4/3灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	S216より新しい。
Pit30	1	楕円形	27×21	25	1	10YR4/3灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	—
Pit31	20	楕円形	49×39	21	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。	—
Pit32	15~19	楕円形	41×37	26	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	柱留付層少量化含む。	—
Pit33	15~19	(楕円形)	(29)×24	26	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	柱留付層少量化含む。	Pit32より古く,S2245より新しい。
Pit34	14	方形	26×24	25	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	柱留付層少量化含む。	S219より新しい。
Pit35	2~5	円形	25×22	44	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	S218+250より新しい。
					2	10YR5/4/5灰黄褐色	砂質シルト	柱留付層少量化含む。※柱留跡	—

ピット網査表 (2)

通査名	Y (m)	平面形	規格 (cm)	幅員	土 色	土 性	備 考		重 観
							長軸×短軸	深さ	
Pn36	5	円形	29×25	29	1 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	P/樹木ブロック(5~10cm程度)少量、黒褐色シルトブロック(5cm程度)・炭化物微量含む。※柱痕跡		—
					2 10YR5/4に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木ブロック(5~10cm程度)少量含む。黒褐色シルトブロック(5cm程度)・炭化物微量含む。		
Pn37	5	円形	14×13	29	1 10YR4/2 黄褐色	シルト	※樹木粘土や多量含む。		—
					2 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	(よりやかめ)。		
Pn38	16	円形	28×(25)	20	1 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や多量含む。※柱痕跡		SD223+237より新しい。
					2 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn39	10	楕円形	25×21	13	1 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や多量含む。※柱痕跡		SD114より新しい。
					2 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn40	10	円形	15×15	32	1 10YR3/3 黄褐色	シルト	炭化物少量含む。		SD114より新しい。
					2 10YR4/2灰 黄褐色	シルト	※樹木粘土や多量含む。※柱痕跡		
Pn41	10	長方形	27×21	31	1 10YR4/2灰 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		Pn51より新しい。
					2 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や多量含む。※柱痕跡		
Pn42	15	方形	18×16	10	1 10YR5/4に似る 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		—
					2 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn43	15	楕円形	26×20	11	1 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD225より新しい。
					2 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn44	15	円形	35×30	17	1 10YR4/3 黄褐色	シルト	炭化物少量含む。		SD114より新しい。
					2 10YR5/4に似る 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn45	15	円形	29×27	23	1 10YR4/2灰 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD24より新しい。
					2 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn46	11+15	楕円形	33×32	28	1 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD245より新しい。
					2 10YR5/4に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn47	12	楕円形	25×21	17	1 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD117.5+23より新しい。
					2 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn48	12	楕円形	27×21	29	1 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		Pn108, SN2より新しい。
					2 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn49	12	円形	28×27	21	1 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SN2より新しい。
					2 10YR4/3 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn50	18	円形	20×17	11	1 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		—
					2 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn51	10	楕円形	60×52	59	1 10YR4/2灰 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		Pn41より古い。
					2 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn52	10	円形	29×26	29	1 10YR4/2灰 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD228, SK209より新しい。
					2 10YR4/3に似る 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn53	8	方形	41×38	24	1 10YR4/2灰 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD229+230より新しい。
					2 10YR5/4に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn54	15	方形	35×35	34	1 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD244, Pn70+103より新しい。
					2 10YR3/1 黑褐色	シルト	※樹木ブロック(5~20cm程度)多量、炭化物微量含む。※柱痕跡		
Pn55	15	楕円形	25×20	24	1 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD244より新しい。
					2 10YR5/4に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn56	15	円形	22×20	21	1 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD244より新しい。
					2 10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物微量含む。※柱痕跡		
Pn57	11	円形	26×26	9	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	※樹木ブロック(10~30cm程度)多量含む。		SD224+225より新しい。
					2 10YR3/2 黑褐色	シルト	※樹木色ハロウブロック(10~30cm程度)多量含む。※柱痕跡		
Pn58	15	円形	(42)×(30)	30	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	※樹木ブロック(5~10cm程度)少量、炭化物微量含む。※柱痕跡		SD113.8り古く、SD244, Pn70より新しい。
					2 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。※柱痕跡		
Pn59	15+19	長方形	30×20	8	1 10YR4/2灰 黄褐色	砂質シルト	※樹木ブロック(5~10cm程度)少量含む。		—
					2 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn60	18	楕円形	45×36	61	1 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		—
					2 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn61	18	円形	38×(33)	51	1 10YR4/3 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD81より古い。
					2 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn62	18	円形	38×35	33	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		—
					2 10YR3/2 黑褐色	シルト	※樹木ブロック(5~20cm程度)少量含む。炭化物微量含む。※柱痕跡		
Pn63	19	円形	35×30	57	1 10YR3/3 黑褐色	シルト	※樹木ブロック(5~10cm程度)少量含む。※柱痕跡		—
					2 10YR3/3 黑褐色	シルト	※樹木ブロック(5~10cm程度)少量含む。※柱痕跡		
Pn64	18	不明	(36)×(10)	28	1 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD81より古い。
					2 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn65	11	円形	36×36	21	1 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD225より新しい。
					2 10YR3/3 黑褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn66	15	円形	24×23	24	1 10YR3/3 黑褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD245, Pn74より新しい。
					2 10YR3/3 黑褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn67	8	楕円形	(24)×(15)	16	1 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		—
					2 10YR5/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn68	8	方形	20×(16)	7	1 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD232より古い。
					2 10YR4/2 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn69	15	長方形	24×16	15	1 10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	※樹木ブロック(5~10cm程度)少量含む。		SD244, SK206+207より新しい。
					2 10YR4/4 褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn70	15	不明	(21)×(11)	47	1 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD113, Pn54+58より古く、SD244より新しい。
					2 10YR4/4 褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn71	6	円形	(24)×(21)	19	1 10YR3/1 黑褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		SD233より新しい。
					2 10YR4/2 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。※柱痕跡		
Pn72	6	円形	25×24	18	2 10YR5/4に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD233より新しい。
					3 10YR4/2 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn73	5+6	円形	20×20	23	2 10YR5/4に似る 黄褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD215より古く、SD233より新しい。
					3 10YR3/1 黑褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn74	15	楕円形	63×(53)	47	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。下部灰白色に変色。※柱痕跡		Pn66より古く、SD244+245, SD116より新しい。
					2 10YR3/3 黑褐色	シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn75	15+19	円形	25×23	37	1 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD245, Pn79, SD116より新しい。
					2 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		
Pn76	19	方形	(26)×24	19	1 10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		SD249より古く。
					2 10YR4/3に似る 黄褐色	砂質シルト	※樹木粘土や少量含む。		

ピット観察表(3)

造構名	Y付ド	平面形	面積(cm ²)		層位	土 性	備 考	重 観
			長軸×短軸	深さ				
Pit77	19	楕円形	38×(29)	21	1 10VR4/3にぶい・黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト シルト	Ⅴ層土と少量含む。 Ⅴ層土とやや多量含む。	SIA2Pより古く、SI239より新しい。
Pit78	20	円形	33×30	31	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅴ層土と少量、炭化物微量含む。	Fra8より新しい。
Pit79	15-19	楕円形	50×(32)	33	1 10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層土・粘化物微量含む。	Fra7より古く、SI245、SD16より新しい。
Pit80	4	円形	37×32	15	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR5/6 黄褐色	シルト シルト	Ⅴ層土・粘化物微量含む。 黒褐色シルト・粘少量含む。	SIA2Pより古く、SI239より新しい。
Pit81	5-6	楕円形	60×(49)	52	1 10YR4/2 灰黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色	シルト シルト	Ⅴ層土・粘少量、他土種・炭化物微量含む。 Ⅴ層土・プロト(5~10cm程度)やや多量含む。	SI215より古く、SI230+233より新しい。
Pit82	15	円形	26×24	5	1 10YR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層土・粘多量含む。	SI225より新しい。
Pit83	2	円形	45×37	26	1 10YR5/6 黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色	シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・粘多量、炭化物微量含む。 Ⅴ層土・空や少量、炭化物微量含む。	SI230より新しい。
Pit84	15-19	円形	25×(18)	32	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	Ⅴ層土・空や少量、炭化物微量含む。	Fra25より古い。
Pit85	19	圓方形	102×97	61	1 10YR4/3にぶい・黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色 3 10YR4/3にぶい・黄褐色 4 10YR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・プロト(5~20cm程度)多量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・プロト(5~50cm程度)多量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・プロト(5~50cm程度)多量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・プロト(5~40cm程度)多量含む。	SD116、Fra22より古く、SI245より新しい。
Pit86	19-20	円形	103×94	63	1 10YR4/3にぶい・黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色 3 10YR4/3にぶい・黄褐色 4 10YR4/4 黄褐色	砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト 粘質シルト	Ⅴ層土・粘多量含む。 Ⅴ層土・プロト(5~20cm程度)少量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・プロト(5~50cm程度)やや多量含む。 Ⅴ層土・プロト(5~40cm程度)多量含む。	Fra78より古い。
Pit87	19	円形	(29)×(26)	23	1 10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層土・粘少量含む。	SD115より古く、SI239より新しい。
Pit88	5	円形	(22)×(21)	10	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	Ⅴ層土・少量、他土種・炭化物微量含む。	—
Pit89	15	円形	28×25	31	2 10YR4/4 黄褐色	シルト	Ⅴ層土・粘少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡	SI244より新しい。
Pit90	15	円形	(42)×(37)	33	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	Ⅴ層土・プロト(5~10cm程度)やや多量、炭化物微量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡	SI244より新しい。
Pit91	6	方形	40×40	28	1 10YR3/3 黑褐色 2 10YR4/2 黑褐色	砂質シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡	SI233より新しい。
Pit92	2	方形	28×(20)	7	1 10YR3/3 黑褐色 2 10YR3/3 黑褐色	砂質シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・粘微量含む。※柱痕跡 黑褐色シルト・プロト(5~50cm程度)少量含む。	—
Pit93	8	不明	(44)×(20)	20	1 10YR3/3 黑褐色	砂質シルト	Ⅴ層土・プロト(5~20cm程度)少量、黑褐色シルト・プロト(5~50cm程度)少量含む。	SI217より古く、SI247より新しい。
Pit94	8	圓方形	(43)×(22)	58	1 10YR2/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	Ⅴ層土・粘微量含む。※柱痕跡 黑褐色シルト・プロト(5~10cm程度)少量含む。※柱痕跡	SI217より古く、SI247より新しい。
Pit95	5	円形	(24)×(21)	23	1 10YR4/3 黄褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡	SI218+230より古い。
Pit97	15	円形	(34)×(32)	31	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡	SD116より古く、SI244より新しい。
Pit98	5	円形	(26)×(26)	39	1 10YR4/3にぶい・黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡	SI218+230より古く、Fra9より新しい。
Pit99	5	円形	(21)×(14)	32	1 10YR4/3にぶい・黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡	SI218+230より古く、Fra9より古い。
Pit101	8-9	円形	44×40	8	1 10TR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層土・プロト(5~20cm程度)やや多量、他土種・炭化物微量含む。	SI233+SI217より新しい。
Pit102	8-11	(楕円形)	(28)×(20)	43	1 10YR4/4 黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・プロト(5cm程度)少量、炭化物微量含む。 Ⅴ層土・少量、他土種・炭化物微量含む。	SI217より古い。
Pit103	15	円形	(72)×(67)	58	1 10YR5/4にぶい・黄褐色 2 10YR5/4にぶい・黄褐色	砂質シルト シルト	Ⅴ層土・プロト(5~10cm程度)やや多量含む。 Ⅴ層土・粘微量含む。	SD113、Fra54より古く、SI244より新しい。
Pit105	11	(楕円形)	(23)×(16)	15	1 10YR4/3にぶい・黄褐色 2 10YR4/3にぶい・黄褐色	砂質シルト シルト	Ⅴ層土・空や少量、炭化物微量含む。 Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。	SI217、Fra26より古く。
Pit106	8	円形	(39)×(38)	18	1 10YR4/4 黄褐色	シルト	Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。	SI246より古く。
Pit107	19	円形	(29)×(26)	11	1 10YR3/3 黑褐色 2 10YR4/2 黑褐色	砂質シルト 砂質シルト	Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。※柱痕跡 Ⅴ層土・空や少量、他土種・炭化物微量含む。	SD116より古く、SI245より新しい。
Pit108	12	楕円形	(32)×(24)	34	1 10YR3/3 黑褐色	砂質シルト	Ⅴ層土・プロト(5~40cm程度)やや多量、相鄰色シルト Ⅴ層土・空や少量、炭化物微量含む。	SI217、Fra48より古く、SI232より新しい。

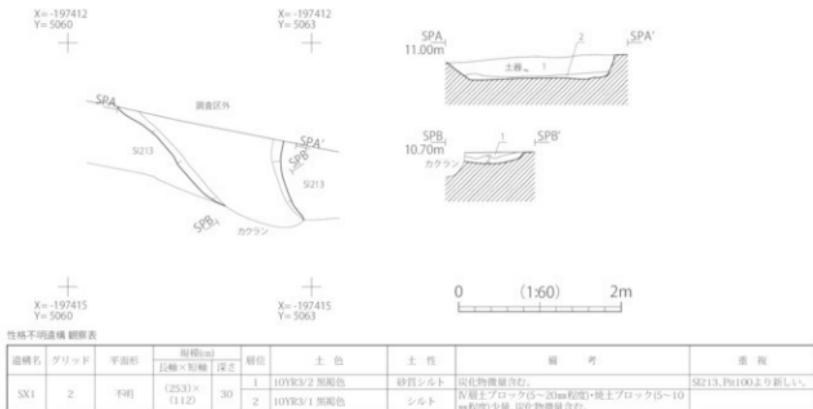
(6) 性格不明遺構(第62図)

性格不明遺構は、1基(SX1)検出された。形態は溝跡・土坑に近似しているが、部分的な調査であったため特定できず、性格不明遺構に分類した。

SX1 性格不明遺構(第62図)

調査区北部中央、2グリッドに位置する。北部は調査区外となり、南端部は後世の削平を受けている。基本層IV層上面で検出しているが、調査区壁の断面観察からⅢ層上面から掘り込まれていることが確認できた。SI213、Pit100より新しい。検出した規模は長軸253cm、短軸112cm、深さ30cmを測る。平面形状は不明であり、壁面は直線的に外傾して立ち上がる。堆積土は2層に分層され、1層は黒褐色砂質シルト、2層は黒褐色シルトで、

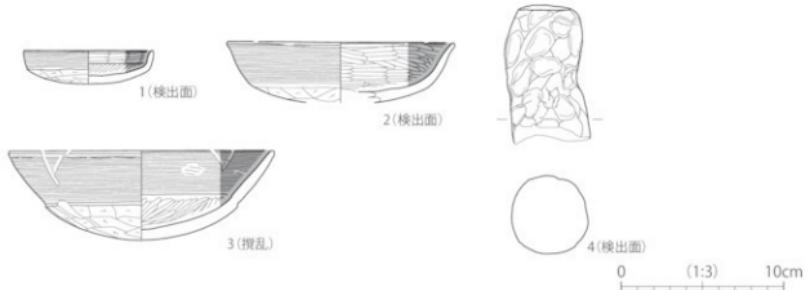
底面から炭化材が検出されている。遺物は土師器が少量出土しているが、図化できるものはなかった。SI213より新しいことから、4・5期（古墳時代後期～奈良時代）以降と考えられる。



第 62 図 SX1 性格不明遺構

(7) 遺構外出土遺物 (第 63 図)

表土除去や遺構検出作業時、擾乱などから出土した帰属遺構不明の遺物についてここで取り上げる。土師器環 3 点、土製の支脚 1 点を掲載した（第 63 図－1～4）。1 グリッドから出土した 1・2 は SI214・216、7 グリッドから出土した 3 は SI216・224、8 グリッドから出土した 4 は SI217・224・225・229～232・246 との関連性が考えられる。



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外部調整	内部調整	備考	写真 回数
						口径	底径	厚さ				
1	C-47	13° 63°	検出面	土師器	環	(7.90)	—	2.1	口縁部:13.0mm 体-底部:2.9mm	0.13mm, 黒色処理		22
2	C-82	13° 63°	検出面	土師器	環	(13.8)	—	(3.7)	口縁部:13.0mm 体-底部:3.7mm	0.13mm, 黒色処理		22
3	C-49	73° 97°	擾乱	土師器	環	(16.1)	—	5.5	口縁部:12.0mm 体-底部:5.5mm	口縁部:12.0mm 体-底部:5.5mm, 黒色処理	全体的に摩滅	22
4	P-48	83° 97°	検出面	土製品	支脚	(8.5)	4.7	4.8	226.70			22

第 63 図 遺構外出土遺物

1の土師器壺は小型で、口縁部は直線的に立ち上がり、体部との境目に明瞭な稜をもつ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリで、内面がヘラミガキで黒色処理される。2の土師器壺は、口縁部は直線的に外傾し、調整は外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリで、内面がヘラミガキで黒色処理される。3の土師器壺は、口縁部が直線的に外傾し、体部との境目に明瞭な稜をもつ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリで、内面が口縁部ヨコナデ後一部ミガキ、体～底部ヘラミガキで黒色処理される。4は土製の支脚で、SI225から類似品が出土している。

第2節 古墳時代前期の遺構と遺物（第64～75図）

本節では、重複状況及び堆積土、出土遺物などから古墳時代前期と考えられる遺構について扱う。検出された遺構は、竪穴住居跡6軒（SI233・239・244・245・247・250）、土坑2基（SK213・215）、ピット2基（Pit95・100）、性格不明遺構1基（SX2）である。当該期と考えられる遺構は、洪水起源の可能性がある細砂又は砂質の強い砂質シルトで埋没している。この堆積土の特徴は本調査区における他の時代の遺構堆積土と明瞭な差異があり、遺物が出土していない場合にも時期を判断する一つの基準となった。調査区北壁の上層観察によると、古墳時代前期の遺構は、IV層から掘り込まれている。

以下、竪穴住居跡、土坑、ピット、性格不明遺構の順で記載する。

（1）竪穴住居跡（第65～72図）

竪穴住居跡は、6軒（SI233・239・244・245・247・250）検出された。分布は調査区東半部に偏在しており、西半部では検出されていない。これらは古代の遺構を含め激しく重複しており、SI233・247とSI244・245は同時期の住居跡でそれぞれ重複している。また、周囲を全て重複遺構と搅乱に失われているSX2は、掘り方のみが残存している状態の竪穴住居跡である可能性が考えられる。

竪穴住居跡の平面形状は、ほとんどが方形基準であると想定される。主軸方向は、SI239がN-4°-Eとほぼ北を指向するほかは、全てN-30°-W～N-45°-W程度北西に傾いている。規模はSI233・245・247が長軸6.0m前後、SI239・244が長軸4.5～5.5mであり、SI250は部分的な検出のため不明である。床面は古代の住居跡と比較するとはっきりとしないが、全て掘り方を伴う。掘り方形状は、中央部が高まり四壁方向へと低くなるという古代の竪穴住居跡に多くみられた特徴が、SI233・244でも確認された。周溝はSI239、炉はSI244、貯蔵穴はSI250で検出されている。主柱穴は、SI233が対角線上に2基、SI239が北壁に平行して2基、SI244が概ね対角線上に4基ある。SI233・239も、重複する遺構や搅乱に失われていることを考慮すると、4基配されていた可能性があると考えられる。

遺物は、土師器の高壺・器台・鉢・壺・甕が主体であり、このほか砾石器が1点出土している。これらの竪穴住居跡の時期は、3期（塩釜式期）と考えられる。

なお竪穴住居跡以外の遺構のうち、堆積土に柱痕跡が確認できるPit95は、位置的にSI250の主柱穴である可能性があり、堆積土下層から上下に重ねられたほぼ完形の土師器甕のミニチュア土器が2点横置の状態で埋設されていた。また、SK213からは高壺と甕がまとめて出土しており、SI247の堆積土中の遺物である可能性がある。

SI233 竪穴住居跡（第65・66図）

【位置・確認】 調査区北東部、2・3・5・6・8・9グリッドに位置する。北西部と南東部を重複遺構と後世の搅乱によって失われている。



第64図 古墳時代前期遺構配置図

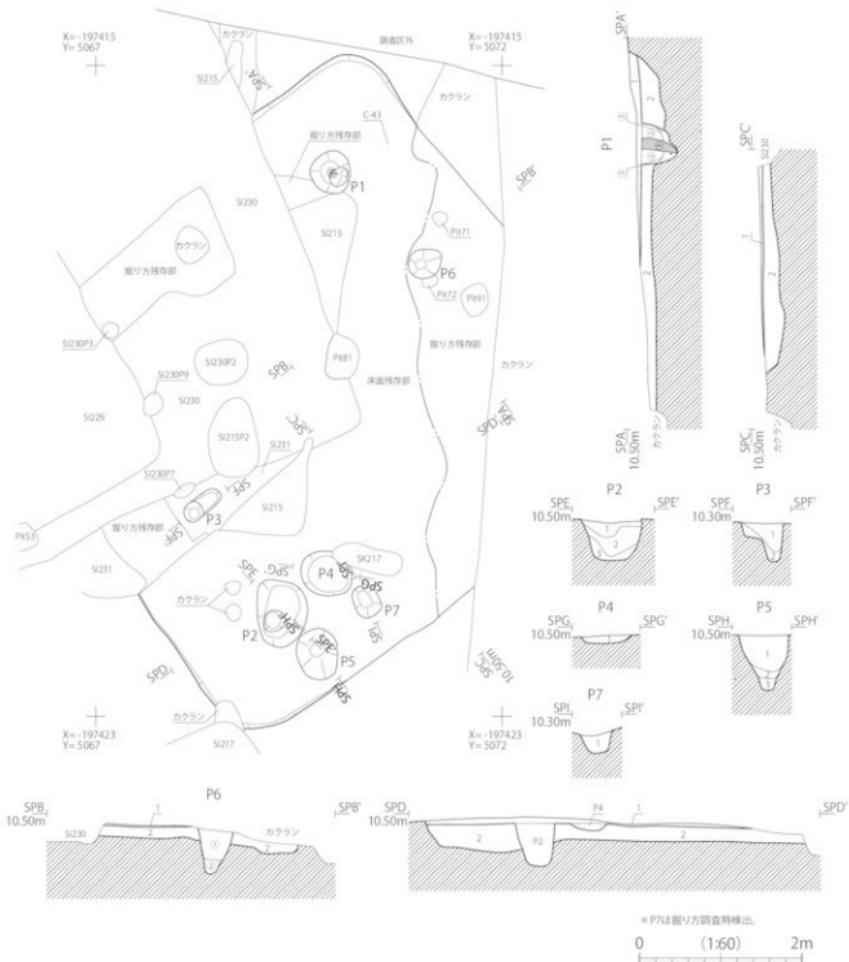
【重複】 SI215・229～231、SK217・218、Pit71～73・81・91・101より古く、SI247より新しい。

【規模・形態】検出した規模は長軸 630cm、短軸 627cm を測り、平面形状は方形と推定される。

【方向】 西壁を基準として N = 35° - W である。

【堆積土】 2層に分層した。1層は砂質の強いにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、2層は掘り方埋土である。

【壁面】 北東及び南西隅で僅かに残存し、壁高は 1 ~ 18cm を測る。



第65図 SI233 竪穴住居跡

【床面】 中央から西部にかけて残存しており、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基 (P1・2・5・6)、重複する SI231 の底面から 1 基 (P3)、掘り方から 1 基 (P7)、総数 6 基検出した。P1・2 は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸 52～81cm、深さ 68～94cm を測る。柱痕跡は P1 から確認され、径 14cm 程度である。P3・6 は主柱穴間の中央付近に位置することから補助柱穴と考えられ、規模は長軸 40～53cm、深さ 48～56cm を測る。

【その他の施設】 床面から 1 基 (P4) 検出した。主柱穴である P2 の東に隣接して位置する。平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸 66cm、短軸 54cm、深さ 10cm を測る。

【掘り方】 深さ 10～35cm 程度を測り、底面は中央部が高まり四壁方向へと低くなる。

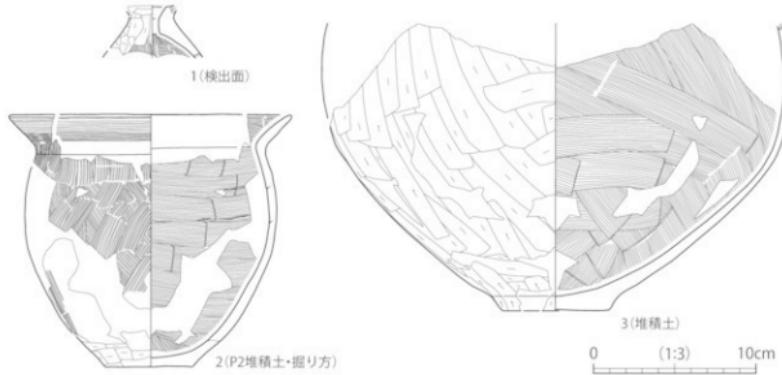
【出土遺物】 植出面、床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土器師が出土している。この内、器台 1 点、甕 1 点、

SI233 堆積土註記表

部 位	層 類	土 色	土 性	備 考
住居構造	1	10YR5/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~10cm程度)少額含む。
掘り方	2	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~20cm程度)少額、灰土粒・炭化物微量含む。

SI233 住居跡表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸 深さ	層位	土 色	土 性	備 考	
						①	②
P1	円形	52×50 (68)	①	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~10cm程度)少額含む、中柱痕跡	
			②	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~10cm程度)少額含む。	
			③	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~10cm程度)多量含む。	
P2	梢円形	81×63 (94)	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~20cm程度)少額、灰土粒・炭化物微量含む。	
			2	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~10cm程度)灰化物少量含む。	
			3	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~20cm程度)少額、灰土粒・炭化物微量含む。	
P3	長梢円形	Ø39×(23) (48)	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~10cm程度)少額、灰土粒・炭化物微量含む。	
			2	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~20cm程度)少額、灰土粒・炭化物微量含む。	
P4	梢円形	66×54 (10)	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。	
P5	梢円形	63×50 (68)	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。	
			2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	堆積土ブロック(5~10cm程度)灰土粒微量含む。	
			3	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。	
P6	円形	(40)×(35) (56)	①	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~10cm程度)少額、灰土粒微量含む。	
			②	10YR4/3 に赤い黄褐色	シルト	堆積土ブロック(5~20cm程度)微量含む。	
P7	椭丸長方形	40×32 (26)	1	10YR4/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。	



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法線(cm)	外側調整	内側調整	備考	写真 回数
1	C-43	SI233	棟出面	土師器	甕	口徑 底径 高さ (3.2)	底部:内側-外側±1 底部:上位付-下位付			22
2	C-44	SI233	P2堆積土 掘り方	土師器	甕	(17.2) 5.3 (15.5)	口縁部:内側-外側±1 甕上部-中位付 甕底-下位付-底部:内側-外側±1	口縁部:内側-外側±1 甕底:内側-外側±1	口縁部:赤みあり	22
3	C-79	SI233	堆積土	土師器	甕	- 6.5 (17.7)	内側-外側±1	内側-外側±1		22

第 66 図 SI233 穫穴住居跡出土遺物

壺 1 点を掲載した（第 66 図－1～3）。1 は検出面、2 は P2 堆積土及び掘り方、3 は堆積土から出土した。1 は小型器台の脚部で、調整は外面がハケメ後ヘラケズリ、内面が上位ナデ、下位ハケメである。2 は平底の壺で、調整は外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部上～中位ハケメ、胴部下位～底部ヘラケズリ、内面が口縁部ハケメ、胴～底部ヘラナデである。3 は大型の壺で、調整は外面が体～底部ヘラケズリ、内面が体～底部ヘラナデである。

【時期】 堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことと、検出面や堆積土から出土した土師器器台・壺・壺（第 66 図－1～3）から、3 期（塩釜式期）と考えられる。

SI239 竪穴住居跡（第 67・68 図）

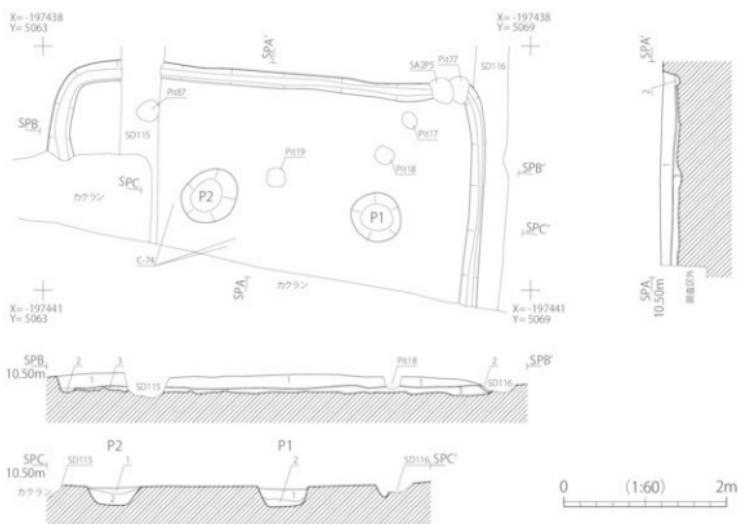
【位置・確認】 調査区南東部、19・22 グリッドに位置する。南半部は調査区外となり、北半部を検出した。

【重複】 SA2-P5・6、SD115・116、Pit17～19・77・87 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 538cm、短軸 269cm を測り、方形又は長方形と推定される。

【方向】 東壁沿いの周溝を基準として N-4°-E である。

【堆積土】 3 層に分層した。1 層は砂質の強いいぶい黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、2 層は周溝堆積土、3 層は掘り方埋土である。



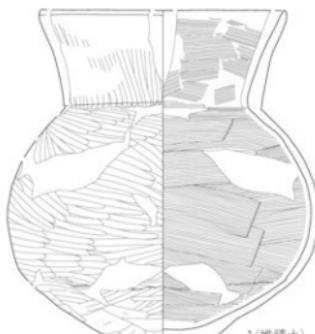
SI239 堆積土跡記表

深 位	層 位	土 色	土 性	備 考
住居堆積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	古墳土ブロック(20cm程度)や土和・炭化物微量含む。
周溝	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	古墳土料・灰褐色シルト利潤に少量含む。
掘り方	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	古墳土ブロック(20cm程度)や少多量、炭化物微量含む。

SI239 地盤観察表

造構名	平面形	面積(cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土 色	土 性	備 考	
							1	2
P1	円形	62×59	25	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV 帯土料少量、炭化物微量含む。	
				2	10YR4/4 に近い黄褐色	シルト	灰褐色シルト和微量含む。(1 切より粘性強)	
P2	円形	72×62	22	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV 帯土料少量含む。	
				2	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	灰褐色砂質シルト和微量含む。	

第 67 図 SI239 竪穴住居跡



回収 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)		
						口径	底径	器高
C-74	SE239	堆積土	土師器	壺	(14.9)	6.3	(20.1)	
外表面調整			内面調整			参考		
口縁部:ハラミガキ 体部上～中位:ハラミガキ 体部下位～底部:ハラケズリ			口縁部:ハラミガキ 体部:ハラケズリ			写真 図版		
						22		

第68図 SI239 窪穴住居跡出土遺物

【壁面】 北壁と西壁の一部が残存する。直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は8~19cmを測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から2基(P1・2)検出した。これらは規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸62~72cm、深さ22~25cmを測る。柱痕跡は確認されなかった。

【周溝】 検出された範囲では壁面に沿って全周する。断面形状は「U」字状を呈し、規模は幅16~32cm、深さ4~15cmを測る。

【掘り方】 深さ3~18cm程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器と、床面から磨石が1点出土している。この内、堆積土から出土した土師器壺1点を掲載した(第68図-1)。1は直口壺で、口縁部は直線的に外傾する。調整は、外表面が口縁部縱方向のヘラミガキ、体部上～中位横方向のヘラミガキ、体部下位ヘラケズリ、内面は口縁部ハケメ、体～底部ヘラナデである。

【時期】 堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことと、堆積土から出土した土師器壺(第68図-1)から、3期(塙釜式期)と考えられる。

SI244 窪穴住居跡(第69図)

【位置・確認】 調査区南東部、11・15グリッドに位置する。

【重複】 SI217・223・227・237・240・241、SK206・207・216、SA-P1、SD113・115・116、Pit45・54・55・56・58・69・70・74・89・90・97・103より古く、SI245より新しい。重複遺構と撹乱によって、南・東壁の大半と北・西壁の一部が失われている。

【規模・形態】 検出した規模は長軸455cm、短軸427cmを測り、平面形状は方形を呈する。

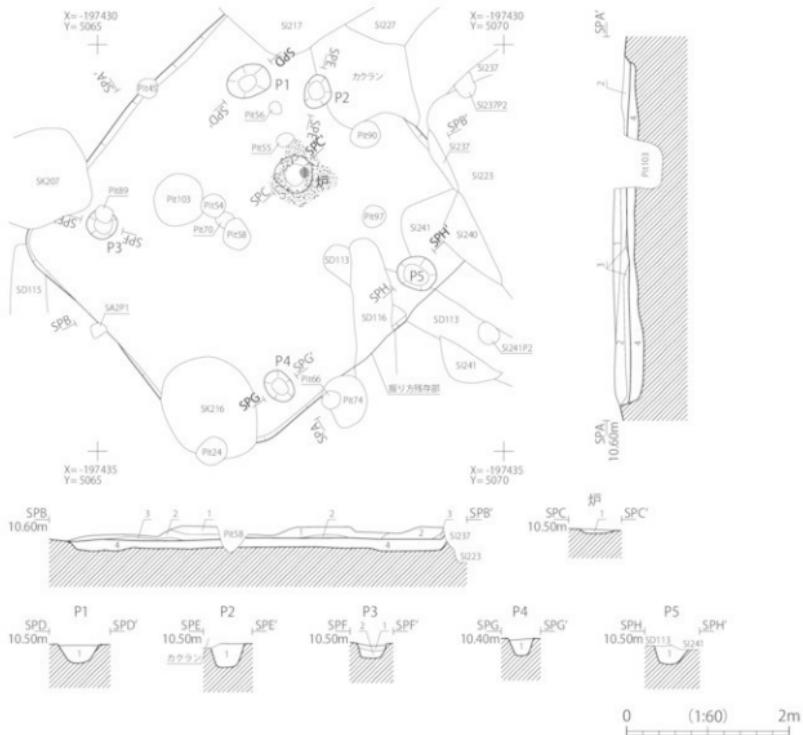
【方向】 西壁を基準としてN-43°-Wである。

【堆積土】 4層に分層した。1~3層は住居堆積土で、1層は砂質の強いい黄橙色砂質シルト、2・3層は砂質の強いい黄褐色砂質シルトを主体とする。4層は掘り方埋土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は2~15cmを測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から5基(P1~5)検出した。P1・3~5は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸



SI244 堆積土記表

剖面	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR6/4に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5mm程度)少額、炭化物微量含む。	
	2	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5mm程度)少額、炭化物微量含む。	
	3	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土和潤にやや多量、炭化物微量含む。	
廻り土	4	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5~10mm程度)やや多量、炭化物微量含む。	

SI244 旗設観察表

遺構名	平面形	幅員(cm)	深さ	層位	土色	土性	備考		
							北壁	南壁	西壁
P1	円形	45×46	6	1	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5~10mm程度)少額、炭化物微量含む。			
P1	楕円形	56×40	25	1	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5~10mm程度)少額、炭化物微量含む。			
P2	楕円形	(42)×33	30	1	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5~10mm程度)微量含む。			
P3	円形	37×(35)	19	1	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5~10mm程度)少額、炭化物微量含む。			
P4	楕円形	41×32	22	1	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5~10mm程度)少額、炭化物微量含む。			
P5	楕円形	149×149	26	1	10YR4/3に4%黄褐色	砂質シルト 古墳土ブロック(5~10mm程度)少額、炭化物微量含む。			



開拓番号	登録番号	出土地点	層位	種別	断面	法量(cm)		
						口径	底径	厚さ
C-45	SI244	堆積土	土頭部	跡	9.5	—	(4.7)	
1		外縁調整	内面調整					写真 図版
		口縁部:52cm 体部:56cm	口縁部:52cm 体部上端:指標II					22

第69図 SI244 竪穴住居跡・出土遺物

37～56cm、深さ 19～26cm を測る。

【炉】 中央部やや東寄りに位置する。地床炉であり、平面形状は円形、断面形状は弧状である。規模は長軸46cm、深さ6cmを測る。底面は全体的に強く被熱しており、一部強く焼土化していた。

【掘り方】 深さ 5~22cm 程度を測り、底面は中央部が高まり四壁方向へと低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土から土師器、P5 堆積土からこも編み石の可能性がある礫 1 点が出土している。この内、堆積土から出土した土師器鉢 1 点を掲載した（第 69 図-1）。1 は小型丸底鉢で、口縁部は直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面が口縁部ヘラナデ、体部上端指オサエ、体部ナデである。

【時期】 堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことと、堆積土から出土した土師器鉢（第69図-1）から、3期（塙釜式期）と考えられる。

SI245 竪穴住居跡（第70図）

【位置・確認】 調査区南東部、11・12・15・16・19・20 グリッドに位置する。大半が重複過構と擾乱によって



第70図 SI245 竪穴住居跡

失われており、南西及び北東部の一部が残存している。全体的に後世の削平を受けており、中央部から南西隅付近に残存している床面は検出時既に露出していた。壁面は消失し、掘り方のみ残存している。

【重複】 SI217・223・227・237・240・241・244、SD113・116・117、Pit32・33・46・66・74・75・79・85・107より古く、SX2より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸573cm、短軸554cmを測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 掘り方残存部を基準としてN-32°-Wである。

【堆積土】 単層であり、砂質の強いにぶい黄褐色砂質シルトの掘り方埋土である。

【床面】 検出された範囲では、北部から南部へやや低くなる。

【掘り方】 深さ7~26cm程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 出土していない。

【時期】 掘り方埋土が古墳時代前期の特徴をもつことと、SI244より古いことから、3期（塩釜式期）と考えられる。

SI247 積穴住居跡（第71図）

【位置・確認】 調査区北東部、8・9・11・12グリッドに位置する。大半が重複遺構と攪乱によって失われており、南東及び北西部の一部が残存している。

【重複】 SI217・227・231~233・235・238・246、SK213・214、Pit93・94より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸627cm、短軸601cmを測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-37°-Wである。

【堆積土】 2層に分層した。1層は砂質の強いにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、2層は掘り方埋土である。

【壁面】 西壁の一部が残存している。直線的に直立して立ち上がり、壁高は5~6cmを測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から1基（P1）、重複するSI227と攪乱の底面から3基（P2~4）検出した。P1・4は規模や位置関係から主柱穴と考えられ、規模は長軸34~35cm、深さ22~28cmを測る。

【掘り方】 深さ3~15cm程度を測り、底面には緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 出土していない。

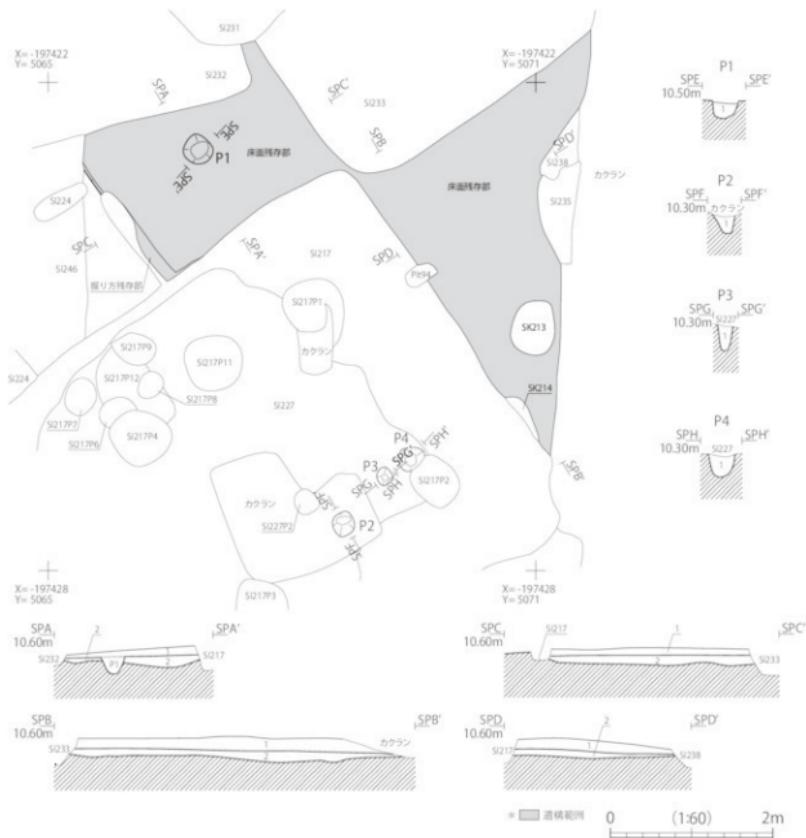
【時期】 堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことと、SI233より古いことから、3期（塩釜式期）と考えられる。

SI247 堆積土記表

層位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	堆積土中に少量、黒褐色粘土質シルトブロック(5mm程度)を含む。
掘り方	2	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	堆積土ブロック(5~20mm程度)を含む。

SI247 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
		長軸	短軸				
P1	円形	35×34	22	1	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)を含む。
P2	方形	(27)×(27)	62cm	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)を含む。
P3	方形	(21)×(19)	C4.6	1	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)を含む。
P4	椭円形	(34)×(28)	28cm	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)や多量、炭化物を含む。



第71図 SI247 竪穴住居跡

SI250 竪穴住居跡（第72図）

【位置・確認】 調査区北部、2・5 グリッドに位置する。大半は調査区外となり、南西部周辺を検出した。調査区壁の断面観察からⅢ層に被覆され、Ⅳ層から掘り込まれていることが確認できた。

【重複】 SI213・218・230・234、Pit35 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸 263cm、短軸 187cm を測り、平面形状は方形又は長方形と推定される。

【方向】 南壁を基準として N = 51° - E である。

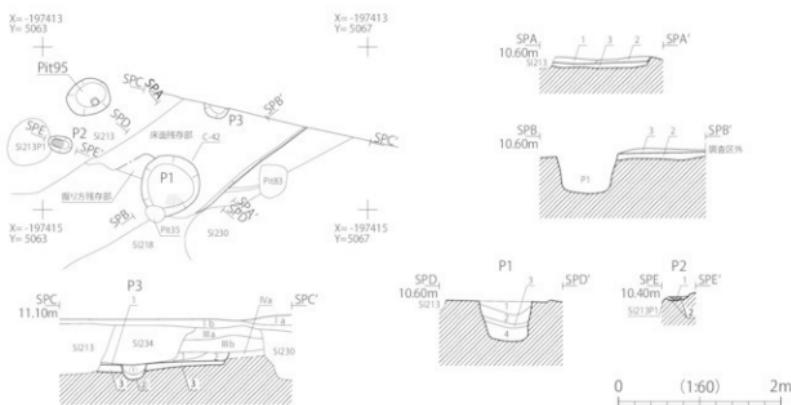
【堆積土】 3 層に分層した。1・2 層は砂質の強いにぶい黄褐色・褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、3 層は掘り方埋土である。

【壁面】 南壁が残存している。直線的に外傾して立ち上がり、壁高は 2 ~ 10cm を測る。

【床面】 検出された範囲では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基 (P3)、重複する SI213 の底面から 1 基 (P2)、総数 2 基検出した。規模は長軸 29 ~ 31cm、深さ 8 ~ 22cm を測り、柱痕跡は P2 から確認され径 16cm 程度である。なお Pit95 は、配置から本住居跡の柱穴の可能性があるが特定できないため別遺構として報告する。

【その他の施設】 床面から 1 基 (P1) 検出した。南西隅に位置すると推定され、規模や位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸 74cm、短軸 70cm、深さ 50cm を測る。南半分の堆積土中からは、粘土が検出されている。



SI250 堆積土跡記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
住居堆積土	1	TOYRA/3 にぶ～黃褐色	砂質シルト 地材粒・炭化物微量含む。	
	2	TOYRA/4 地色	砂質シルト 地材土ブロック(径~10mm程度)少量含む。	
鋪り方	3	TOYRA/3 にぶ～黃褐色	砂質シルト 地材土ブロック(5mm程度)微量含む。	

SI250 住設観察表

遺構名	平面形	幅幅(cm)	深さ(cm)	期位	土 色	土 性	備 考		
							北側	東側	西側
P1	円形	(7.4) × (7.0)	50	1	TOYRA/3 にぶ～黃褐色	砂質シルト IV 帯土粒微量含む。			
				2	TOYRA/3 にぶ～黃褐色	砂質シルト IV 帯土ブロック(5~10mm程度)少量含む。			
				3	TOYRA/3 地色	砂質シルト IV 帯土ブロック(5~10mm程度)少量含む。			
				4	TOYRA/4 黄褐色	粘土質シルト IV 帯土ブロック(5~30mm程度)少や多量含む。			
P2	椭円形	(29) × (20)	80	1	TOYRA/3 にぶ～黃褐色	砂質シルト IV 帯土ブロック(5mm程度)炭化物微量含む。・弾丸痕跡			
				2	TOYRA/3 にぶ～黃褐色	砂質シルト IV 帯土ブロック(5~10mm程度)少量含む。			
				3	TOYRA/3 にぶ～黃褐色	砂質シルト 炭化物少量含む。			
P3	(円形)	31 × (15)	22	②	TOYRA/4 黄褐色	粘土質シルト IV 帯土粒微量含む。			



回復番号	回復番号	出土点	期位	種別	深度	法量(cm)		
						CII段	CIII段	總合
1	C-42	SI250	堆積土	土師器	台付跡	10.3	9.5	11.1
外周調整								
内面調整								
備 考								
万葉 図版								
全体的に埋滅のため調整不可解								
22								

第 72 図 SI250 穴住居跡・出土遺物

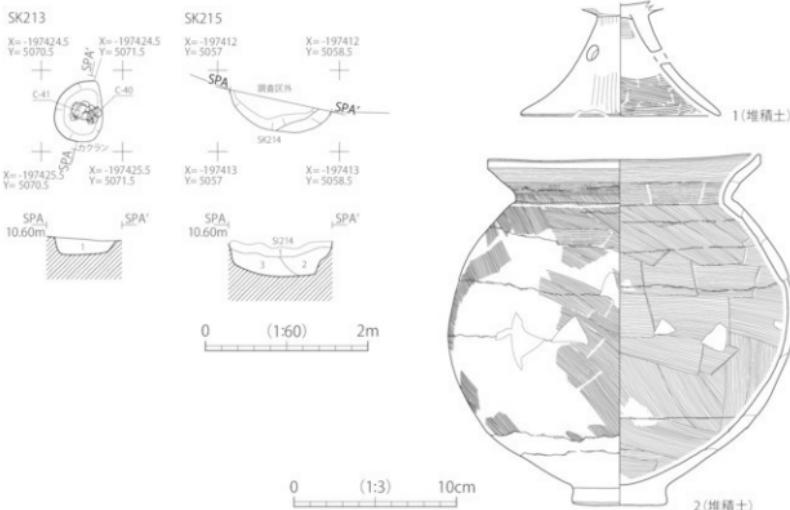
【掘り方】 深さ2~12cm程度を測り、底面は緩やかな起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土している。この内、土師器台付鉢1点を掲載した(第72図-1)。鉢部は小型の丸底鉢であり、口縁部は直線的に外傾し大きく開く。台部は僅かに内湾気味であり、裾部が緩やかに開く。調整は、外面がハケメ後ミガキ、内面が口縁部ヘラミガキ、台部上端指オサエ、台部ヘラナデ、裾部ヨコナデであり、全体的に摩滅しており不明瞭である。

【時期】 堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことと、堆積土から出土した台付鉢(第72図-1)から、3期(塩釜式期)と考えられる。

(2) 土坑(第73図)

土坑は、2基(SK213・215)検出された。SK213からは高环と甕がまとまって出土しており、重複するSI247に伴う可能性も考えられる。



土坑 調査表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸×深さ	層位	土色	土性	調査		重複
							上層	底層	
SK213	9-12	(周円形)	(78)×(60) 20	1	10YR5/3に近い黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。		SI247より新しい。
				1	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5mm程度)少量含む。		
				2	10YR4/3に近い黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5mm程度)や多量含む。		SI214より古い。
SK215	1	(周円形)	(128)×(88) (44)	3	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5~20mm程度)多量、炭化物微量含む。		

回数 基号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法規(cm)			外底調整	内部調整	備考	写真 枚数
						上層	底層	高さ				
1	C-40	SK213	堆積土	土師器	高环	—	12.1	(7.0)	3033.1 底面のため不規則	底部:上位ハサフ、下位ハサフ	底部透孔3箇所	23
2	C-41	SK213	堆積土	土師器	甕	16.6	(5.7)	21.6	上部底面:ハサフ→ハサフ'、胸屈上 ～中位ハサフ、胸屈部下位～底 部:厚底	口縁部ハサフ→ハサフ'	体～底部ハサフ	23

第73図 SK213・215 土坑・出土遺物

SK213 土坑（第 73 図）

調査区中央部東、9・12 グリッドに位置する。SI247 より新しい。検出した規模は長軸 78cm、短軸 60cm、深さ 20cm を測る。平面形状は楕円形と推定され、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は、砂質の強いにぶい黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は土師器が出土し、土師器高环 1 点、土師器甕 1 点を掲載した（第 73 図－1・2）。1 は高环の脚部であり、透孔を 3 箇所もつ。調整は、外側がヘラミガキで全体的に摩滅しており、内側が脚部上位ヘラナデ、下位ハケメである。2 は平底の甕であり、調整は外側が口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部上～中位ハケメ、胴部下位～底部は摩滅のため不明瞭であり、内側は口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ヘラナデである。これらの遺物は、重複する SI247 に伴う可能性も考えられる。堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことと、堆積土から出土した高环・甕（第 73 図－1・2）から、3 期（塩釜式期）と考えられる。

SK215 土坑（第 73 図）

調査区西北部、1 グリッドに位置する。SI214 より古い。検出した規模は長軸 128cm、短軸 38cm、深さ 44cm を測る。平面形状は楕円形と推定され、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は 3 層に分層され、1・2 層は砂質の強いにぶい黄褐色砂質シルト、3 層は砂質の強い褐色砂質シルトである。遺物は出土していない。堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことから、3 期（塩釜式期）と考えられる。

（3）ピット（第 74 図）

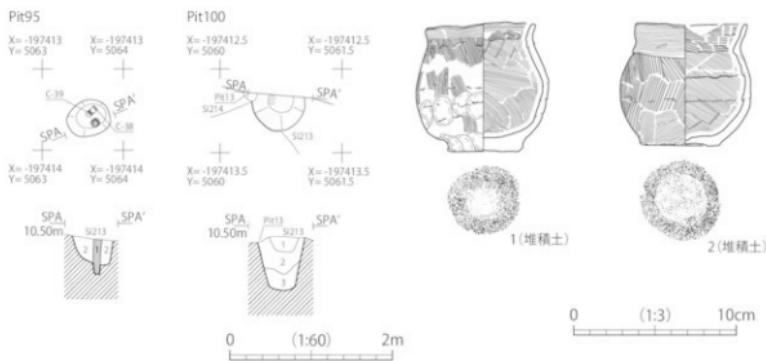
ピットは、2 基（Pit95・100）検出された。なお、Pit95 は、配置から SI250 の柱穴の可能性があるが特定できないため個別遺構として報告する。

Pit95 ピット（第 74 図）

調査区北部中央、2 グリッドに位置する。SI213 より古い。配置から SI250 の柱穴の可能性があるが特定できないため個別遺構として報告する。検出した規模は長軸 53cm、短軸 45cm、深さ 51cm を測り、柱痕跡は径 10cm 程度である。平面形状は楕円形、断面形状は「U」字状を呈し、底面に小穴をもつ。堆積土は 2 層に分層され、1 層は柱痕跡、2 層は砂質の強いにぶい黄褐色砂質シルトである。遺物は土師器甕のミニチュア土器が 2 点出土し、これらを掲載した（第 74 図－1・2）。1・2 はほぼ完形で、堆積土下層から上下に重ねられ横位の状態で埋設されていた。両者ともに底部は輪台技法でつくられている。1 の調整は、外側が口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下位指オサエ、内側が口縁部ヨコナデ・ハケメ、胴～底部ヘラナデ・ナデである。2 の調整は、外側が口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下位ナデ、内側が口縁部ハケメ、胴部上位ナデ、胴部中位～底部ヘラナデである。堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことと、堆積土下層から出土した土師器甕のミニチュア土器（第 74 図－1・2）から、3 期（塩釜式期）と考えられる。

Pit100 ピット（第 74 図）

調査区西北部、2 グリッドに位置する。SI213・214、Pit13 より古い。検出した規模は長軸 65cm、短軸 45cm、深さ 75cm を測る。平面形状は円形と推定され、断面形状は「U」字状を呈する。堆積土は 3 層に分層され、1・2 層は砂質の強いにぶい黄褐色砂質シルト、3 層は砂質の強い褐色砂質シルトである。遺物は出土していない。堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことから、3 期（塩釜式期）と考えられる。



Pit 調査表

調査名 グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸(深さ)	層位	土色	土性	備考	重視	
							上層	下層
Pit95 2	楕円形 (6.5) × (4.5) (S1)	1.5	1	10YR4/2 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。半柱痕跡	SD213より古い。	
			2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。		
Pit100 2	円形 (6.5) × (4.5) 7.5	1.5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。	SD213・214、P13より古	
			2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物微量含む。		
3	10YR4/4 黄褐色						SD213より古い。	

第 74 図 Pit95・100 ピット・出土遺物

(4) 性格不明遺構 (第 75 図)

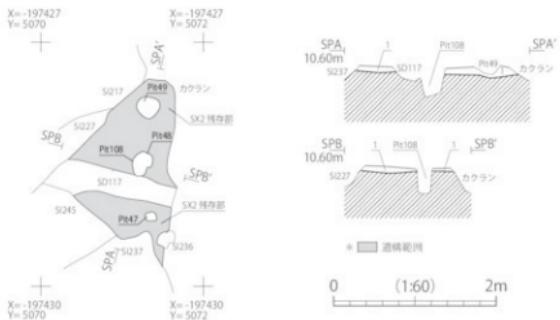
性格不明遺構は、I 基 (SX2) 検出された。SX2 は周囲を全て重複遺構と擾乱によって失われているため詳細は不明であり、性格不明遺構に分類した。掘り方のみが残存している状態の竪穴住居跡である可能性が考えられる。

SX2 性格不明遺構 (第 75 図)

調査区中央部東、12 グリッドに位置する。周囲を全て重複遺構と擾乱によって失われているため詳細は不明であるが、掘り方のみが残存している状態の竪穴住居跡である可能性が考えられる。SI217・227・236・237・245、SD117、Pit47 ~ 49・108 より古い。検出した規模は長軸 182cm、短軸 146cm、深さ 14cm を測り、平面形状は不明である。堆積土は、砂質の強いにぶい黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。堆積土が古墳時代前期の特徴をもつことと、SI245 より古いことから、3 期（塩釜式期）と考えられる。

性格不明遺構 調査表

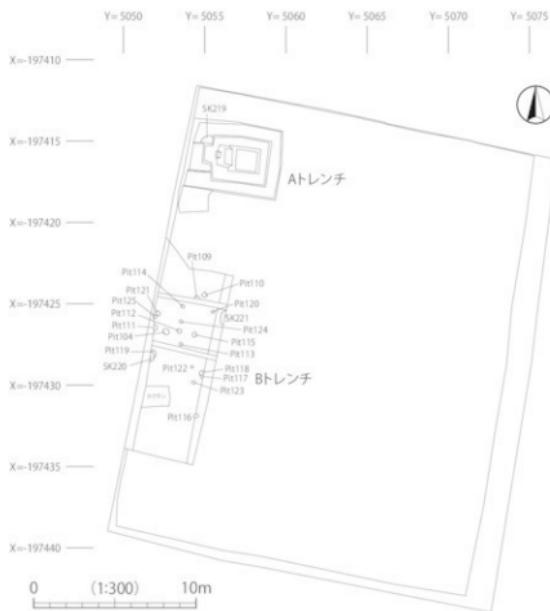
調査名 グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸(深さ)	層位	土色	土性	備考	重視	
							上層	下層
SX2 12	不規	(182) × (146) 14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	SD217・227・236・237・245、SD117、Pit47 ~ 49・108 より古い。	



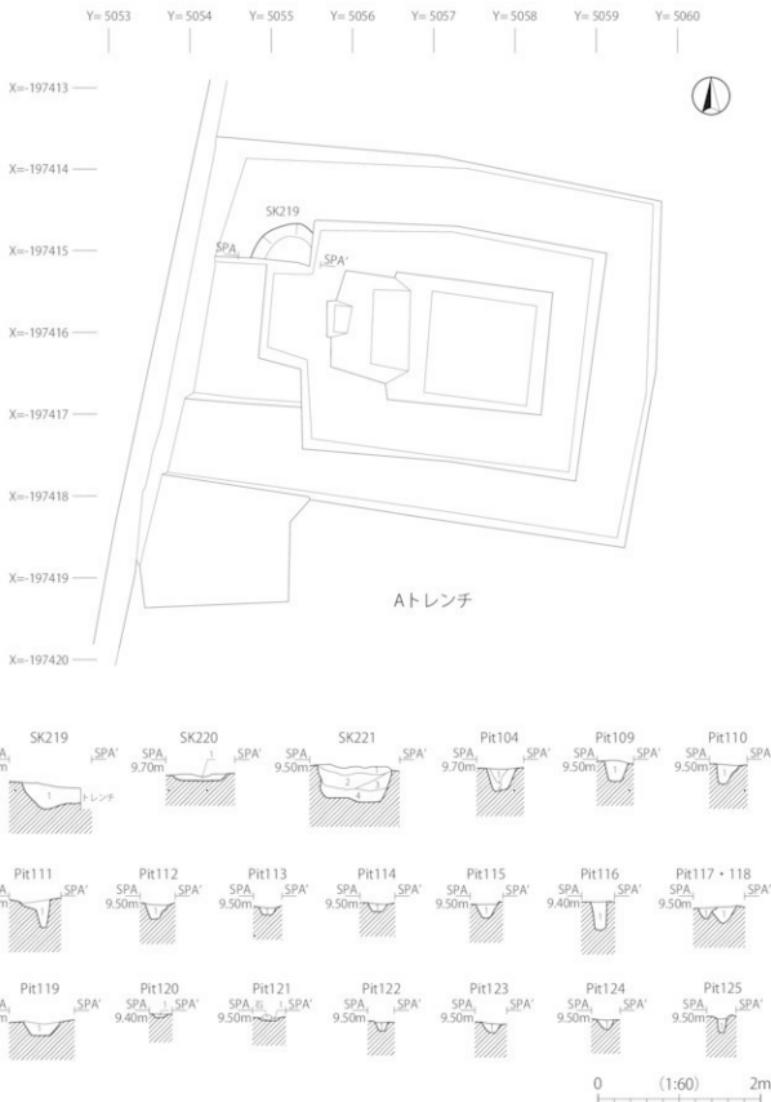
第75図 SX2 性格不明遺構

第3節 弥生時代の遺構と遺物（第76～82図）

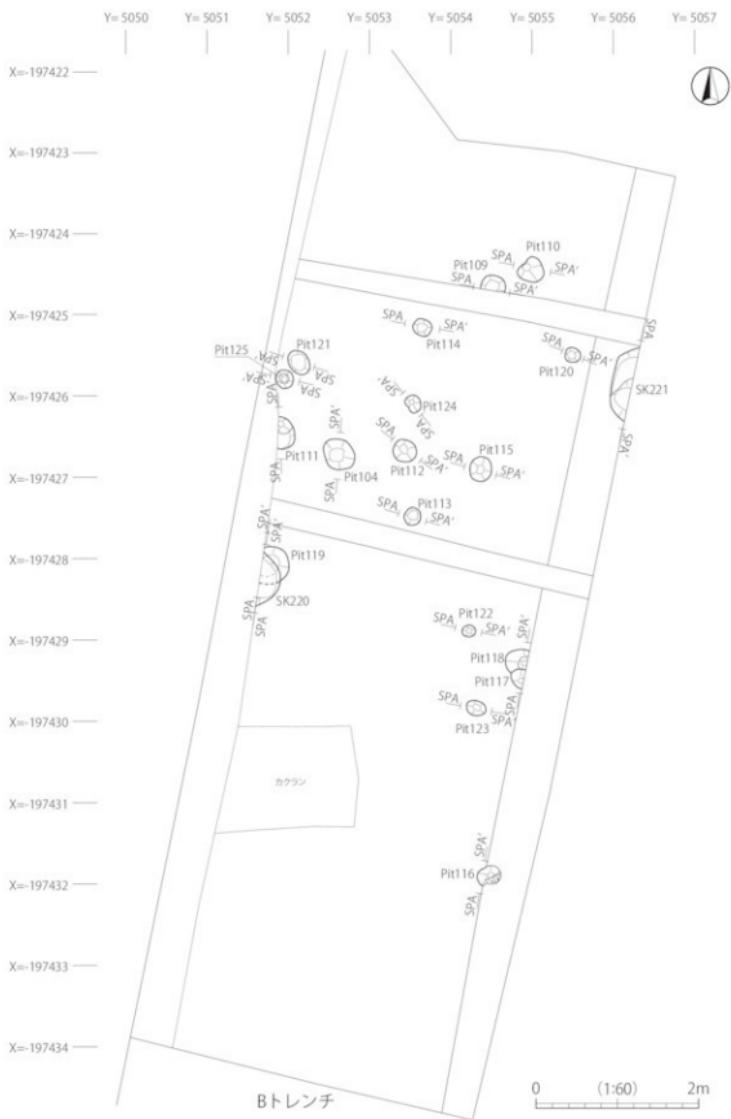
古墳時代～古代の遺構検出面（基本層IV層上面）の調査終了後に、調査区の西部に2箇所のトレンチ（A・B）を設定して下層調査を実施した。北側に位置するAトレンチは基本上層堆積の観察を目的として南北4m×東西5.6mで設定し、表層から3.3m、標高7.64mまでを重機で掘削した。南側に位置するBトレンチは弥生時代の遺物



第76図 弥生時代遺構配置図



第 77 図 A トレンチ土坑配置図、弥生時代土坑・ピット断面図



第78図 Bトレーニング土坑・ピット配置図

包含層の調査及び遺構確認を目的として南北 12 m × 東西 4.2 m で設定し、VI 層上面までは重機を用い、遺物包含層（V・VI a・VI b 層）は遺構を確認しながら人力で掘削した。

調査の結果、遺構は A トレンチから土坑 1 基（SK219）、B トレンチから土坑 2 基（SK220・221）、ピット 18 基（Pit104・109～125）が検出された。B トレンチから検出された遺構は、トレンチの中央部に集中する傾向がある。この範囲の基本土層の堆積は他と異なり、VI a 層中にこの範囲にのみ確認できる黄褐色シルト層（VI a2 層）がレンズ状に堆積していた。遺物は、Pit116 から石器 1 点、Pit120・124 から弥生土器各 1 点が出土している。遺構の性格や発掘時期は明確にすることはできなかったが、検出面から弥生時代と考えられる。

B トレンチにおける弥生時代の遺物包含層調査では、V 層及び VI 層上部（VI a・b 層）から土器が 107 点、石器 22 点、環 4 点が出土している。これらは、主に基本層 VI a 層とした黒褐色粘土質シルト層に包含されていた。このほか、A トレンチ精査時に VI 層から石器 1 点、古代及び古墳時代前期の遺構調査時に、IV 層から石鏃が 1 点出土している。土器は主として中期中葉に比定されると考えられ、石器には磨製石器、打製石器、礫石器が認められる。

以下、土坑、ピット、B トレンチ出土遺物、グリッド出土遺物の順に報告する。

（1）土坑（第 77・78 図）

土坑は、A トレンチから 1 基（SK219）、B トレンチから 2 基（SK220・221）、総数 3 基検出された。SK219 は VI c 層上面、SK220 は VI a 層中、SK221 は VI b 層上面から掘り込まれている。土坑の性格は明確にすることはできなかった。時期は包含層出土土器と遺構の掘り込み面との関係から弥生時代と考えられる。

SK219 土坑（第 77 図）

A トレンチ、1・4 グリッドに位置する。大半をトレンチによって破壊されており、北西部を部分的に検出した。調査区壁の断面観察から VI a 層に被覆され、VI c1 層から掘り込まれていることが確認できた。検出した規模は長軸 73cm、短軸 51cm、深さ 31cm を測る。平面形状は円形と推定され、断面形状は半円状を呈する。堆積土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK220 土坑（第 77・78 図）

B トレンチ、10 グリッドに位置する。Pit119 より新しい。西部はトレンチ外となり、東部を部分的に検出した。調査区壁の断面観察から VI a1 層に被覆され、VI a3 層から掘り込まれていることが確認できた。検出した規模は長軸 66cm、短軸 25cm、深さ 8cm を測る。平面形状は円形と推定され、断面形状は弧状を呈する。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK221 土坑（第 77・78 図）

B トレンチ、10 グリッドに位置する。東部はトレンチ外となり、西部を部分的に検出した。調査区壁の断面観察から VI a3 層に被覆され、VI b 層から掘り込まれていることが確認できた。検出した規模は長軸 92cm、短軸

SK 調査表

遺構名	Y'xY'	平面形	規模(cm) 長軸×短軸(深さ)	層位	土 色	土 性	留 考		重 観
							にぶい黄褐色シルト表面に少少多量、炭化物微量含む。	—	
SK219 1・4	印円形	(73)×(51)	31	1 TOYR5-3にぶい 黄褐色	シルト	シルト			—
SK220 10	印円形	(66)×(25)	8	1 TOYR3-2 黒褐色	粘土質シルト	粘土質シルト	炭化物や少量、にぶい 黄褐色シルト料少量含む。	Pit119より新しい。	
				2 TOYR4-3にぶい 黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト	炭化物少量、炭化物微量含む。		
				3 TOYR4-3にぶい 黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト	炭化物少量、炭化物微量含む。		
				4 TOYR5-2 黑褐色	粘土	粘土	炭化物少量、炭化物少量含む、タガイ化。		—

25cm、深さ44cmを測る。平面形状は楕円形と推定され、断面形状は逆台形状を呈する。堆積土は4層に分層され、1～3層がにぶい黄褐色粘土質シルト、4層が灰黄褐色粘土を主体とする。遺物は出土していない。

(2) ピット（第77・78図）

ピットはBトレーニチから18基（Pit104・109～125）検出された。Bトレーニチの北部10グリッドを中心で分布している。Pit104はV層上面、他は全てVI b層上面で検出されている。調査区壁の断面観察からPit119はVI a3層に被覆され、VI b層から掘り込まれていることが確認できた。重複関係は少ない状況であり、Pit119はSK220より古く、Pit117はPit118より新しい。平面形状は円形又は楕円形を基調とし、断面形状は「U」字状が主体である。堆積土はPit104が2層に分層され、他は全て単層である。柱痕跡は確認できていない。遺物は、Pit116から石核が1点、Pit120・124から弥生土器小片が各1点出土している。これらのピットの時期は、出土遺物と構造掘り込み面や包含層出土土器との関係から弥生時代と考えられる。各ピットの詳細は、観察表を参照していただきたい。

ピット観察表

遺構名	年代	平面形	周囲(cm)	層位	土色	土性	備考		重複
							長軸×短軸	深さ	
Pit104	10	円形	43×37	30	1. 5865/1 黄褐色 2. 5865/1 黄褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	炭化物や多量含む。 より弱い。		—
Pit109	?	円形	30×19	26	1. 107R4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。 しまり弱い。		—
Pit110	7	円形	30×29	26	1. 107R4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘土質シルト V層上ブロック(5~10cm程度)少額、炭化物微量含む。		—
Pit111	10	(椭円形)	39×(21)	34	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上ブロック(5~20cm程度)少額、炭化物微量含む。		—
Pit112	10	円形	29×27	19	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上ブロック(5~20cm程度)少額、炭化物微量含む。		—
Pit113	10	円形	21×20	17	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上ブロック(5~20cm程度)少額、炭化物微量含む。		—
Pit114	10	円形	23×20	14	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上ブロック(5~20cm程度)少額、炭化物微量含む。		—
Pit115	10	円形	30×27	22	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上ブロック(5~20cm程度)少額、炭化物微量含む。		—
Pit116	14	(椭円形)	629×(22)	53	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。		—
Pit117	10	円形	23×17	14	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上ブロック(5~20cm程度)少額、炭化物微量含む。	Pit118より新しい。	—
Pit118	10	(椭円形)	631×(27)	23	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上ブロック(5~20cm程度)少額、炭化物微量含む。	Pit117より古い。	—
Pit119	10	円形	46×(34)	21	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上少額、炭化物微量含む。	SK220より古い。	—
Pit120	10	円形	19×18	7	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む。		—
Pit121	10	楕円形	32×25	6	1. 107R4/3にぶい黄褐色	シルト	V層上微量含む。		—
Pit122	10	円形	17×15	14	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上少額、炭化物微量含む。		—
Pit123	10	楕円形	25×18	15	1. 107R4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	V層上ブロック(5~20cm程度)少額、炭化物微量含む。		—
Pit124	10	楕円形	22×17	17	1. 107R4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	V層上少額、炭化物微量含む。		—
Pit125	10	円形	23×21	23	1. 107R4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	V層上少額、炭化物微量含む。		—

(3) Bトレーニチ出土遺物（第79～82図）

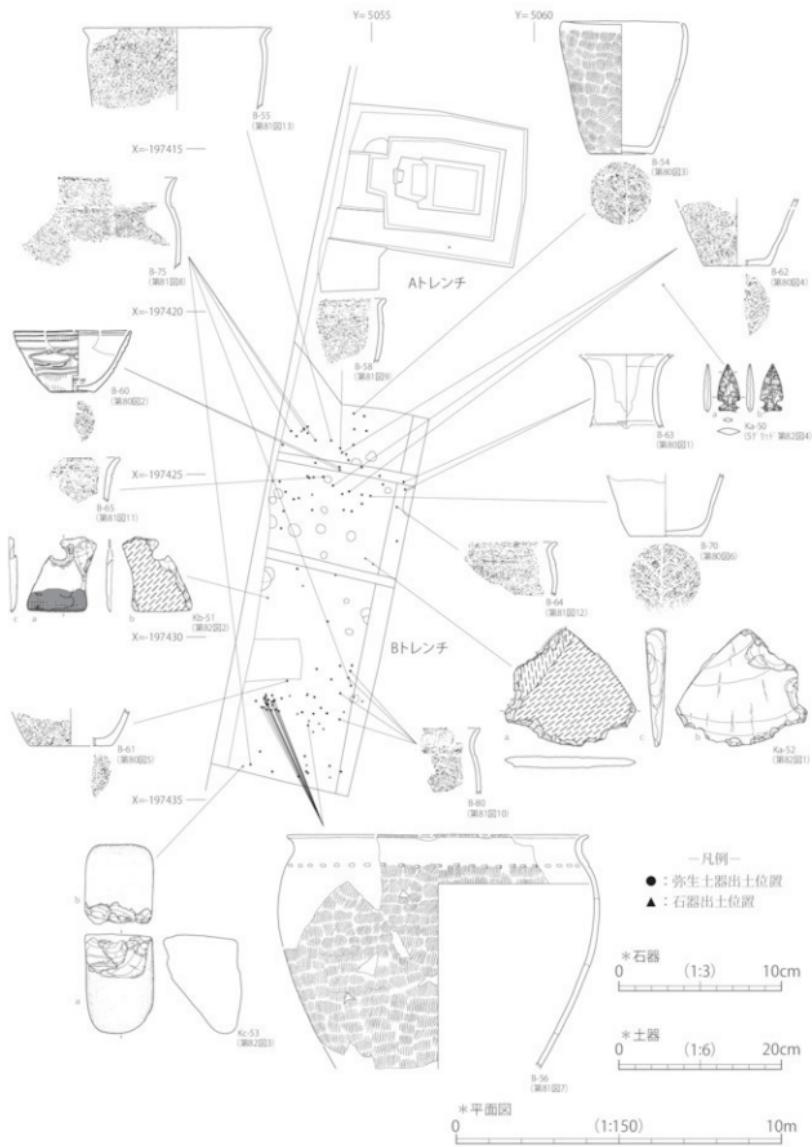
Bトレーニチにおける弥生時代の遺物包含層調査では、V層及びVI層上部（VI a・b層）から弥生土器が107点、石器が22点、礫が4点出土している。これらは、主に基本層VI a層とした黒褐色粘土質シルト層に包含されていた。

第79図は弥生時代の土器・石器の出土地点分布図である。土器・石器の分布に偏在する傾向はなく、壺1点（第81図-8）が南北に約10.45mと遠距離間で接合しているほかは、出土地点周辺の近距離間で接合している。弥生土器は主として中期中葉（2期）と考えられる。器種は、壺・鉢・深鉢・甕が認められる。石器は安山岩・緑色凝灰岩・黒色片岩・流紋岩などの打製石器、磨製石器、砾石器が出土している。

以下、掲載した遺物について個別に記載する。

a. 弥生土器（第79～81図）

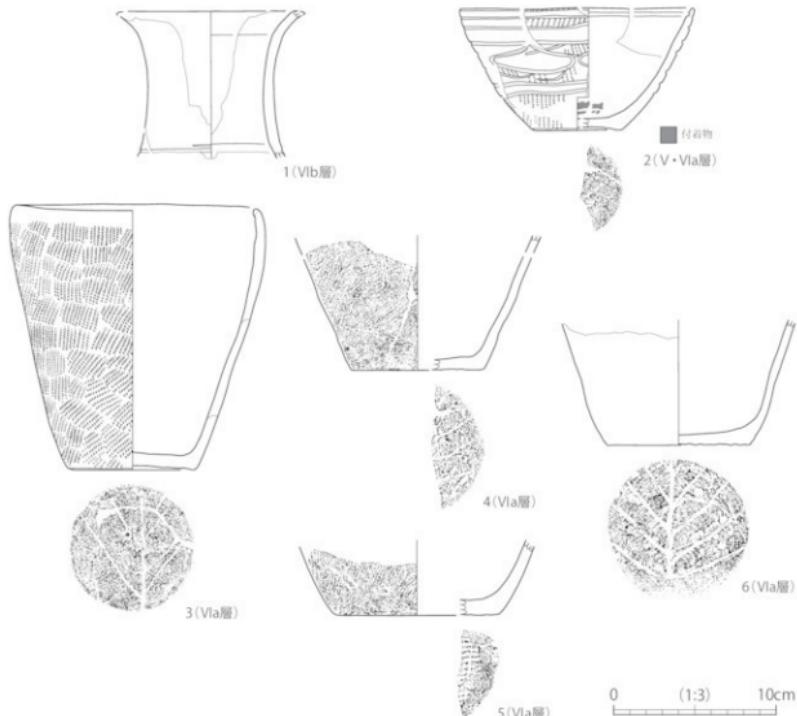
弥生土器は、壺1点、鉢1点、深鉢1点、深鉢が壺の底部3点、甕7点を掲載した（第80・81図-1～13）。鉢1点（第80図-2）がV層とVI a層、壺1点（第80図-1）がVI b層からそれぞれ出土した以外は、全てVI a層から出土している。



第79図 弥生時代遺物出土状況

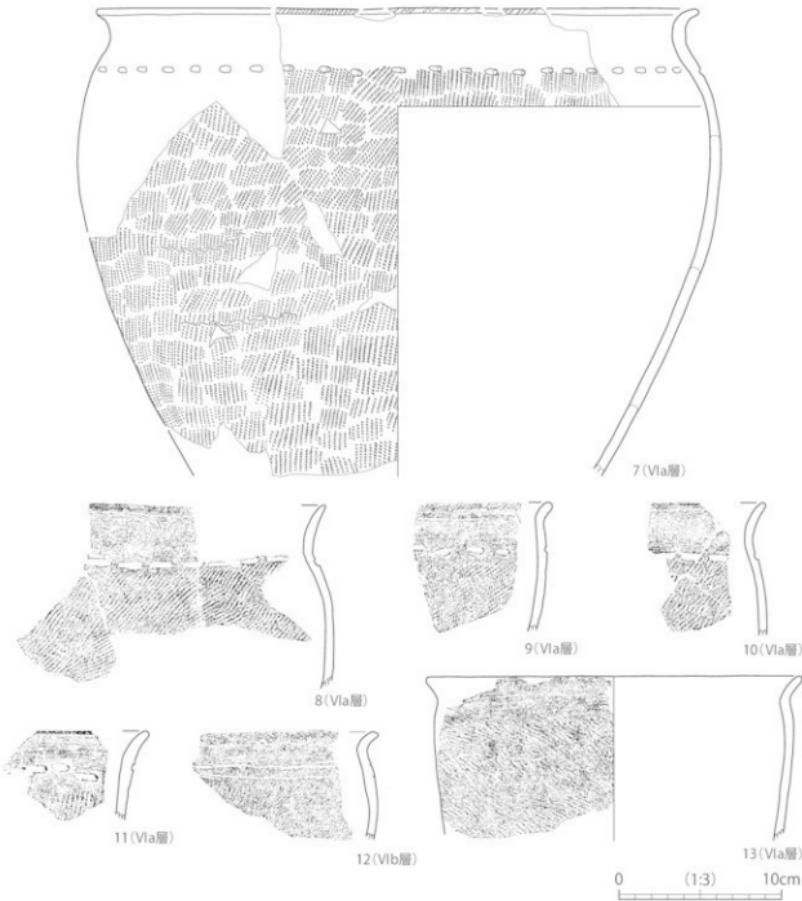
【壺】 壺は、1点掲載した（第80図-1）。全体の器形は復元できないが、口縁部から頸部までが残存している。口縁部は外反して開き、口唇部が欠損している。口縁～頸部にかけて無文であり、頸部に2条の沈線が施される。

【鉢】 鉢は、1点掲載した（第80図-2）。単線による変形工字文が体部に施文されており、反転部が弧状を呈している。全体的に摩滅しているため不明瞭であるが、地文のLR繩文を施した後に沈線を施し、沈線区画内をミガキにより磨消したもの（磨消繩文）と考えられる。底部は摩滅しているため不明瞭であるが、網代痕と考えられ



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	外部調査 (文様)	内部調査 (文様)	備考	写真 図版
1	B-63	BB42	Mb層	弥生土器	壺	口縁～ 頸部	圓印文模印1 彫刻: 次規2条	厚底	口径(11.5)cm 底径(8.1)cm	23
2	B-60	BB42	V+Ma 層	弥生土器	鉢	口縁～ 底部	口縁部: LR繩文模印回転、口縁～体部: LR繩文模印回 転、沈線: 1列変形工字文、底部: 網代痕	口縁部: 摩削1条 体～底部: 摩減、付着物有り の際摩減	口径(14.2)cm、底径(5.4) cm、高さ7.5cm、内外面全周 の際摩減	23
3	B-54	BB42	Vla層	弥生土器	深鉢	口縁～ 底部	LR繩文模印1列、底部: 木製削	行・横・活手	浅浮彫、口径(14.8)cm 底径(7.0)cm、高さ16.3cm	23
4	B-62	BB42	Vla層	弥生土器	深鉢 か鉢	体部下位 ～底部	体部: LR繩文模印・斜位1列、端部が粘附剥離された 痕跡の際摩減、底部: LR繩文模印1列の際 の際摩減	体部: 横位(3') 底部: (1')	底径(8.1)cm	23
5	B-61	BB42	Ma層	弥生土器	深鉢 か鉢	体部下位 ～底部	体部: LR繩文模印・斜位1列 底部: 網代痕	体部: 横位(3') 底部: (1')	底径(10.1)cm	23
6	B-70	BB42	Ma層	弥生土器	深鉢 か鉢	体部下位 ～底部	体部: 無文、行 + 下端(4')～(3') 底部: 木製削	体部: 深(3') 底部: (1')	底径(8.8)cm	23

第80図 Bトレンチ出土弥生土器 (1)



第 81 図 B トレンチ出土弥生土器 (2)

る痕跡が認められる。内面には口縁部に沈線が1条施され、底部付近に付着物が確認できる。

【深鉢】 深鉢は、1点掲載した（第80図-3）。ほぼ完形であり、平底の底部から最大径となる体部上位まで直線的に外傾し、口縁部はやや内湾する。地文はLR縄文であり、底部には木葉痕がある。

【壺又は深鉢】 底部から体部中～下位までが残存し、壺又は深鉢と推定される個体を3点掲載した（第80図-4～6）。全て平底で、体部は直線的に外傾する。体部は4・5が縄文を地文にもち、6が無文である。縄文原体は、5はLR縄文であるが、4にはLR縄文と端部が結節(R)された異なる太さの条を複数用いた直前段多条のLR縄文(又は短軸絡条体第1類のR)という2種類の原体が確認できる。さらに4の体部下位には、縄文の後にハケメが施されている。底部は4・6に木葉痕、5に網代痕がある。

【甕】 甕は、7点掲載した（第81図-7～13）。全体の器形を復元できる個体は出土していないが、7は口径36.8cm、13は口径22.8cmと推定される。全て平口縁で、口縁部は短く外反又は外傾し、明瞭なヨコナデが施される。器形は11が直線的に外傾する体部から口縁部が短く開く形態であり、それ以外は体部上位に膨らみをもち口縁部と体部の境が括れる形態である。9・11・13は口縁部、10・12は口縁部と体部上半に、7・8は体部上半にそれぞれ最大径をもつ。7・9・13は口唇部にLR縄文が施される。口縁部と体部の境に、7～11は列点刺突、12は2条の沈線がそれぞれ施される。体部は全て縄文を地文にもち、原体は7～12がLR縄文、13が直前段反撫(RR)で、7には結節縄文(R)も施される。

b. 石器（第79・82図）

石器は板状石器1点、石庖丁1点、敲石1点を掲載した（第82図-1～3）。全てBトレーニチにおける弥生時代の遺物包含層のVIa層から出土した。

以下、掲載した遺物について個別に記載する。

1) 打製石器

【板状石器】 板状石器は1点掲載した（第82図-1）。長さ7.1cm、幅8.1cm、厚さ1.2cmで、刃部は弧状を呈す。ab両面の上部に敲打痕があり、a面には節理面がある。石材は安山岩である。

2) 磨製石器

【石庖丁】 石庖丁は1点掲載した（第82図-2）。欠損品であり、a面の刃部に光沢面と被熱の痕跡が確認できる。b面は、被熱により剥落したと考えられる。残存部の孔内径は0.7cmであり、石材は黒色片岩である。

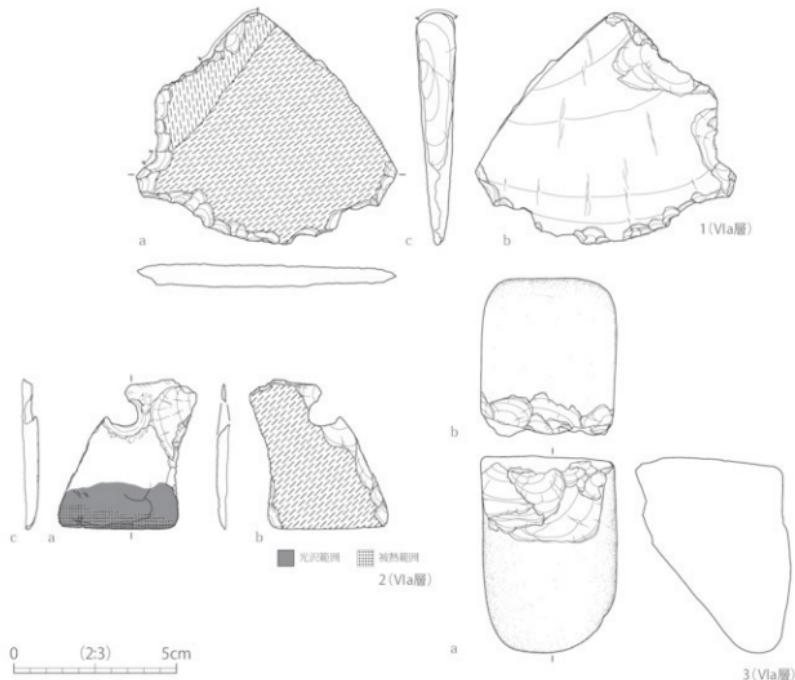
3) 碾石器

【敲石】 敲石は1点掲載した（第82図-3）。長さ6.1cm、幅4.3cm、厚さ4.6cmで、石材は緑色凝灰岩である。打面以外は自然面であり、ほぼ原砾の大きさで残存している。

(4) グリッド出土遺物（第79・82図）

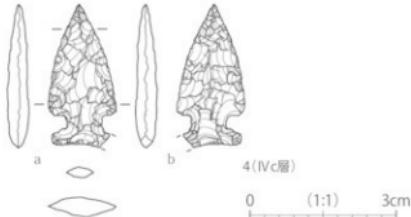
弥生時代の遺物は、少量ではあるが古墳時代～古代の遺構堆積土に混入された状態で出土している。また遺構精査時に基本層IV層から石鏃1点が出土しており、これを掲載した（第82図-4）。アメリカ式石鏃であり、基部の一部が欠損している。長さ2.9cm、幅1.3cm、厚さ0.5cmで、石材は流紋岩である。

Bトレーニチ



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 回数
						長さ	幅	厚さ				
1	Ka-52	Bトレ	Vla層	打製石器	板状石器	7.1	8.1	1.2	65.1	安山岩	abs内面上部敲打痕あり、a面削理面あり	24
2	Kb-51	Bトレ	Vla層	打製石器	石塊丁	4.6	3.7	0.5	8.6	黑色片岩	火成岩、表面光滑×・被熱あり	24
3	Kc-53	Bトレ	Vla層	擦石器	船石	6.1	4.3	4.6	203.7	緑色凝灰岩	打撲削形あり、自然面あり	24

5グリッド



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 回数
						長さ	幅	厚さ				
4	Ka-50	53° 69°	IVc層	打製石器	石器	2.9	1.3	0.5	1.4	油灰岩	7形式石器、基部一部欠損、先端角37°、厚板比0.38	24

第82図 Bトレーニチ・5グリッド出土石器

第6章 総括

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡34軒、溝跡6条、一本柱列跡1列、土坑16基、ピット125基、性格不明遺構2基である。概ね、弥生時代中期・古墳時代前期・古墳時代後期～古代の三時期に分けられる。

以下、『西台遺跡第4・5・7次調査』(仙台市教育委員会2013)に概ね準じた時期区分に従って各期の特徴をまとめ、総括としたい。

第1節 各時期の特徴（第83～86図）

(1) 弥生時代（第83図）

遺物包含層調査のほか、土坑・ピットを検出した。遺構の性格や帰属時期は明確にすらることができなかつたが、包含層出土土器と、遺構の掘り込み面との関係から弥生時代中期中葉と考えられる。

2期 弥生時代中期中葉

検出された遺構は、Aトレンチから土坑1基（SK219）、Bトレンチから土坑2基（SK220・221）、ピット18基（Pit104・109～125）である。Bトレンチから検出された遺構は、トレンチの中央部に集中する傾向がある。

Bトレンチにおける弥生時代の遺物包含層から出土した土器は、2期（中期中葉段階）と考えられる（第83図）。石器には、安山岩・緑色凝灰岩・黒色片岩・流紋岩などの打製石器、磨製石器、礫石器が認められる。

(2) 古墳時代前期（第83・84図）

古墳時代前期（塩釜式期）と考えられる遺構は、洪水起源と考えられる砂質の強い砂質シルトで埋没しており、この堆積土の特徴は他の時代の遺構堆積土と明瞭な差異があることから、時期を判断する一つの基準となった。調査区北壁の土層観察によると、古墳時代前期の遺構は、IV層上面から掘り込まれている。

3期 古墳時代前期（塩釜式期）

検出された遺構は、竪穴住居跡6軒（SI233・239・244・245・247・250）、土坑2基（SK213・215）、ピット2基（Pit95・100）、性格不明遺構1基（SX2）である。なお、SX2は掘り方のみが残存している竪穴住居跡の可能性が考えられる。

竪穴住居跡の分布は調査区東半部に偏在しており、西半部では検出されていない。平面形状は、ほとんどが方形基調であると想定される。主軸方向は、SI239がN-4°-Eとほぼ北を指向するほかは、N-30°-45°-W程度北西に傾いている。規模はSI233・245・247が長軸6.0m前後、SI239・244が長軸4.5～5.5mである。周溝はSI239、炉はSI244、貯蔵穴はSI250で検出されている。主柱穴は、SI233が対角線上に2基、SI239が北壁に平行して2基、SI244が概ね対角線上に4基ある。SI233・239も、重複する遺構や搅乱によって失われていることを考慮すると、4基配されていた可能性が高いと考えられる。遺物は、土師器の高杯・器台・小型丸底鉢・台付鉢・壺・甕を掲載した（第83図）。なお、堆積土に柱痕跡が確認できるPit95は、位置的にSI250の柱穴である可能性があり、堆積土下層から上下に重ねられたほぼ完形の土師器甕のミニチュア上器が2点横位の状態で埋設されていた。

(3) 古墳時代後期～古代（第84～86図）

古墳時代後期から古代は、本調査区において遺構・遺物の検出数及び数量が最も多く、調査の主体となった時期である。これらの遺構は、遺構堆積土に特徴をもつ古墳時代前期まで遡る可能性は低いこと、引田式期から住社式期中段階の土器が出土していないこと、郡山Ⅱ期官衙期以降（5bii期）の遺物がほとんど出土していないことなどから、4a～5bii期の間に収まるものと考える。

また、当該期の遺構を検出したのはIV層上面であるが、調査区壁の断面観察から4a～b期と考えられるSI230がⅢ層上面から掘り込まれていることから、本調査区における当該期以降の遺構は、本来全てⅢ層上面から掘り込まれていたと考えられる。

4a～b期 古墳時代後期～古墳時代終末期、6世紀末葉～7世紀前葉（住社式期新段階～栗園式期）

当該期に比定される竪穴住居跡は、7軒（SI219・226・228・230～232・246）である。当該期の遺物が出土した竪穴住居跡はSI219・226・230であり、この3軒よりも古いSI228・231・232・246についても、前述した理由から4a～b期に収まるものと考える。これらの分布は、調査区内の南西部と北東部に集中する。主軸方向はSI246がN-3°-Wでほぼ北を指向している以外は、北西に傾いており、平面形状は方形又は長方形である。遺構同士の重複が激しいため、残存状況から比較的の形態を把握できるのはSI219・230のみである。規模はSI219が5.5m程度、SI230が6.5m程度であり、両者ともに4基の主柱穴を配する。周溝はSI219・230・232で検出された。カマドはSI230のみ残存しており、北壁に位置し、煙道部の形態は上部が削平されているため不明である。袖はIV層土で構築され、カマド前方には構築材として使用していたと考えられる礫が2点検出されている。土器は土師器有段丸底の环や鉢、長胴甕、中型の平底甕、ミニチュア土器のほか、SI219・230の住居堆積土や床面施設の堆積土から鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）が出土している（第85図C-11～12・68）。また、SI222の掘り方からも混入したと考えられる鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）の环の小片が出土している（第86図C-16）。

4b期 古墳時代終末期、7世紀初頭～前葉（栗園式期）

当該期に比定される竪穴住居跡は、SI227である。調査区中央部東に位置し、重複する遺構によって大半が失われており、南壁付近でのみ床面及び壁面が残存している。形態の詳細は不明だが、平面形状は方形又は長方形と推定され、主軸方向は残存していた南壁を基準としてN-47°-Eであり、東又は西に傾いている。土器は土坑から黒色処理された土師器鉢が1点出土している。

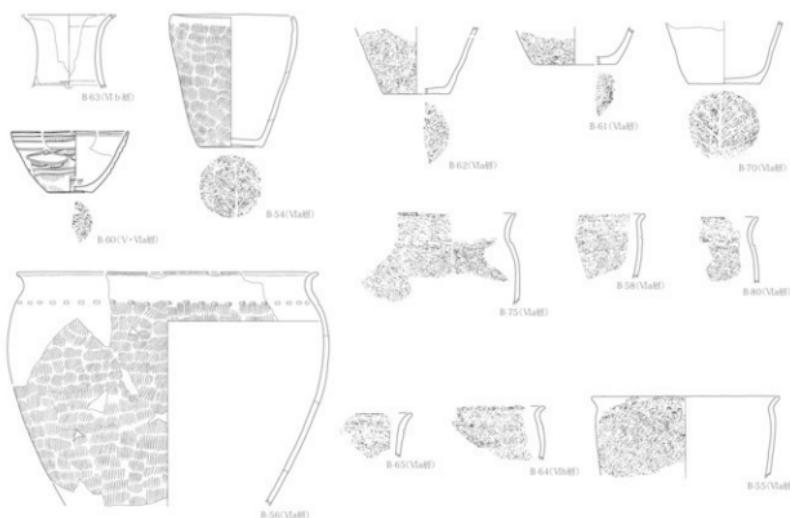
4b～5a期 古墳時代終末期、7世紀初頭～後葉（栗園式期～郡山Ⅰ期官衙期）

SI225は出土土器の様相から、4b～5a期と時期幅をもたせた。調査区中央部に位置し、重複する遺構や後世の削平の影響により、北壁東部と東壁が失われている。平面形状は方形を呈し、主軸方向はN-40°-Wである。主柱穴は4基配され、周溝はカマドが付設されている北壁の一部を除き全周する。カマドは北壁に位置し、煙道部の形態は上部が削平されているため不明である。袖はIV層土で構築され、西袖には芯材として自然礫が埋設されていた。土器は土師器有段丸底の环・鉢、平底の鉢、長胴甕、小型の平底甕、単孔の大型甕など比較的まとまって出土している。

5a期 古墳時代終末期、7世紀中葉～後葉（郡山Ⅰ期官衙期）

当期に比定される竪穴住居跡は、4軒（SI217・223・224・237）である。このほか、SI240・241はSI237よ

2期(弥生時代中期中葉)



3期(塩釜式期)

SI233出土土器



SI239出土土器



SI244出土土器



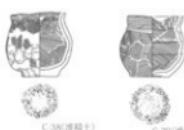
SI250出土土器



SK213出土土器



Pit95出土土器



0 (1:6) 20cm

第83図 出土土器集成 (2b期、3期)

り古いことから 5a 期以前に、SI222・236 は SI223・237 より新しいことから 5a 期以降と考えられる。これらは、調査区中央部から東部に集中して分布する。この内、SI236 は煙道部煙出しのみの検出であるため詳細が不明である。主軸方向は SI217・222・223 が N-25°~37°-W、SI224・237 が N-52°~58°-E であり、全て西又は東に傾く。平面形状は方形又は長方形であり、残存状況から比較的の形態を把握できるのは SI217・223・224 である。検出された規模は SI217 が 5.77 m、SI223 が 4.81 m、SI224 が 4.97 m である。SI217・224 は 4 基の主柱穴を配する。周溝は SI217・223・224・237 で検出され、検出された範囲では一部を除きほぼ全周する。カマドは SI217・223・224 で残存しており、SI217・223 が北壁、SI224 が東壁に位置している。SI224・217 は狭長な形態をもつ煙道部が付設されており、SI223 は上部が削平されているため煙道部の形態は不明である。SI217・223 の袖は IV 層土や灰褐色・褐灰色シルトなどで構築され、SI217 の両袖の焚口部には芯材として土師器甕の破片が埋設されていた。SI224 は袖の基部だけが残存しており、袖の焚口部には芯材として凝灰岩製の切石が埋設されていた。また SI217 は土師器の小型甕が支脚として転用されていた（第 86 図 C-8）。土器は土師器有段丸底の环、平底の小型甕、長胴甕、壺のほか、SI217 の P5 堆積土から北武藏型土師器（清水型関東系土器）が出土している（第 86 図 C-77）。なお、SI217 の堆積土からは、5bi 期以降と考えられる須恵器の壺やロクロ土師器が出土しているが（第 86 図 E-4・5、D-9）、これらは混入と考えられる。

5a～bi 期 古墳時代終末期、7世紀中葉～8世紀初頭（郡山 I～II 期官衙期）

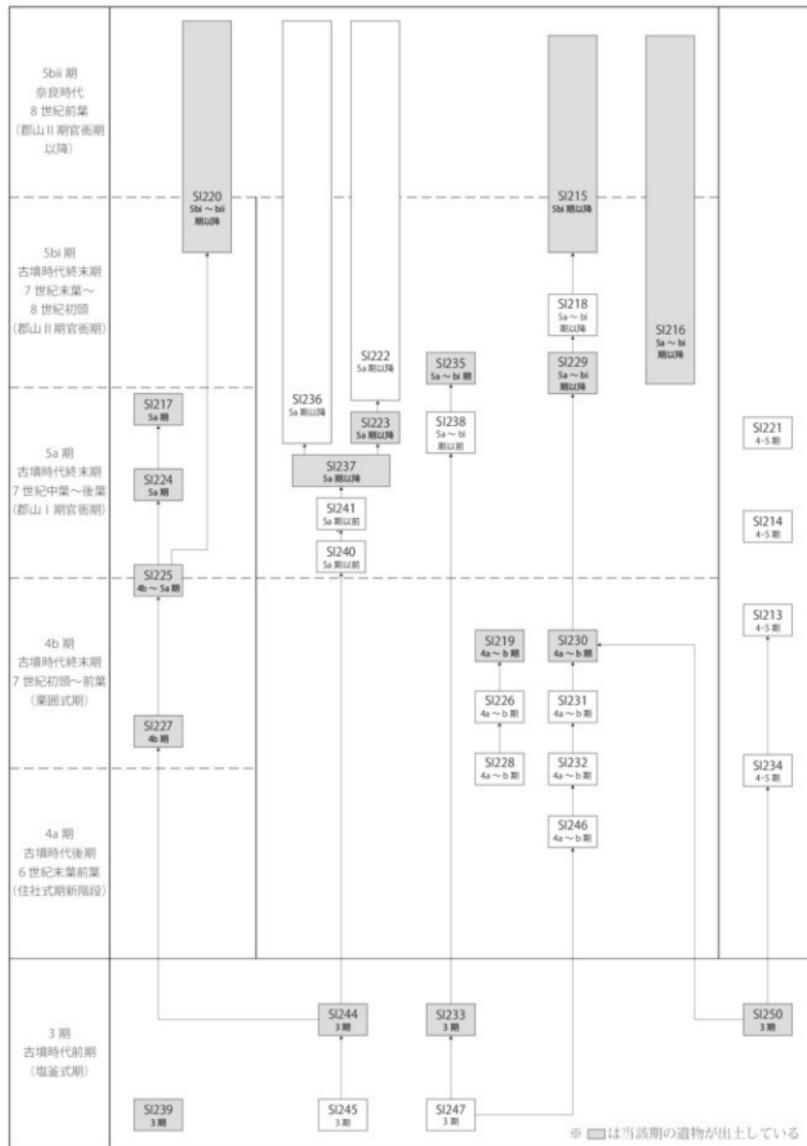
当該期に比定される竪穴住居跡は、SI235 である。このほか、SI238 は SI235 より古いことから 5a～bi 期以前と考えられる。これらは調査区東部に位置し、主軸方向は SI235 が N-26°-W、SI238 が N-35°-E であり、西又は東に傾く。平面形状は方形又は長方形と推定され、残存状況が悪く形態を把握できない。周溝は SI235 で検出され、検出された範囲では全周する。土器は土師器丸底の环が出土している（第 86 図 C-36）。

5a～bi 期 古墳時代終末期、7世紀中葉～8世紀初頭（郡山 I～II 期官衙期）以降

SI216・218・229 は出土土器の様相から、5a～5bi 期以降と時期幅をもたせた。これらは調査区北西～北東部に分布する。主軸方向は SI216・218・229 が N-26°~33°-W であり、全て西又は東に傾く。平面形状は方形又は長方形である。検出された規模は SI216 が 6.76 m、SI218 が 4.61 m、SI229 が 4.30 m であり、全て 4 基の主柱穴を配する。SI216・229 はカマドや主柱穴、周溝などから建て替えの痕跡が認められる。周溝は SI216・218・229 で検出され、検出された範囲では一部を除きほぼ全周する。カマドは SI216・229 でそれぞれ北壁に 2 基残存しており、造り替えがおこなわれたと考えられる。これらはともに狭長な形態をもつ煙道部が付設されており、燃焼部は削平され袖などの構造は不明である。土器は土師器有段丸底の环が出土しており、SI216・229 から出土した個体は扁平化している（第 86 図 C-32・76）。

5bi 期 古墳時代終末期、7世紀末葉～8世紀初頭（郡山 II 期官衙期）以降

SI215 は出土土器の様相から、5bi 期以降と時期幅をもたせた。調査区北東部に位置し、主軸方向は N-8°-E でほぼ北を指向している。平面形状は方形又は長方形と推定され、全体的に後世の削平を受けている。検出された規模は 4.45 m である。4 基の主柱穴を配し、周溝は東壁・南壁面に沿って巡る。カマドは狭長な形態をもつ煙道部が付設されており、燃焼部は削平され袖などの構造は不明である。土器は扁平化している土師器有段丸底の环が出土している（第 86 図 C-1）。



第 84 図 積穴住居跡重複関係模式図

4a～b期(住社式期新阶段～栗园式期)

SI219出土土器
(時期決定資料:上半1点)



C-11(P2堆積土)



C-15(堆積土)



C-12(堆積土)

SI230出土土器
(時期決定資料:上半3点)



C-33(P8堆積土・SC238施の方)



C-78(P8堆積土上部)



C-35(48E)

SI226出土土器



C-31(堆積土)

4b期(栗園式期)

SI227出土土器



C-30(P1堆積土)



C-34(堆積土)



C-68(カマド付近堆積土)

4b～5a期(栗園式期～郡山Ⅰ期官衙期)

SI225出土土器



C-22(48E)



C-28(施の方)



C-71(P1堆積土)



C-29(P1堆積土上部)



C-23(48E)



C-73(カマドA48E)



C-24(48E・カマドP7堆積土)

0 (1:6) 20cm

第85図 出土土器集成 (4a～5a期)

5a期(郡山Ⅰ期官衙期)

SI224出土土器



SI223出土土器

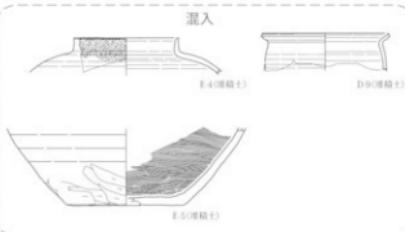
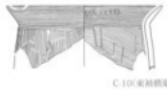
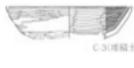
C-18(堆積土)

SI237出土土器

C-37(堆積土)

SI217出土土器

(時期決定資料:左4点)



SI222出土土器



5a～bi期(郡山Ⅰ～Ⅱ期官衙期)

SI235出土土器



5a～bi期(郡山Ⅰ～Ⅱ期官衙期)以降

SI216出土土器



SI229出土土器



5bi期(郡山Ⅱ期官衙期)以降

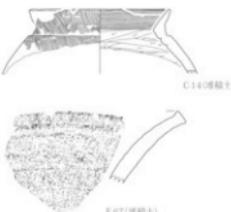
SI215出土土器



0 (1:6) 20cm

5bi～ii期(郡山Ⅱ期官衙期～郡山Ⅱ期官衙期以降)

SI220出土土器



第 86 図 出土土器集成 (5a～bi期)

西台堆積第12次調査 穴穴式居跡の属性一覧 (1)

住居 番号	F' (F')	平面形状・版模		輪方位		カマド			煙道部			その他の施設	時期 区分	備考	
		平面 形状	縦幅 ×横幅 (mm)	床面 標高 (m)	方位	算出 基準	付置 位置	燃焼部 位置	被構築材 ※()は木材	長さ (m)	底面	煙出し			
SE213	2	方形or 長方形	(316) (307)	10.47	N-36°-W	西壁	-	-	-	-	-	-	-	4・5	南西部周辺を検出。
SE214	1・2	鋼丸方形 or鋼丸 長方形	(457) (188)	10.45	N-11°-W	西壁	-	-	-	-	-	-	振り方から土坑2基	4・5	南西部周辺を検出。
SE215	2・5 6・8	方形	445 (420)	10.34	N-8°-E	カマド	北壁	不明	不明	(113)	一段 下がる	ビット 状	床面から貯藏穴1基と 振り方付近土坑1基	5b 以降	全体的に削平。 西壁消失。
SE216	1・4 5・7	方形	(976) × (628)	10.51	N-26°-W	カマド1	北壁	不明	不明	1.099 × 2.500	①下る ②平昭	①- ②-	振り方付近土面及 び隣接内から貯藏 2基と土坑1基	5a 以降	全体的に削平。北東隅のみ 残骸が残存。建て替え有 り。
SE217	8・9 11・12 15	方形	577 (544)	10.29	N-37°-W	カマド	北壁	内	盛土 (土質泥質)	138	平昭	-	床面から貯藏穴1基、 床面・振り方付近 カマド間連土坑7基	5a	埋積土から時期の異なる 遺物が出土。
SE218	2・5 8	方形	461 (429)	10.27	N-28°-W	東壁	-	-	-	-	-	-	床面・振り方付近床 面・振り方から 土坑各1基	5a～ b 以降	全体的に削平。西半部の床 面及び壁面消失。
SE219	10・14 18	方形	552 (526)	10.40	N-25°-W	東壁	-	-	-	-	-	-	床面から土坑2基	4a～ b 以降	全体的に削平。由半部床面 及び西壁消失。
SE220	10・14 15	方形	372 (333)	10.33	N-0°	カマド	北壁	やや外	盛土	-	-	-	-	5b ～ f 以降	西半部中央部床面及び西壁、 カマド東半部消失。
SE221	18	方形or 長方形	(220) (212)	10.17	N-31°-W	東壁	-	-	-	-	-	-	床面から貯藏穴1基	4・5	北東部周辺を検出。第6次 調査SE3と同一直通。
SE222	15・16	方形or 長方形	(289) × (187)	10.53	N-30°-W	西壁	-	-	-	-	-	-	-	5a 以降	振り方のみ検出。東半部消 失。
SE223	12・15 16・20	方形or 長方形	(481) (273)	10.21	N-25°-W	カマド	北壁	内	盛土	-	-	-	-	5a 以降	東半部。カマド東半部消 失。
SE224	7・8 10・11	方形or 長方形	497 (417)	10.31	N-58°-E	カマド	南壁	やや外	盛土 (廻灰窓 切石)	(102)	下る	-	床面から貯藏穴1基、 土坑1基	5a	北半部。カマド燃焼部北半 部消失。
SE225	8・10 11・15	方形	641 (638)	10.13	N-40°-W	カマド	北壁	内	盛土	-	-	-	床面から貯藏穴2基、 土坑6基。振り方から 土坑2基	4b ～ 5a	北壁東部・東壁消失。カマ ド上部削平。
SE226	10・14	方形or 長方形	(375) × (109)	10.43	N-38°-W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	4a～ b 以降	北東端及び東壁付近検出。
SE227	8・11 12・15	方形or 長方形	(554) (370)	10.29	N-47°-E	南壁	-	-	-	-	-	-	床面から土坑1基	4b	大半が振り方の残し。南壁 付近のみ床面残存。
SE228	10・14	方形or 長方形	(343) × (342)	10.56	N-35°-W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	4a～ b 以降	北壁と南壁及び南東隅付 近の振り方のみ検出。
SE229	5・8	方形or 長方形	430 (421)	10.19	N-33°-W	カマド1	北壁	不明	不明	(150) ① ② (140)	①起伏 ②起伏	①- ②-	床面・振り方から貯藏 穴3基。床面・振り方か ら土坑3基	5a～ b 以降	北壁大半と西半部消失。 大半が消滅。
SE230	2・5 6・8	方形or 長方形	(644) × (625)	10.24	N-28°-W	カマド	北壁	やや外	盛土	-	-	-	床面から貯藏穴1基、 土坑1基	4a～ b 以降	西部と南部の大半が消失。
SE231	5・8	方形or 長方形	(322) (102)	10.31	N-40°-W	西壁	-	-	-	-	-	-	-	4a～ b 以降	南側から南壁付近残存。
SE232	8	方形or 長方形	(292) × (130)	10.36	N-17°-W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	4a～ b 以降	南側周辺の振り方のみ 検出。
SE233	2・5 6・8 8・9	方形	(630) (627)	10.29	N-35°-W	西壁	-	-	-	-	-	-	床面から土坑1基	3	北西部と南東部を消失。
SE234	2	方形or 長方形	(698) × (559)	10.61	N-53°-W	西壁	-	-	-	-	-	-	-	4・5	南西部周辺を検出。

西台烟遺跡第12次調査・竪穴住居跡の属性一覧(2)

住居 番号	Y(H) [m]	平面形状・規模			袖方位		カマド			煙道部			その他の施設	時期 区分	備考
		平面 形状	長軸 短軸 (cm)	床面 標高 (m)	方位	算出 基準	付設 位置	燃焼部 位置	袖構築材 等(木・竹)	長さ(cm)	底面	埋出し			
SI235	9	方形or 長方形	(113) (82)	10.09	N-26°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	5a～ bi	北西隅付近を検出。
SI236	12	—	—	—	—	—	—	—	(28)	—	—	—	—	5a 以前	煙道部の埋出し部分のみ検出。
SI237	11+12 15+16	方形or 長方形	(313) (305)	10.18	N-52°-E	北壁	—	—	—	—	—	—	—	5a 以前	北壁付近と西壁の一部、床面施設のみ検出。
SI238	9	方形or 長方形	(97) × (31)	10.16	N-35°-E	西壁	—	—	—	—	—	—	—	5a～ bi 以前	南西隅付近を検出。
SI239	19+22	方形or 長方形	538 × (269)	10.22	N-4°-E	東壁 柱穴、 周溝	—	—	—	—	—	—	—	3	北平部検出。
SI240	15	方形or 長方形	(102) × (65)	10.38	N-53°-W	南壁	—	—	—	—	—	—	—	5a 以前	南西隅付近を検出。
SI241	15+16	方形or 長方形	(236) (109)	10.42	N-21°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	5a 以前	南西部床面と東平部が消失。
SI244	11+15	方形	455 × 427	10.31	N-43°-W	西壁	地床か 長×短×深さ(cm) 46×46×6		—	—	—	—	—	3	南・東壁の大半と東・西壁 の一部が消失。
SI245	11+12 15+16 19+20	方形	(973) × (554)	10.40	N-32°-W	腹り方 残存部	—	—	—	—	—	—	—	3	南西及び北東部の一部を検出。
SI246	8+11	方形or 長方形	(298) × (138)	10.39	N-3°-W	東壁	—	—	—	—	—	—	—	4a～ b	東壁付近の腹り方のみ検出。
SI247	8+9 11+12	方形or 長方形	(627) × (601)	10.24	N-37°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	—	3	南東及び北西部の一部を検出。
SI250	2+5	方形or 長方形	(263) × (187)	10.33	N-51°-E	南壁	—	—	—	—	—	—	床面から約60cm	3	南西部壁面を検出。

※平面形状・規模について、()は現存値を表す。

※床面標高は、各住居跡における最も低い位置を示した。

※カマド燃焼部位置は、壁面の内部に構築されるものを「内」、壁面の外側に1/2程度張り出すものを「やや外」、全体が張り出すものを「外」とした。

※煙道部底面の「下」の記述は、検出し方向を指す。

5bi～ii期 古墳時代終末期～奈良時代、7世紀末葉～8世紀前葉（郡山II期官衙期～郡山II期官衙期以降）

SI220は出土土器の様相から、5bi～ii期以降と時期幅をもたせた。調査区中央部に位置し、主軸方向はN-0°で北を指向している。平面形状は方形又は長方形と推定される。検出された規模は3.72 mであり、柱穴や周溝、貯蔵穴などは検出されていない。カマドは北壁に位置し、煙道部の形態は上部が削平されているため不明である。袖にはにぶい黄褐色・褐色砂質シルトで構築され、燃焼部の火床面から丸瓦の破片が出土している。カマド前方の堆積土中からは、埋没途中の投棄と考えられる土器と多量の礫がまとまって出土している。

第2節 まとめ

西台烟遺跡第12次調査で調査された竪穴住居跡は、3期（古墳時代前期、塩釜式期）、4a～bi期（古墳時代後期～終末期6世紀末葉～7世紀前葉、住社式期新段階～栗団式期）、5a～bi期（古墳時代終末期、郡山I～II期官衙期）の三時期に大別される。最後に本調査における集落変遷において概観し、まとめとしたい。

今回の調査において、3期の竪穴住居跡6軒などの遺構が検出された。これまでの調査成果によると、本調査区の北方に隣接する第7次調査（17街区）において当該期の住居跡が3軒報告されており（仙台市2013）、今回の

調査によって古墳時代前期の集落が遺跡内の南部に拡がっていることが明らかとなった。後続する古墳時代中期の遺構は、これまでの調査成果同様検出しておらず、遺跡内における人々の活動の痕跡が認められなくなる。隣接する長町駅東遺跡では、5世紀後半の引田式期の住居跡が確認されている（仙台市2014）。

西台畠遺跡において次に集落が確認できるのは、4a期（古墳時代後期6世紀末葉・住社式期新段階）である。今回の調査では、4a～b期と考えられる竪穴住居跡が8軒検出された。遺物では鬼高系土師器（南小泉型関東系土器）が少量伴っている。なお、鬼高系土師器は遺構の重複が激しいことから後続する時期の竪穴住居跡の堆積土や掘り方にも混入している。

5～bi期は、本調査区における集落の主体となる時期である。重複関係が激しく残存状況もよくないことから、遺物がまとまって出土している例が少なく詳細な時期の特定は困難であるが、概ね当該期に包括されると考えられる。遺物では北武藏型土師器（清水型関東系土器）も僅かに伴っているが、数量は鬼高系土師器より少ない。また、当該期以降とした竪穴住居跡についても、5bi期（奈良時代・郡山II期官衙期以降）の遺物がほとんど出土していないことなどから、5期に収まるものと考えられる。

今回第12次調査で、これまでの西台畠遺跡の調査例の中で検出例の少ない3期の集落が確認されたことは特筆されることである。後続する4～5期の遺構・遺物については、郡山官衙と周辺の集落跡の盛衰は連動しており、官衙機能が多賀城に移転する時期になると、西台畠遺跡においての遺構・遺物の検出が激減しているといふこれまでの調査成果に概ね一致する成果が得られたといえる。

引用・参考文献（五十音順・敬称略）

- 伊藤玄三 1958 「仙台市西台畠出土の弥生式土器」『考古学雑誌』44－1
1993 「仙台市西台畠弥生時代墳墓の再検討」『法政考古学』第20集 法政考古学会
菊池佳子 1994 「多賀城以前の陸奥国と須恵器」『歴史』第82号 東北史学会
工藤信一郎 2008 「長町駅東遺跡・西台畠遺跡の調査から」『第34回古代城柵官衙道路検討会資料集』古代城柵官衙道路検討会
2010 「長町駅東遺跡・西台畠遺跡の集落について」『宮城考古学』第12号 宮城県考古学会
国士館大学考古学会編 2009 「古代社会と地域間交流—上師源からみた関東と東北の様相—」六一書房
仙台市教育委員会 2005 「郡山遺跡発掘調査報告書—総括編ー」仙台市文化財調査報告書第283集
2007 「長町駅東遺跡第4次調査」仙台市文化財調査報告書第315集
2008 「長町駅東遺跡第1・2次調査」仙台市文化財調査報告書第324集
2009 「長町駅東遺跡第3次調査」仙台市文化財調査報告書第340集
2010 「西台畠遺跡第1・2次調査」仙台市文化財調査報告書第359集
2010 「沼向遺跡第4～34次調査」第9分冊 仙台市文化財調査報告書第360集
2011 「西台畠遺跡第3次調査」仙台市文化財調査報告書第388集
2013 「西台畠遺跡第4・5・7・9次調査」仙台市文化財調査報告書第411集
2013 「郡山遺跡第167・180・196次調査」仙台市文化財調査報告書第412集
2014 「長町駅東遺跡第5・6・7・9次調査」仙台市文化財調査報告書第421集
2014 「長町駅東遺跡第10・11次調査」仙台市文化財調査報告書第422集
2014 「長町駅東遺跡第13次調査」仙台市文化財調査報告書第423集
2005 「東北古代土器集成—古墳後期～奈良・集落編ー＜宮城＞」研究報告2
奈良文化財研究所 2003 「古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編」
2004 「古代の官衙遺跡Ⅱ 遺物・遺跡編」
村田晃一 2000 「飛鳥・奈良時代の陸奥北辺—移民の時代ー」『宮城考古学』第2号 宮城県考古学会
2007 「v・宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学文学部